愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第142集

上品野蟹川遺跡
（かみしなのかにかわいせき）

2008

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

瀬戸市の北東部に広がる通称、品野盆地には、縄文時代から近世まで数多くの遺跡が分布しています。現在は多治見や中津川方面へ抜ける国道の分岐があり、また古くは信州方面へ抜けるルート、「中馬街道」が通っていたことからもわかるように交通の要衝でもあります。

この辺りの奈良・平安時代の集落の発掘調査では、これまでにも墨で文字の書かれた墨書資料が度々見つかっています。「文字」に接することが限られていた時代に品野地域の人々がどのような形で文字と接していたのか、どのような特殊な場所であったのか、多くの疑問がまだまだ残されています。こうした埋蔵文化財の調査成果が、地域の文化・歴史研究を深めていくための資料として活用していただければ幸いです。

この度の発掘調査の実施にあたり、関係者並びに関係諸機関の多大なる御協力をいただきました。

ここに厚く御礼を申しあげます。

平成 20 年 3 月

財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長　林　良三

例言

1. 本書は愛知県瀬戸上品野町に所在する上品野蟹川遺跡（かみしなのかにかわいせき：県遺跡番号030737） の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、国道 363 号道路改良工事に伴う事前調査として、県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査面積は計 10,359 ㎡である。
3. 発掘調査は平成 11 ～ 14 年度にかけて、合計 4 次に亙り実施した。また、整理および報告書作成作業は平成 18 年 4 月から 9 月にかけて実施した。
4. 現地における発掘調査は、北村和宏（主査：現愛知県埋蔵文化財調査センター）・服部信博（主査：現一宮興道高等学校教諭）・藤岡幹根（主査：現小牧市一色小学校教諭）・酒井俊彦（主査）・魚住英史（調査研究員：現瀬戸市品野台小学校教諭）・宇佐　見守（調査研究員）・木川正夫（調査研究員：現岡崎高等学校教諭）・武部真木（調査研究員） が担当して行った。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、瀬戸市教育委員会、（財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター、瀬戸市歴史民俗資料館、県建設部道路建設課をはじめとして、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の執筆は、鬼頭　剛・川添和暁・武部真木が分担し、編集は武部が行った。
7. 整理作業は武部が担当した。作業にあたっては下記の方々、関係機関の助力を得た。
   服部里美、山田有美子（以上整理作業員）、アイシン精機株式会社、中日本航空株式会社
8. 本書に示す座標数値は座標数値は国土交通省に定められた平面直角座標第 Ⅶ 系に準拠する。海抜表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。ただし表記は旧測地系（日本測地系）とした。
9. 遺物の登録は、本書図版の掲載番号を元に整理を行った。
10. 写真および図面などの調査に関わる記録類は、愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
   （財）愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
   〒 498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24（ 0567-67-4161）
11. 出土遺物は、愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
   〒 498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24（ 0567-67-4164）
12. 本書を作成するにあたり、下記の多くの方々から多大なご指導とご助言を得た。
   記して感謝したい。　（敬称略）
   岡本直久、尾野善裕、金子健一、楢崎彰一、福岡猛志、藤澤良祐、山下峰司

目次

第１章　調査の概要

１　調査の経緯・経過　（武部）……1
２　上品野蟹川遺跡周辺の地形・地質　（鬼頭）……3
３　遺跡の概要　（武部）……5
　上品野蟹川遺跡の位置と周辺遺跡
　品野盆地の遺跡分布
　上品野蟹川遺跡のこれまでの調査

第２章　遺　構

１　調査範囲の概要　（武部）……10
２　基本層序　（武部）……10
３　蟹川右岸域　（武部）……12
４　蟹川左岸域　（武部）……20

第３章　出土遺物

１　出土状況の概要と時期区分　（武部）……29
２　遺構出土の土器・陶器　（武部）……29
３　包含層出土の土器・陶器　（武部）……34
４　木製品　（武部）……50
５　金属製品・石製品　（武部）……57
６　石器　（川添）……57

第４章　総括　（武部）……64

付表
　登録遺物（土器・陶磁器類）一覧表
図版
　遺構図版
　写真図版
付録 CD-ROM 内容
　報告集 PDF
　登録遺構一覧表
　登録遺物一覧表
　出土地点情報

図版目次

写真図版１　1,2,3,4- 調査前風景（99,00,01 区周辺）
5,6,7- 遺跡周辺遠景
写真図版２　8-01A 区全景（NR01）東から
9-01B 区全景　東から
10-01Ca 区全景（NR03）東から
11-01Ca 区礫層露出部分
12-00B 区全景（NR01）東から
13-01Cb 区全景（NR01,03）南から
14-01Cb 区近景（NR01,03）南から
15-01D 区全景（NR02）北から
写真図版３　16-02B 区東半全景　西から
17- 自然木集中地点
18-02B 区西半全景　南から
19- 杭列検出状況　東から
20-01A 区溝状落込み（SD01）完掘状況
21-01B 区北壁土層断面
写真図版４　22-99 区全景　北から
23-,00A 区遠景　南西から
24-00A 区全景　北から
25-00A 区部分　東から
写真図版５　26,27,28- 竪穴建物（01A 区 SB01）検出状況
29- 竪穴建物（01A 区 SB01）完掘状況
30-00A 区土坑（SK53）遺物出土状況
31-00A 区土坑（SK53）土層断面
写真図版６　32,33,34- 竪穴建物カマド部分（00A 区 SB01）
35-01Ca 区土坑（SK01）上層集石検出状況
36-01Ca 区土坑（SK01）下層遺物出土状況
37-01Ca 区土坑（SK01）完掘状況
写真図版７　38-00A 区土坑（SK107）遺物出土状況
39-00A 区土坑（SK109）遺物出土状況
40-00A 区土坑（SK125）遺物出土状況
41-00A 区土坑（SK48）遺物出土状況
42-99 区土師器甕出土状況
43- 01Cb 区河川流路（NR01,03）完掘状況
44-01Cb 区河川流路（NR03）木質遺物集中地点

45-01Cb 区河川流路（NR01）出土木製品
写真図版８　46,47-01B 区河川流路（NR01）出土鉄鏃
48-00B 区河川流路出土　灰釉陶器平瓶
49-01Cb 区河川流路（NR01）出土　木製品
50-01Cb 区河川流路出土 「文室門」墨書須恵器
51-01Ca 区河川流路出土　墨書灰釉陶器椀
52-01Ca 区河川流路出土　古瀬戸平碗
53-02B 区河川流路出土　自然木加工痕
写真図版９　54- 表土掘削
55,56,57,58- 作業風景
59,60- 遺跡見学会
61-「文室門」墨書灰釉陶器
写真図版 10　出土遺物（須恵器・土師器）
写真図版 11　出土遺物（墨書須恵器・灰釉陶器）
写真図版 12　出土遺物（墨書灰釉陶器・灰釉陶器皿）
写真図版 13　出土遺物（灰釉陶器椀・水注）
写真図版 14　出土遺物（灰釉陶器椀・山茶碗）
写真図案 15　出土遺物（山茶碗・陶器）
写真図版 16　出土遺物（山茶碗小皿・磨製石斧）
写真図版 17　出土遺物（石器１　石鏃・石核・スクレイパー類）
写真図版 18　出土遺物（石器２　薄片類）

挿図目次

図 1　愛知県瀬戸市の位置 …… 1
図 2　調査区位置図（S=1/4,000） …… 2
図 3　瀬戸市の地形・地質 …… 3
図 4　周辺遺跡分布図（S=1/25,000） …… 7
図 5　蟹川右岸域　基本層序模式図 …… 11
図 6　調査区の配置と土層断面図の位置 …… 12
図 7　00A 区 SB01 遺物出土状態・カマド断面図（S=1/30） …… 14
図 8　00A 区 SB01 平面・断面図（S=1/30） …… 15
図 9　00A 区 SK53・01Ca 区 SK01（S=1/30） …… 16
図 10　00A・00C 区主要遺構図（S=1/200） …… 17
図 11　00A 区 SK48・104・107・109・125（S=1/20） …… 18
図 12　01A 区南北ベルト土層断面図（S=1/80） …… 21
図 13　99 区南北ベルト土層断面図（S=1/80） …… 22
図 14　01B 区東西ベルト土層断面図（S=1/80） …… 23
図 15　01Ca 区北壁土層断面図（S=1/80） …… 24
図 16　00A 区西壁土層断面図（S=1/80） …… 25
図 17　02C 区南壁土層断面図（S=1/80） …… 26
図 18　02Bb 区南壁土層断面図（S=1/80） …… 27
図 19　02Ba 区南壁土層断面図（S=1/80） …… 28
図 20　遺構出土の土器・陶器 1（S=1/3） …… 30
図 21　遺構出土の土器・陶器 2（S=1/3） …… 31
図 22　遺構出土の土器・陶器 3（S=1/3） …… 33
図 23　包含層出土の土器・陶器 1（古代 ,S=1/3） …… 35
図 24　包含層出土の土器・陶器 2（古代 ,S=1/3） …… 37
図 25　包含層出土の土器・陶器 3（古代 ,S=1/3） …… 38
図 26　包含層出土の土器・陶器 4（古代 ,S=1/3） …… 39
図 27　包含層出土の土器・陶器 5（古代 ,S=1/3） …… 40
図 28　包含層出土の土器・陶器 6（古代 ,S=1/3） …… 41
図 29　包含層出土の土器・陶器 7（古代 ,S=1/3） …… 42
図 30　包含層出土の土器・陶器 8（中世 ,S=1/3） …… 45
図 31　包含層出土の土器・陶器 9（中世 ,S=1/3） …… 46
図 32　包含層出土の土器・陶器 10（中世 ,S=1/3） …… 47
図 33　包含層出土の土器・陶器 11（中世 ,S=1/3） …… 48
図 34　包含層出土の土器・陶器 12（古代 , 中世 ,S=1/3） …… 49
図 35　磁器・その他土器・陶器（S=1/3） …… 51
図 36　縄文土器（S=1/2）・土師器（S=1/3） …… 51

図 37　木製品 1（S=1/3）…… 52
図 38　木製品 2（S=1/3）…… 53
図 39　木製品 3（S=1/2）…… 54
図 40　木製品 4（S=1/3）…… 55
図 41　銭貨（S=1/1）・石製品（S=1/3）…… 57
図 42　石器 1（S=2/3）…… 60
図 43　石器 2（S=2/3）…… 61
図 44　石器 3（S=2/3）…… 62
図 45　石器 4（S=2/3）…… 63
図 46　上品野蟹川遺跡出土の古代墨書資料（遺物 S=1/6）…… 65
図 47　推定される河川流路（S=1/3,000）…… 68

挿表目次

表 1　調査の工程…… 2
表 2　周辺遺跡一覧…… 6
表 3　竪穴建物 00A 区 SB01 出土炭化材の樹種同定結果…… 20
表 4　土器付着炭化物の放射性炭素年代測定結果…… 34
表 5　木製品の樹種…… 56
表 6　木製品の放射性炭素年代測定結果…… 56
表 7　出土石器一覧表…… 59

第 1 章　調査の概要

1　調査の経緯・経過

遺跡の所在する瀬戸市は、愛知県北部の中央寄りに位置し、岐阜県と県境を接している（図 1）。

上品野蟹川遺跡（遺跡番号 030737）は、瀬戸市街北東部にかけて広がる、通称、品野盆地の東端に位置している。標高 180m 前後の平坦な遺跡一帯は、主に耕作地（水田・畠）として利用されており、丘陵部裾を流れる現在の水野川と支流の蟹川がこの遺跡の東方で合流している。丘陵を開析して北東から南西へ流れる水野川に沿って国道 363 号が通り、かつて名古屋と信濃方面とを結んだ重要なルートであった中馬街道がここを通っている。

この遺跡範囲内の南側では、（財）瀬戸市埋蔵文化財センターによって平成 7,10 年度に発掘調査が行われ、縄文時代から中世の遺物を含む旧河川跡が検出され、上流域から周辺に集落の存在が推定されている。

今回の調査は、国道 363 号の道路改良工事に伴う事前調査として、愛知県土木部（当時 , 現建設部）道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、（財）愛知県教育サービスセンター　愛知県

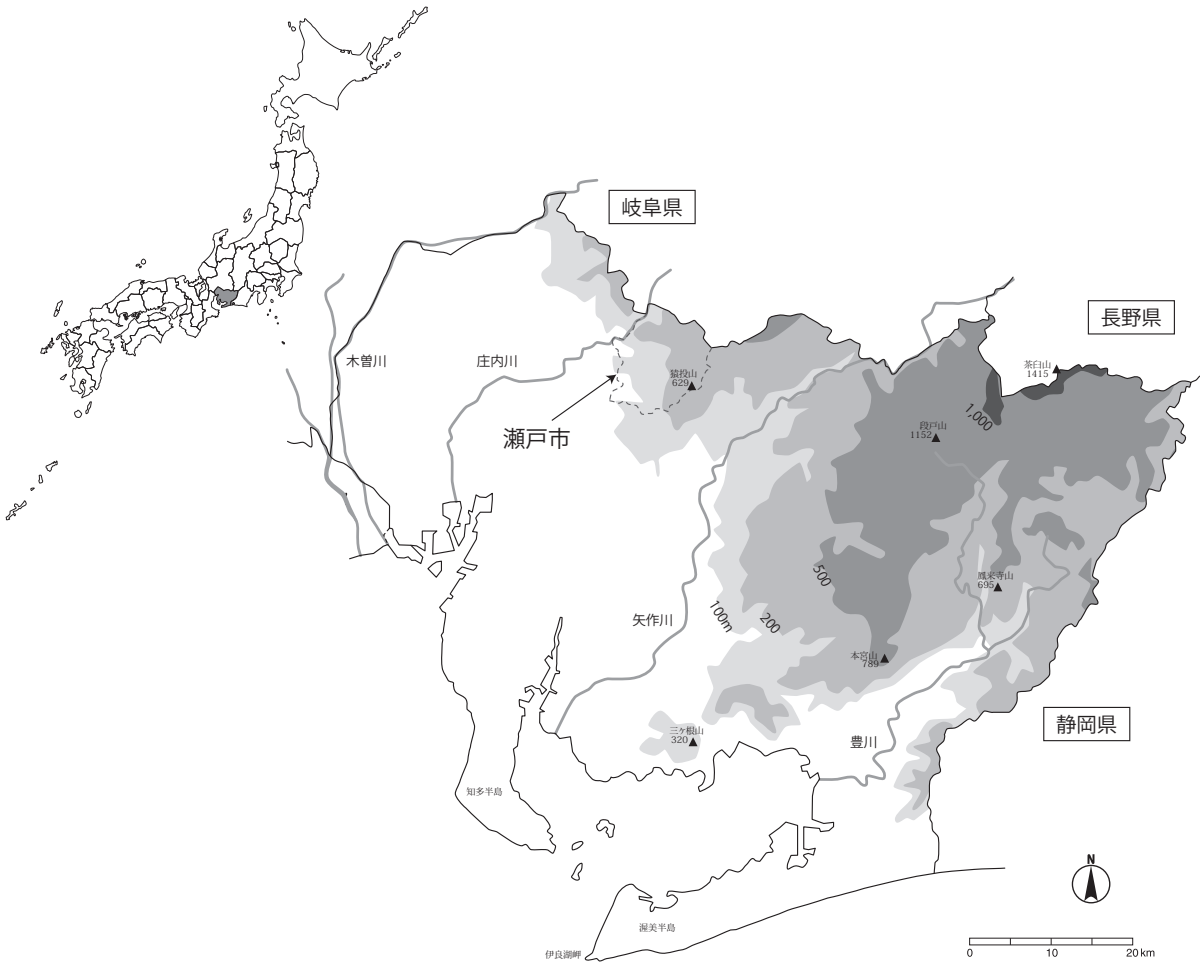


図 1　愛知県 瀬戸市の位置

埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。調査は平成 11 ～ 14 年度にかけての期間で合計 4 次に亙り、面積にして計 10,359 ㎡の範囲について行った。調査の工程、および調査担当者は表 1 に示す通りである。

整理作業、および報告書執筆は平成 18 年度中に行った。執筆は鬼頭　剛・川添和暁・武部真木が分担し、武部が編集を行った。

遺構図の整理･図版作成については､(株)中日本航空に委託して行った。また､遺物実測･図版トレースの一部については（株）シン技術コンサル、（株）アイシン精機に委託して行った。その他の遺物実測及び図版トレース、復元、収納作業等は、当センター整理作業員が行った。

なお、測量図および写真等の調査に関わる記録類は、（財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが、出土遺物等については愛知県埋蔵文化財調査センターが管理･保管している。

表 1　調査の行程

調査年度	調査期間												調査面積（平米）	調査担当者
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1999（平成11）										■	■	■	1,000	北村和宏・宇佐見 守・魚住英史
2000（平成12）							■	■	■				2,000	北村和宏・宇佐見 守・鈴木達也・早野浩二
2001（平成13）							■	■	■	■	■	■	5,500	服部信博・木川正夫・武部真木
2002（平成14）					■					■	■		1,809	藤岡幹根・酒井俊彦
												合計	10,309	

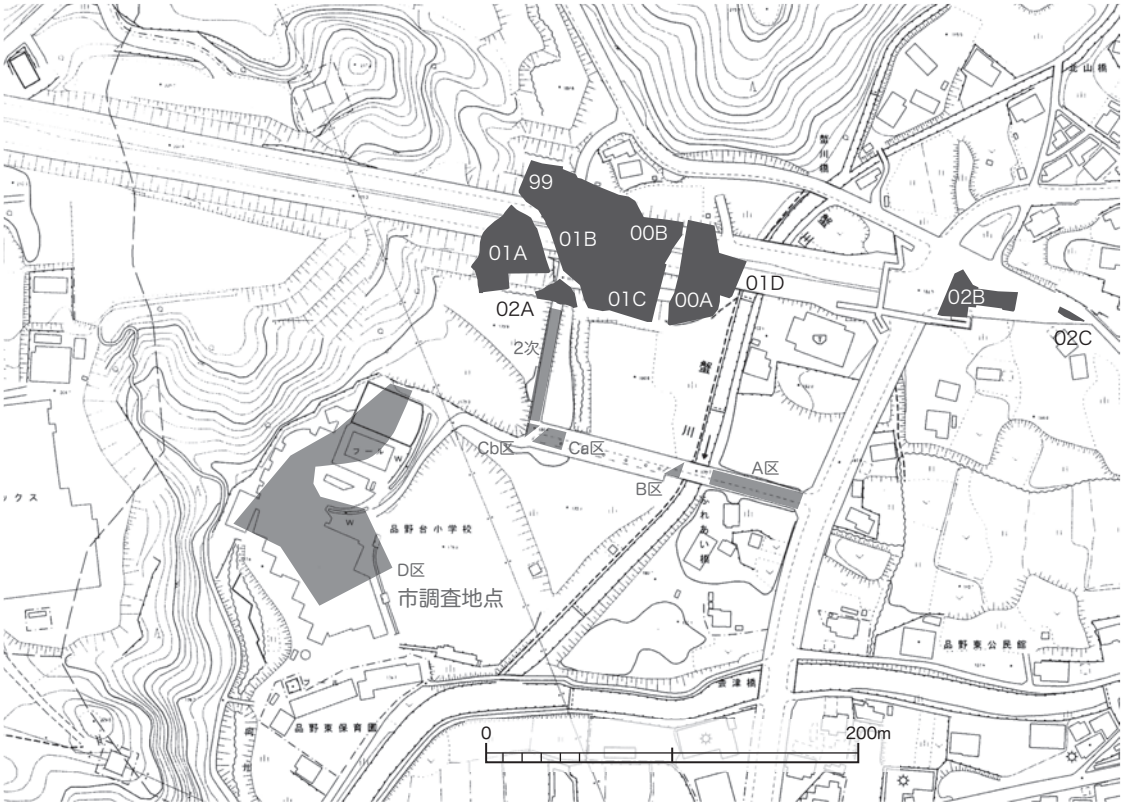


図 2　調査区位置図（S=1/4,000）

平成 18 年都市計画図を使用 , うすいトーンは（財）瀬戸市埋蔵文化財センター調査地点

2　上品野蟹川遺跡周辺の地形・地質

上品野蟹川遺跡は名古屋市の北東部にある愛知県瀬戸市にあり、丘陵地や山地の広がる場所である。調査地点の南東約 6km には標高 629m の猿投山が、東へ約 5km には標高 701m の三国山が連なる。猿投山と三国山とを結ぶ南北方向にのびる山陵は、名古屋市を流れる主要な河川である庄内川や矢田川の分水嶺にあたる。この猿投山と三国山とを結ぶ山陵はさらに南西の知多半島にまでのびており、猿投 - 知多上昇帯とよばれる第四紀を通じて隆起運動が続いた地域として知られている (桑原 , 1968)。調査地点のある瀬戸市上品野町は庄内川の上流部にあたり、調査地の南には庄内川の最上流部にあたる水野川が流れる。水野川は約 4.4km 東方にある猿投山 - 三国山の山陵付近から西方へ流下し、調査地点から西約 7km で蛇ケ洞川と合流する。合流後は庄内川と名称を変えて伊勢湾へとそそぐ。

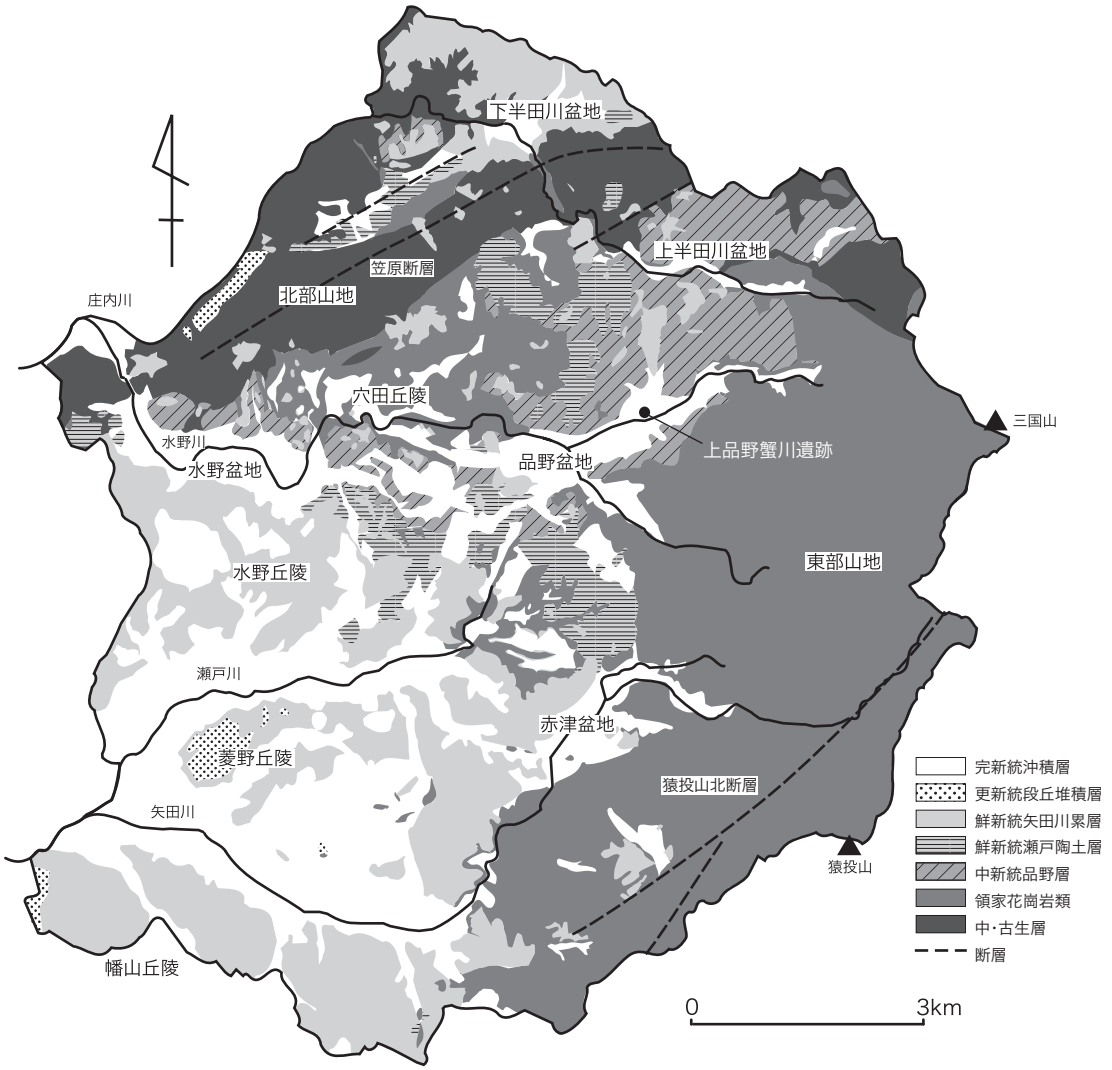


図 3　瀬戸市の地形・地質

（水野ほか 1986『瀬戸市史』資料編二 自然、および愛知県 1997『愛知県活断層アトラス』を引用一部改変）

地質学的にみると、愛知県には三河湾 (渥美湾) にそそぐ豊川付近を通り、長野県の諏訪湖にかけて北東 - 南西方向にのびる中央構造線がある。中央構造線で分けられる太平洋側を外帯 (三波川帯・秩父帯・四万十帯)、陸側を内帯 (領家帯・美濃帯) とよぶ。瀬戸市域には内帯が広がり、美濃帯の中・古生層 (近藤 , 1988) と中生代白亜紀～新生代古第三紀の領家帯の花こう岩類 (仲井 , 1970 ; 領家研究グループ , 1972); Nakai, 1976 ; 仲井 , 1982) を基盤岩として、それらを新生代第三紀中新世後期から第四紀更新世、完新世の堆積物が覆っている。上品野蟹川遺跡のある瀬戸市上品野町周辺は新第三系中新統の品野層からなる丘陵地がひろがる（図 3)。瀬戸市全域の地形は西部で標高が低く、東部へ向かい次第に高くなる傾向を示す。瀬戸市域には基盤岩類に囲まれた盆地状構造を示す地形が認められ、盆地は南から赤津・品野・水野・上半田川・下半田川と呼称される場合もある (水野ほか , 1986). それらのうち調査地点は品野盆地にあたり、瀬戸市片草町から白岩町を通り、上品野町・中品野町、品野町に至る北東 - 南西方向に延びた盆地状構造を呈している。盆地底は標高約 180m の堆積範囲の狭長な谷底平野を形成しており、調査地点は完新統からなる盆地底と新第三系中新統である品野層がつくる丘陵地との境界付近にあたっている。 (鬼頭　剛)

【文献】
愛知県 , 1997, 愛知県活断層アトラス , 愛知県防災会議地震部会 , 83p.
近藤直門 , 1988, 多治見地域 , 日本の地質 5 中部地方 II, 共立出版 , 45-46.
桑原 徹 , 1968, 濃尾盆地と傾動地塊運動 , 第四紀研究 , 7, 235-247.
水野 収・伊藤竹次・深見洋治郎・片 征治・石川輝海 , 1986, I 大地 , 瀬戸市史 資料編二 自然 , 瀬戸市 , 1-100.
仲井 豊 , 1970, 愛知県三河地方の花崗岩類 , 地球科学 , 24, 139-145.
Nakai, Y., 1976, Petrographical and petrochemical studies of the Ryoke granites in the Mikawa-Tono district, central Japan, Bull. Aichi Univ. Educ., (Nat. Sci.), 25, 97-112.
仲井 豊 , 1982, 中部地方領家帯の武節花崗岩 , 日本地質学会第 89 年学術大会講演要旨 , 404.
領家研究グループ , 1972, 中部地方領家帯の花崗岩類の相互関係 , 地球科学 , 26, 1-21.

3　遺跡の概要

＜上品野蟹川遺跡の位置と周辺遺跡＞（表２, 図４）

品野盆地の北東部にあたり、「上品野蟹川遺跡」は蟹川と水野川の合流点を含む沖積地のうち、水野川によって画された北側一帯をさす。すぐ左岸は中世～近世遺物の散布がみられる上品野向橋南遺跡となる。この沖積地を囲む南と東側にあたる丘陵部には古墳～平安時代の建物跡が検出された上品野遺跡、14 ～ 15 世紀の施釉陶器を焼成した中洞窯跡などがある。また、遺跡北東の丘陵上には、戦国期の山城とされる桑下城跡と同時期に操業した桑下東窯跡があり、この麓には中世から近世にかけての集落跡とされる西金地遺跡が展開する。水野川に沿って信濃方面へ向かう旧街道（中馬街道 , 現国道 363 号付近）が通り、対岸となる南側丘陵にも戦国期の山城である品野城跡、そして近世以降の新製焼窯跡（磁器窯）の分布などが確認されている。

近年、品野地域の各地で発掘調査が行われたことによって、新たな資料が提示されてきている。調査継続中・報告書整理途中の遺跡も含まれるが、ここでは現段階での概要として、集落（生産遺跡を除く）に関わる資料についてまとめておきたい。

＜品野盆地の遺跡分布＞

品野盆地で最も古い資料は、**上品野遺跡**で検出された後期旧石器時代の石器群である。丘陵旧地形の「谷状地形」で発見された台形様石器（２点）、「上面平坦部」でナイフ形石器（１点）ほかチャートを主たる石材として利用した石器は、現在のところ県内でも（包含層出土資料として）最古の資料と位置付けられている。品野盆地西端に位置する**品野西遺跡**では縄文草創期に溯る資料として、有舌尖頭器、木葉形尖頭器、尖頭器状石器、打製石斧、ノッチ、掻器、先刃掻器、薄片が一括性の高い組成の石器群として確認されたほか、土器は縄文早期末葉から晩期前半にかけてのものがみられ、断続的ながらも周辺が生活域として利用されたことが窺われる。

弥生時代の資料は瀬戸市域全体でみても少なく、なお不明な部分が多い。明確な遺構は検出されていないが、**上品野蟹川遺跡**では前期の条痕文土器、**上品野遺跡**では前期遠賀川系と中期の土器、**品野西遺跡**では少量ながら中期の土器が出土している。

古墳時代前期の集落については、**落合橋南遺跡**で検出された竪穴住居跡のほか、**上品野遺跡**でも竪穴住居跡５棟と土坑が検出されるなど新たな資料が加えられた。このうち１棟は内部に炭化した建築部材が残り、「焼失家屋」と考えられる。後期の群集墳は**天白古墳群**など主に品野盆地西部に分布が認められるが、蟹川流域では確認されていない。

瀬戸市域は、古代には尾張国山田郡に属するとされる。発掘調査による成果では品野盆地では奈良時代末から平安時代にかけて集落に関連する資料が一気に増加するようであり、この時期より開発が活発化したと考えられている。

上品野遺跡では、平成 8,10 年の調査地点で８世紀後半の竪穴住居１棟、掘立柱建物５棟、溝、土坑などが確認されるなど、南面する丘陵部に展開した集落の一端が明らかにされた。居住域は溝により区画される部分があり、この溝から良好な状態で多くの灰釉陶器碗、皿類、文字資料（墨書灰釉陶器）も多数出土している。昭和 63 年の市調査地点においては、８世紀の馬形や斎串などの木製品、「財万」ほか墨書のある灰釉陶器数点など、やや特殊な遺物が出土した。これらは古代の「官衙的」な祭祀との関連が窺われる一群であり、官衙に関連する建物跡などの遺構は認められないものの、古代に

表２　周辺遺跡一覧

no.	遺跡名	時期
1	上品野蟹川遺跡	縄文～近世
2	上品野向橋南遺跡	中世～近世
3	中洞遺跡	縄文～中世
4	大洞遺跡	弥生
5	上品野遺跡	級石器～近世
6	中品野遺跡	縄文～近世
7	桑下城跡	中世
8	西窯跡	16世紀
9	桑下窯跡	15世紀
10	桑下東窯跡	16世紀
11	上品野桑下B遺跡	中世～近世
12	上品野桑下A遺跡	中世～近世
13	菩提寺遺跡	中世
14	上品野西金地遺跡	中世～近世
15	上品野東山遺跡	中世～近世
16	上品野一ノ瀬南遺跡	中世～近世
17	上品野一ノ瀬遺跡	中世～近世
18	上品野丸山窯跡	15世紀
19	品野城跡	中世
20	上品野A窯跡	15世紀,山茶碗,施釉陶器
21	宇トゲ窯跡	14～15世紀
22	中洞窯跡	縄文～中世
23	品野中部遺跡	縄文～近世
24	鳥原遺跡	古代～近世
25	井山古墳	古墳
26	浄源寺西窯跡	近代,磁器
27	鴬窯跡	14～15世紀
28	浄源寺遺跡	19世紀
29	浄源寺境内遺跡	19世紀
30	鳥原縄文遺跡	縄文
31	窯町E窯跡	18～19世紀,陶器
32	窯町C窯跡	17～19世紀,陶器
33	窯町B窯跡	17～19世紀,陶器
34	窯町A窯跡	17世紀
35	円六窯跡	15～16世紀
36	品野馬場窯跡	19世紀,陶器
37	山崎城跡	中世
38	落合城跡	中世
39	品野町八丁目A窯跡	19世紀,磁器
40	勘介窯跡	16世紀
41	落合橋南遺跡	縄文～近世
42	品野西遺跡	縄文～近世
43	落合窯跡	16世紀
44	天白1号墳	古墳
45	品川北7・8号窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
46	品川北6号窯跡	13世紀,山茶碗
47	品川北1・2号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
48	八床7・8号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
49	八床6号窯跡	13世紀,山茶碗
50	八床5号窯跡	13世紀,山茶碗
51	八床11・12号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
52	八床13・14号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
53	八床18号窯跡	15世紀
54	八床2号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
55	八床21号窯跡	13世紀,山茶碗
56	阿弥陀峰城跡	中世
57	五位塚北窯跡	13世紀,山茶碗
58	五位塚古墳	古墳
59	五位塚F窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
60	五位塚E窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
61	五位塚G窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
62	五位塚H窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
63	五位塚D窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
64	五位塚B窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
65	五位塚C窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
66	境1・2号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
67	五位塚A窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
68	境3号窯跡	不明
69	境4号窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
70	境5号窯跡	13世紀,山茶碗
71	殿原窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
72	馬ヶ城C窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
73	馬ヶ城D窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
74	馬ヶ城B窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
75	馬ヶ城A窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
76	馬ヶ城F窯跡	13・14世紀,山茶碗,施釉陶器
77	針原窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
78	奥白根窯跡・サカイ窯跡	13・17世紀,山茶碗,施釉陶器
79	馬ヶ城E窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
80	馬ヶ城D窯跡	13世紀,山茶碗
81	保手窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
82	帆立北窯跡	13世紀,山茶碗
83	唐三郎窯跡	17～19世紀,施釉陶器
84	窯元B窯跡	19世紀,施釉陶器
85	仙左衛門窯跡	17～19世紀,施釉陶器
86	馬ヶ城P窯跡	19世紀,施釉陶器
87	馬ヶ城N窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
88	井守沢A窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
89	銭亀窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
90	銭東C窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
91	銭東B窯跡	13・14世紀,山茶碗,施釉陶器
92	銭東A窯跡	13・14世紀,山茶碗,施釉陶器
93	大栃C窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
94	大栃窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
95	大栃B窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
96	椿窯跡	13～15世紀,山茶碗,施釉陶器
97	萱原窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
98	馬ヶ城M遺跡	古代
99	五位塚I窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
100	五位塚J遺跡	18世紀
101	馬ヶ城J窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
102	馬ヶ城I窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
103	馬ヶ城K窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
104	馬ヶ城H窯跡	13・15世紀,山茶碗,施釉陶器
105	馬ヶ城Q窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
106	馬ヶ城I窯跡	13～14,15世紀,山茶碗,施釉陶器
107	馬ヶ城跡	中世
108	馬ヶ城窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
109	馬ヶ城G窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
110	留林窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
111	瀬戸城跡	中世
112	馬ヶ城R窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
113	菊畑窯跡	15世紀
114	東古瀬戸A窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
115	井守沢C窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
116	井守沢Ｂ窯跡	15世紀,山茶碗,施釉陶器
117	馬ヶ城S窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
118	水源池西窯跡	13世紀,山茶碗,施釉陶器
119	五位塚K窯跡	13世紀,山茶碗
120	夕日3号窯跡	19世紀,施釉陶器
121	夕日4号窯跡	19世紀,施釉陶器
122	日影窯	17世紀,施釉陶器
123	針原C窯跡	14世紀,山茶碗
124	五葉窯跡	13～14世紀,山茶碗,施釉陶器
125	祢宜窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
126	赤津長根窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
127	神事池窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
128	木下川窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
129	広之田B窯跡	13世紀,山茶碗
130	北山南6号窯跡	13世紀,山茶碗
131	北山南3～5号窯跡	13～15世紀,山茶碗,施釉陶器
132	萱刈窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
133	曽野F窯跡	13世紀,山茶碗
134	曽野G窯跡	14世紀,山茶碗
135	曽野B窯跡	13～14世紀,山茶碗
136	余床E窯跡	13世紀,山茶碗
137	曽野C窯跡	14世紀,山茶碗
138	曽野E窯跡	13～14世紀,山茶碗
139	曽野H窯跡	13世紀,山茶碗
140	曽野D窯跡	14世紀,山茶碗
141	種成5号窯跡	14世紀,山茶碗
142	種成3号窯跡	13世紀
143	余床A窯跡	13世紀,山茶碗
144	余床F窯跡	19世紀,陶器
145	余床B窯跡	14世紀,山茶碗
146	余床C窯跡	14世紀,山茶碗
147	七曲窯跡	14～15世紀,山茶碗,施釉陶器
148	北丘C窯跡	14～15世紀
149	北丘A窯跡	14世紀,山茶碗
150	北丘B窯跡	14世紀,山茶碗,施釉陶器
151	広之田A遺跡	中世
152	上半田川A窯跡	近代,磁器
153	上半田川遺跡	中世～近世

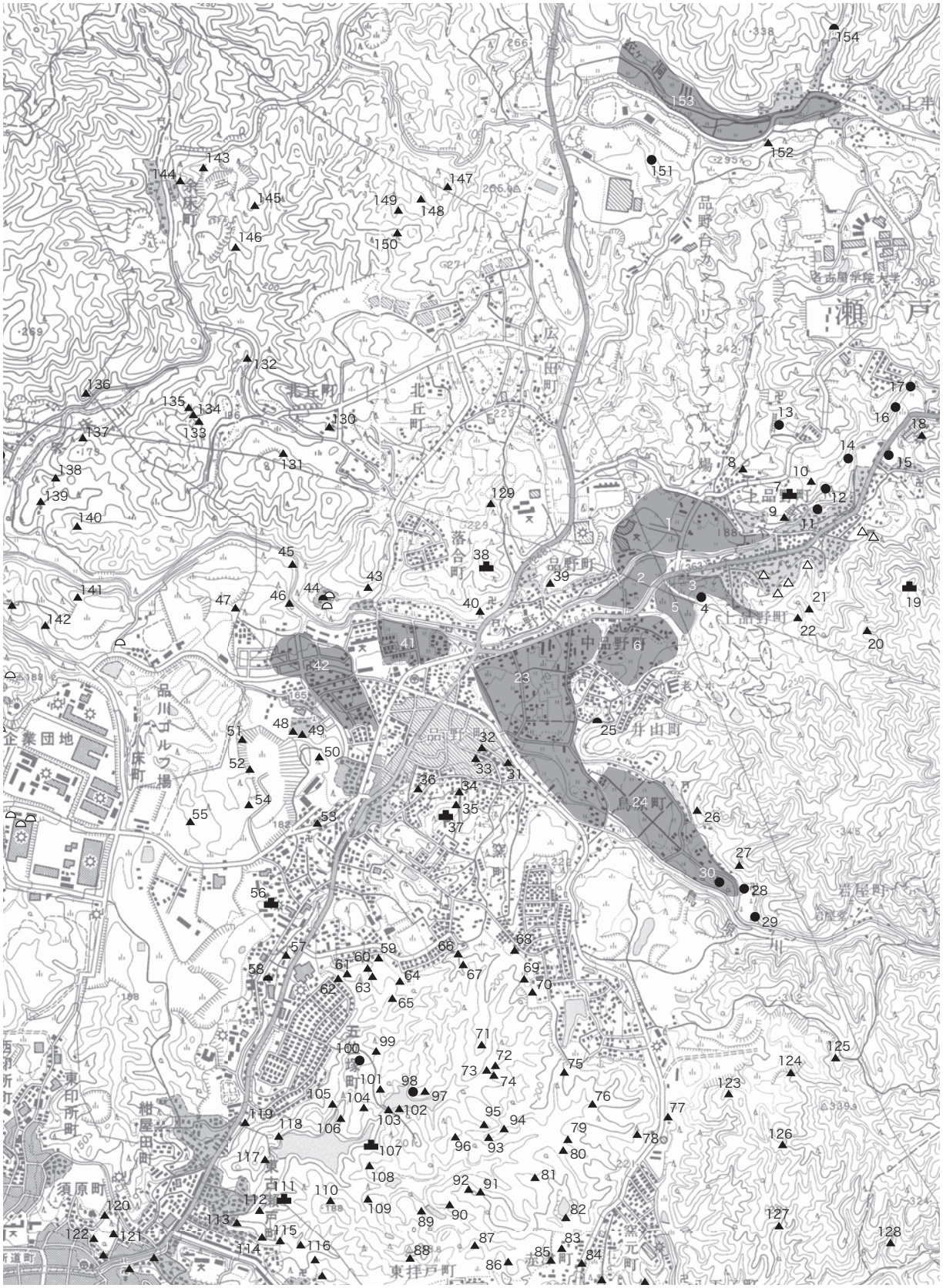


図４　周辺遺跡分布図（S=1/25,000）

おける品野盆地の位置づけを示す資料である。**上品野蟹川遺跡**でも比較的多くの文字資料（墨書灰釉陶器,10 世紀）が得られており、廃棄の状況も含め祭祀行為との関連が想定されている。また、**品野西遺跡**では少量ながら古瓦が出土し、遺構は未確認であるが瓦葺き建物が存在したと考えられる。このうち軒平瓦の簾状重弧文は、7 世紀中葉～後半に位置づけられる一宮市長福寺廃寺、名古屋市尾張元興寺のものに類似する。さらに 8 世紀代には大型の竪穴住居と廂付掘立柱建物で構成される集落が展開する。東濃・信濃への分岐点のある交通の要衝でもあり、遺跡は拠点的な集落の縁辺に含まれるものと想定されている。

中世の段階にも既に一大窯業地域であり、中世陶器は市内多くの箇所で採集されている。ただし品野盆地における集落の様相は未だ明らかでない部分が多い。**落合橋南遺跡**では堀立柱建物 1 棟、柵列 4 条、溝、小穴群が確認され、12 世紀代に成立し 13 世紀まで続いた集落であることがわかった。**品野西遺跡**では、97 基もの土坑と火葬施設が検出され、15 世紀前半～ 16 世紀前半にかけて営まれた墓域が確認された。出土遺物に窯道具類が一定量含まれるという特徴がみられるが、窯業生産あるいは墓域を築造した集落との関係は不明である。

蟹川と水野川に挟まれた丘陵上には**桑下城跡**、**桑下東窯跡**があり、これらと水野川を挟んだ対岸の丘陵上に桑下城の詰城といわれる**品野城跡**が存在する。

記録によると、桑下城は応仁の乱以後に当地を支配するようになった長江氏の居城という。ここは美濃・尾張・三河の領域境に近いため 16 世紀には激しい勢力争いの場となった。享保２年（1529 年）には松平清康に支配が移り、さらに永禄３年（1560 年）桶狭間の戦いの前哨戦として織田信長の攻撃を受け消失、廃城になったとされている。平成 16 年度、この**桑下城跡**の丘陵西端部について発掘調査が行われ、曲輪と思われる平場数カ所が確認された。蓬左文庫所蔵の絵図によれば、調査地点は本丸および侍屋敷の西にあたる地点であり、縄張り図や試掘調査においても城の範囲決定が困難であった。調査の結果は従来の推定より大規模な城郭であった可能性を指摘するものであり、また遺構の残存状況が予想外に良好であることが判明した。発掘調査は今後も継続して行われる予定であり、さらなる調査・研究を経て総合的な評価が示されることになろう。

一方**品野城跡**は、発掘調査は行われていないものの、土塁、虎口、横堀、堀切などの諸施設の痕跡をよく留めていることが知られている。建保年間（1213 ～ 1219 年）の築造とされ、後には桑下城とほぼ同様の命運を辿ったとみられる。

平成 17 年度には、桑下城跡に隣接する**桑下東窯**の調査が行われた。先行する調査で既に確認されている窯体のほか、操業期間や生産内容の詳細なデータが得られたことをはじめ、丘陵頂部に展開する無数のロクロピットや土坑、建物跡等で構成される工房址が検出された。近年、窯跡の調査において、窯体構造の解明に加え、周辺の景観の復元が重要な視点と考えられるようになりつつある。そうした意味でも今回の調査成果は、窯業生産の現場について、大規模かつ具体的に復元する資料が得られた注目すべき発見であり、正式の報告書刊行が待たれる。

＜上品野蟹川遺跡のこれまでの調査＞

平成７,10 年度に（財）瀬戸市埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われている。調査地点は遺跡範囲の南西部にあたり（図 2）、ここでは古墳時代後期の溝（２条）、旧流路（河川１, 河川２）および杭列、側板、木樋を伴う中世段階の水路跡などが確認された。縄文後期～近世までの遺物が各

地点で多数検出され、このうち縄文時代の遺物は流路脇に水流により集積したとみられ、径７ｍ程度の範囲に縄文後期および晩期の土器や炭化物の分布が集中した。その他の地点では晩期初頭、前葉の土器、弥生時代前期の条痕文土器、スクレイパーや石匙、無茎・有茎石鏃などの石器が出土している。古代では８，９世紀を中心とした時期の須恵器、土師器甕類などのほか、出土遺物全体では灰釉陶器が最も多く含まれ､9 世紀代を中心とした平安時代にピークが認められる。ほとんどが包含層（河川流路）からの出土遺物であることから、上流部にこの時期の集落の存在が推定されている。河川性堆積層の上層には鎌倉・室町時代の陶磁器類が含まれる。村絵図により江戸時代には水田となっていたようであるが、流路の周辺で確認された水路遺構は中世段階のものと思われ、一帯の水田化の時期が中世に溯る可能性も考えられる。

【文献】

2005『瀬戸市史　資料編三』
瀬戸市教育委員会　1997『瀬戸市内遺跡詳細分布調査報告書』
岡本直久　1997『品野西遺跡』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第 13 集
松澤和人　1997『落合橋南遺跡 I』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第 14 集
岡本直久・佐野　元　1998『上品野蟹川遺跡―品野台小学校移転に伴う発掘調査―』
（財）瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第 16 集
河合君近　1998『落合橋南遺跡 II』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第 17 集
金子健一　1999『上品野蟹川遺跡 II』（財）瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第 21 集
山下峰司　1990　『上品野遺跡』瀬戸市教育委員会
川添和暁　2004『宇トゲ窯跡・中洞窯跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 124 集
川添和暁　2005『上品野遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 132 集
宇佐見　守　2000「上品野蟹川遺跡」『平成 11 年度　年報』愛知県埋蔵文化財センター
宇佐見　守　2001「上品野蟹川遺跡」『平成 12 年度　年報』愛知県埋蔵文化財センター
武部真木　2002「上品野蟹川遺跡」『平成 13 年度　年報』愛知県埋蔵文化財センター
酒井俊彦　2003「上品野蟹川遺跡」『平成 14 年度　年報』愛知県埋蔵文化財センター
樋上　昇　2005「桑下城跡」『平成 16 年度　年報』愛知県埋蔵文化財センター
小澤一弘・鵜飼雅弘　2006「桑下東窯跡」『平成 17 年度　年報』愛知県埋蔵文化財センター

上　品野城より上品野蟹川遺跡を望む
（遠方中央の直線道路付近が調査範囲）

右　調査前風景

第2章　遺　構

1　調査範囲の概要

合計 10,359 ㎡という広い範囲について、11 調査区（99・00A・00B・01A・01B・01Cab・01D･02A･02B･02C）に分割し、平成 11 年度から 14 年度にかけて断続的に調査を行った（図２，６）。遺構･遺物は全体に希薄であったが、対象地には居住域周辺の環境復元への手がかりが含まれている。はじめに地形上の特徴を中心に調査範囲の状況を素描しておきたい。

調査範囲は（財）瀬戸市埋蔵文化財センター（以下「市埋文」）調査地点の北側にあたる。蟹川の右岸域上流の広い範囲と、間に蟹川を挟んで東に約 100m とやや距離をおく 02B,02C 区の範囲からなり、大きく２カ所の範囲に分かれている（図６）。

蟹川右岸（西側）の一帯は、大部分が後世に水田化された低湿地状を呈する。表土である水田耕作土・床土の下には非常に厚い河川性の堆積層が広範に認められる。ただし、西側と北側には丘陵部末端がせまり、99,01A,01B 区の一部は畑地として路用されていた。溝、土坑（撹乱を含む）、ピットなどが検出されている。また、00A 区では河川流路に囲まれた中州状の微高地に、平安時代を中心とした遺構および包含層が認められた。明確な遺構群はほぼこの地点でのみ確認されている。以上のように蟹川右岸域では、丘陵端部・河川流路・中州状の微高地といった地形が確認された。

一方、蟹川左岸域の調査区（02B,02C 区）は北東から南西に緩やかに傾斜する地形であり、桑下城跡のある丘陵から続く緩斜面および旧蟹川･水野川の影響を受けたと思われる低湿地が確認された。蟹川右岸域とは対照的に、周辺のすぐ東側は丘陵南麓へとつづき宅地化されている。

2　基本層序

詳細には各地点で異なる堆積状況がみられる。ただ蟹川右岸にあたる 99 区、00A・B 区、01A,B,C 区の河川流路を中心に取り上げれば､模式図的に概ね次のような堆積層序を示すことができる(図５)。

Ⅰ層　表土・水田耕作土・床土
Ⅱ層　河川性の堆積物層 1（大量の粗粒砂 , 植物遺体を含むシルト）
Ⅲ層　暗褐色シルト層
Ⅳ層　河川性の堆積物層 2（植物遺体を多く含むシルト～粘土質シルト）
Ⅴ層　河川性の堆積物層 3（礫を含む粗粒砂～シルト , 粘土）
Ⅵ層　基盤層（礫を含む粘土層）

調査範囲の大半は主に水田耕作に利用された部分であり、一筆ごとに段を形成している。Ⅰ層はこの耕作土層をさし、20 ～ 40cm の厚さで水平堆積する。暗灰色から黒色の粘土質シルト～砂質シルトであり、鉄分が凝集する層も認められる。また一部で黄褐色粘土を用い床土に整地している箇所もみられ、これが最も新しい水田と考えられる。丘陵末端付近の斜面にかけて表土の堆積は薄くなっており、00B 区北部などでは畑地が開墾された際に大きく削平を受けている。小片ながら近代以降と

みられる窯道具などが含まれている。

II 層は小礫、粗粒砂、植物遺体、シルトなどを多く含む層が複雑に入り交じり、地点によって大きく様相が異なる河川流路の堆積層である。蟹川右岸域の広い範囲で認められる。砂粒を多く含む 01B 区北部では特に強い流れであったことが窺われる。厚さは 99 区南から 01B 区で最大約 1.4m を測る。この層位の中に複数次の流路の痕跡が認められるが、平面的に復元することが不可能であったため一括して扱っている。

なお、01B 区北部では I 層直下の層位で、大量の長い竹材が平面的に分布する地点が認められた。地域の古老によれば、戦時中、この一帯は湿地状を呈するいわゆる「深田」であったため、作業の際に湿地の泥に竹を踏み沈め足場とする場合があったという。

III 層は古代の遺物が比較的多く含まれる包含層であり、分布は限定的で安定していない。主に 00A 区から 01Ca 区東側にかけての範囲に広がる。この付近の基盤層は高く、水田化される際に削平を受けている。この上に比較的しまりのある黒色シルト層が 5 ～ 20cm 前後の厚さで堆積する。00A 区と 01Ca 区では III 層を掘り下げつつ基盤層で検出を行った。古代の須恵器､灰釉陶器を中心として、若干量の山茶碗片も含まれる。

IV 層は基盤層の窪みに残った古い流路の堆積物であり、黒色のシルト～粘土質シルトが堆積する。下層に植物遺体が大量に集積する個所も認められる。板材を中心とした木製遺物や墨書灰釉陶器の多くがこの層から出土した。III 層と関連しつつ堆積したものと思われる。

V 層は旧地形の谷を埋めた堆積物であり、01 A 区においてトレンチを掘削して調査した。礫 , 粗粒砂を多く含むオリーブ灰色の粘土質シルトであり、均質ではなく、ほぼ粘土に近い部分も存在する。IV 層上位から 1.2m 下の地点で摩耗した縄文土器片数点を採取した。遺存状況が悪く帰属時期は不明確なものが多いが、概ね後期中葉のものと思われる。

VI 層は基盤層である。基本的には北東から南西に緩やかに傾斜をもち、00A 区付近のみやや高くなっている。しまりのある礫混じり粘土のほか、01C 区のように礫層が起伏をもって露出する部分もみられる。

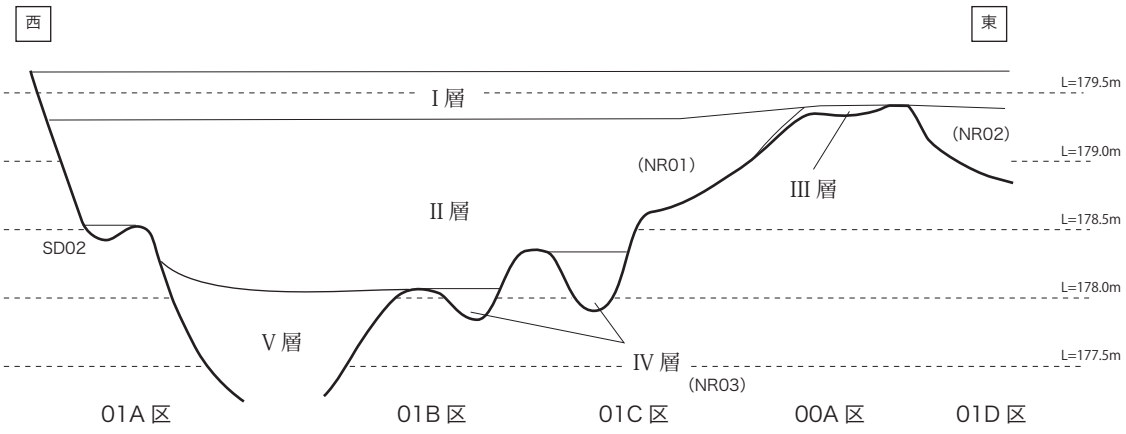


図 5　蟹川右岸域　基本層序模式図

3　蟹川右岸域

＜ 99 区＞

調査範囲の北西端に位置する。自然地形では、北西方向から続く丘陵斜面、および河川流路を含む谷部からなる。

丘陵斜面の最も高いところで標高 181.5m を測る。表土を除去した基盤層において東濃型山茶碗、施釉陶器などを含む中世の土坑数基を検出した。また、流路（NR01）下層の丘陵縁辺に沿うように蛇行する幅 1 ～ 1.5m 規模の溝状の凹みは、下流の 01A 区 SD02 に続くが、自然地形である可能性が高い。完形に近い山茶碗等（35 ～ 40）が出土している。そのほか、基盤層を覆う黄褐色砂礫層から戦国期の陶器類、青灰色粘土質土層で縄文時代石鏃、剥片を採取した。

谷部を埋める堆積物（II 層）は厚く、この中に大量の粗粒砂層の間層が幾筋か認められる。ここから中世陶器（東濃型山茶碗 , 施釉陶器）、木製品などが出土した。青灰色粘土（VI 層 , 基盤層）直上の最下層で古代の須恵器が出土したほか、土師器甕は比較的多く出土した。

＜ 00B 区＞

99 区東側、後述する 00A 区の北西に位置する。自然地形では、北西方向から続く丘陵斜面および河川流路を含む谷部からなる。

丘陵斜面は、最も高いところで標高 181m を測る。表土を除去した基盤層において溝、土坑多数を検出した。出土遺物は、主に中世陶器（山茶碗 , 古瀬戸擂鉢など）、磁器、窯道具類などであり、土坑 SK06 と等高線に沿う方向に伸びる溝 SD02 からは古代の灰釉陶器土師器が出土した。そのほか、ナイフ形石器、剥片、縄文時代石鏃、宋銭を採取した。

谷部は、東側で特に急激に低くなっており調査区内で約 2.5m、丘陵端から約 1.5m の比高差を測る。上層は水田に利用されているが、客土による整地層の下、中位以下は河川性の厚い堆積物（II 層）からなる。最下層には大量の植物遺体が含んだ黒褐色シルト（IV 層）が堆積し、遺存状況の比較的良好な須恵器、灰釉陶器、土師器鍋などが出土した。墨書灰釉陶器数点が含まれる。

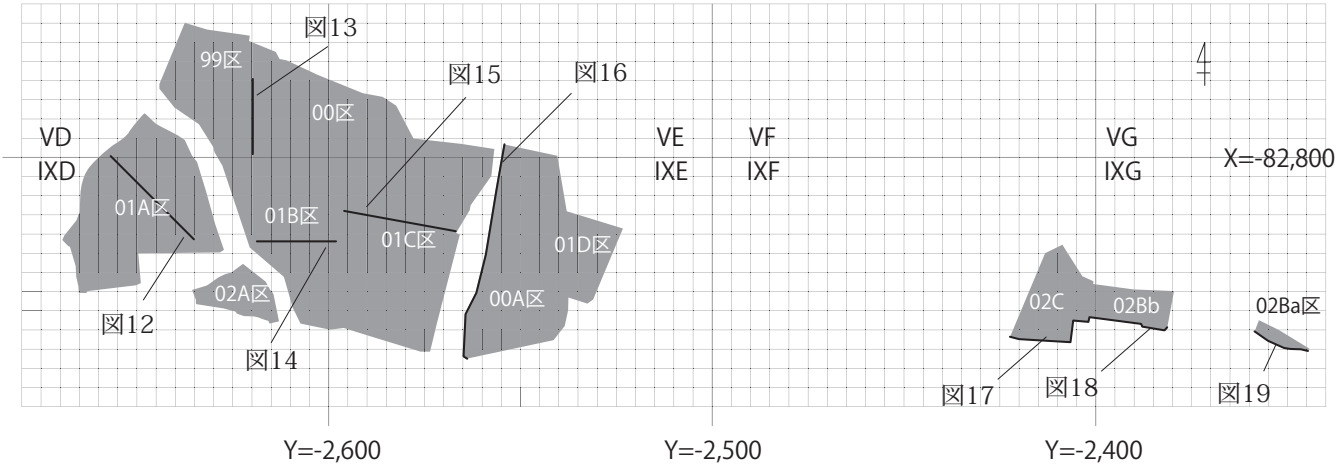


図 6　調査区の配置と土層断面図の位置

＜ 00A 区＞

河川流路に挟まれた微高地上に遺構が分布する。竪穴建物 1 棟、土坑・ピット群、溝 2 条がある。

SB01（旧番号 SK40 , 図 7, 8）竪穴建物は調査区中央やや西寄り、微高地上でも標高の高い地点にあたる。規模・形状は東西 3.55 ×南北 2.55m の隅丸方形を呈し、北辺中央やや東寄りの位置にカマドが付設される。カマドを軸線とした主軸は国土座標軸で北から東に 7 ° ふれる方位である。

床面までの深さは 5 ～ 18cm 程度であり、覆土は基盤層に近いオリーブ黄色シルトに粒状の炭化物、灰色シルト質粘土が斑状に混じり、厚さは 10cm 未満である。床面直上、およびやや上位の位置で炭化した木材片の分布がほぼ全面で確認されている。炭化木材は板状をしたものが多く、一部には組合わせた痕跡が認められるなど、屋根材または壁材の一部と推定される。これらの炭化木材の樹種同定を行ったところ、資料 17 点のうち、針葉樹（ヒノキ・ヒノキ属）が 35.3%、落葉広葉樹（シラキ）5.9%、常緑広葉樹（クスノキ科・サカキ・ヒサカキ）52.9% の結果を得た（表 3）。樹種により加工された形状に違いがみられ、ヒノキ、ヒノキ属は板状かまたは比較的大きな材の一部であった痕跡をとどめるものであり、多くが壁際付近で採取された資料である。サカキ、ヒサカキは直径 2.5 から 5cm の枝材または幹材を丸木や半裁して利用したものがみられる。こちらは床面から若干上位の位置で採取した資料に多く、棟木であった可能性が考えられる（註 *）。

床面には主柱穴が 4 カ所、計 5 基が確認されている。カマドの位置と同様、プランのやや東に偏った配置となっている。貼床は明瞭ではなく、部分的に厚さ 3cm 前後の炭化物の混じるシルト質粘土が床面直上でみられる。カマド焚口の正面には、東西約 1m、南北約 50cm の範囲に薄い炭化物層の広がりが認められる。そのほか、被熱した粘土塊が床面に貼付いた状態で検出された。焼失した壁材の痕跡と思われる。

カマドの平面形は最大幅で東西約 90cm、南北約 100cm を測る。竪穴建物の北辺から三角形に突出する。石材が 3 カ所で検出されており、中央は支脚、その両側は裾部の補強材と思われる。据えられた支脚のすぐ両脇には土師器甕片が埋め込まれている。また、裾部の石材付近にも土師器片多数が検出され、支脚の周囲を中心に濃尾系甕（9 ～ 11）が出土した。

竪穴建物東側中央の床面直上から、ほぼ完形の灰釉陶器椀 1 点が伏せた状態で出土している。廃絶直前の時期を示すとすれば、9 世紀第 2 四半期が想定される（8 ,K-14 号窯式）。

【註】

* 植田弥生（パレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土炭化材の樹種同定」

SK53 は竪穴建物（SB01）の南東に 2.7m 離れた地点に掘削された土坑である（図 9）。規模は 2.6 × 2.35m、深さは 50cm を測る。平面形は隅丸方形、断面は上方が大きく開く U 字状を呈する。埋土の最下層にブロック状の斑土がみられる。一部が短期間に埋められたのち、中位には炭化物を多く含んだ粘土、上位にはシルトが徐々に埋積したようである。中位の粘土層より灰釉陶器が出土した。

SK48 は直径 35cm、深さ 22cm の円形土坑である（図 11）。竪穴建物南側に多数分布する小型の土坑の一つで、建物を構成する柱穴と考えられる。灰釉陶器椀、土師器甕片が出土した。

SK104 は溝 SD02 の南側に多数分布する土坑の一つである（図 11）。径 26cm、深さ 32cm の円形の小型の土坑である。底部には柱を据えたと思われる平坦面をもつ礎石が置かれていた。遺物は含ま

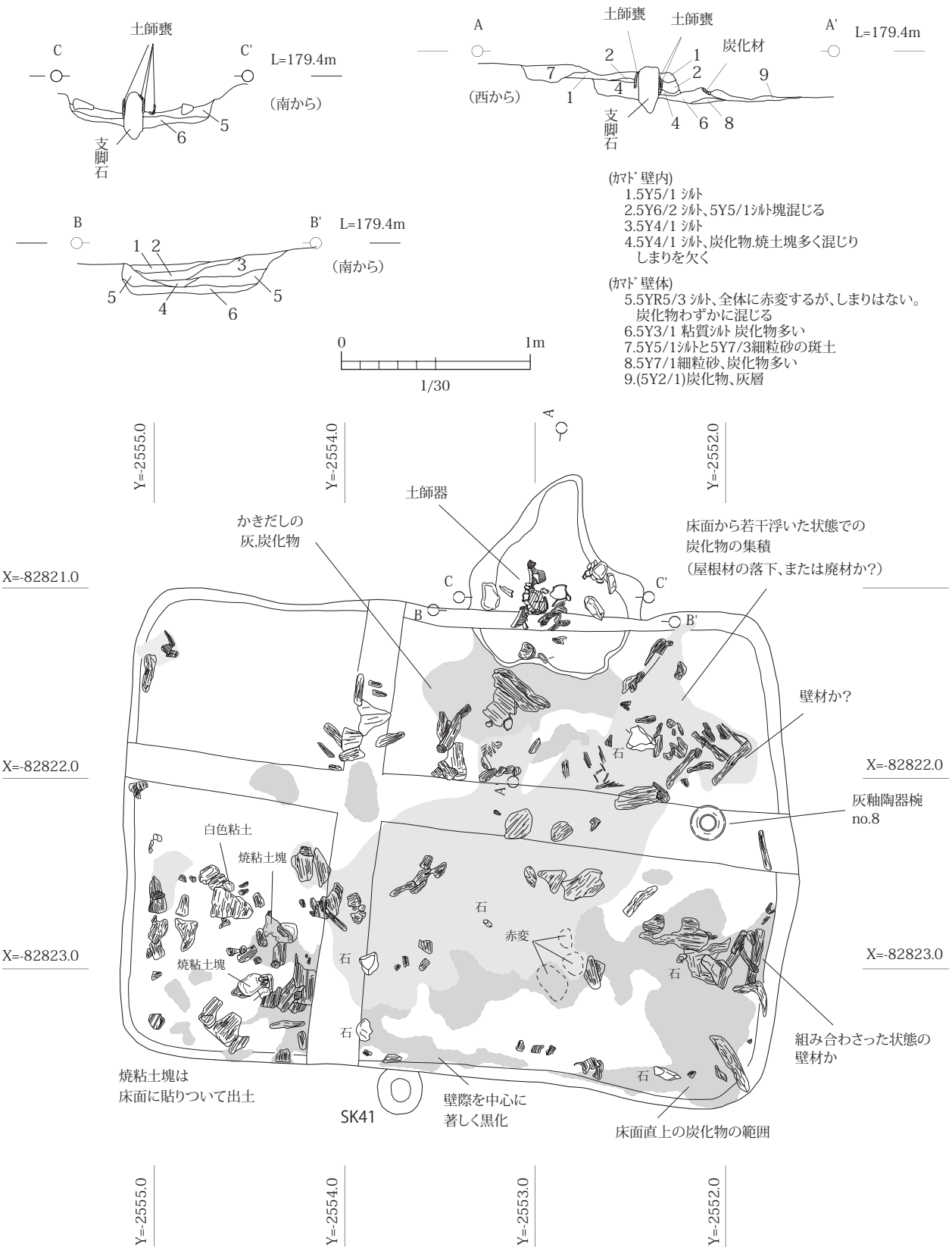
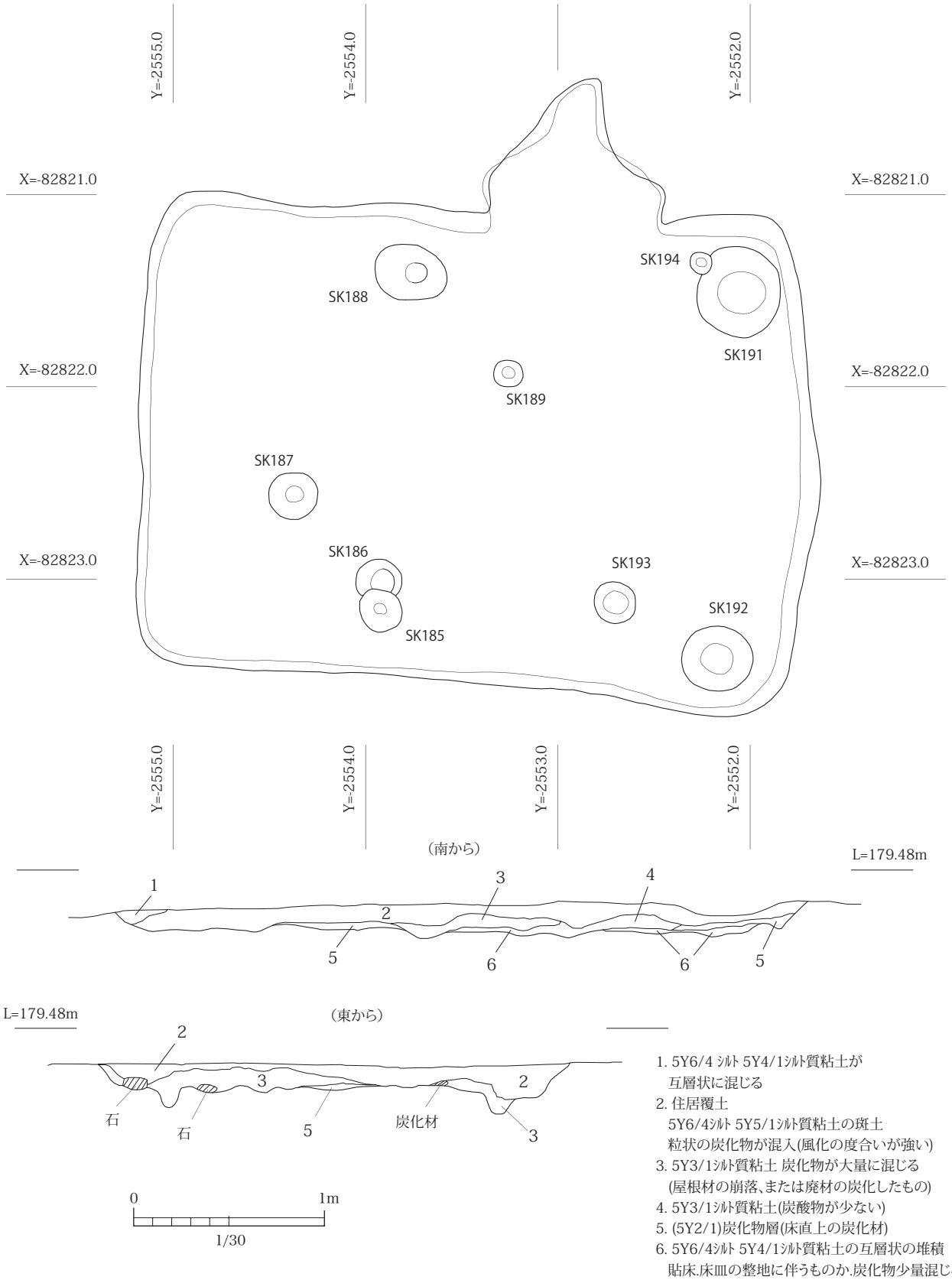


図 7　00A 区 SB01 遺物出土状態・カマド断面図（S=1/30）



1. 5Y6/4 ｼﾙﾄ 5Y4/1ｼﾙﾄ質粘土が
互層状に混じる
2. 住居覆土
5Y6/4ｼﾙﾄ 5Y5/1ｼﾙﾄ質粘土の斑土
粒状の炭化物が混入(風化の度合いが強い)
3. 5Y3/1ｼﾙﾄ質粘土 炭化物が大量に混じる
(屋根材の崩落、または廃材の炭化したもの)
4. 5Y3/1ｼﾙﾄ質粘土(炭酸物が少ない)
5. (5Y2/1)炭化物層(床直上の炭化材)
6. 5Y6/4ｼﾙﾄ 5Y4/1ｼﾙﾄ質粘土の互層状の堆積
貼床.床皿の整地に伴うものか.炭化物少量混じる

図 8　00A 区 SB01 平面・断面図（S=1/30）

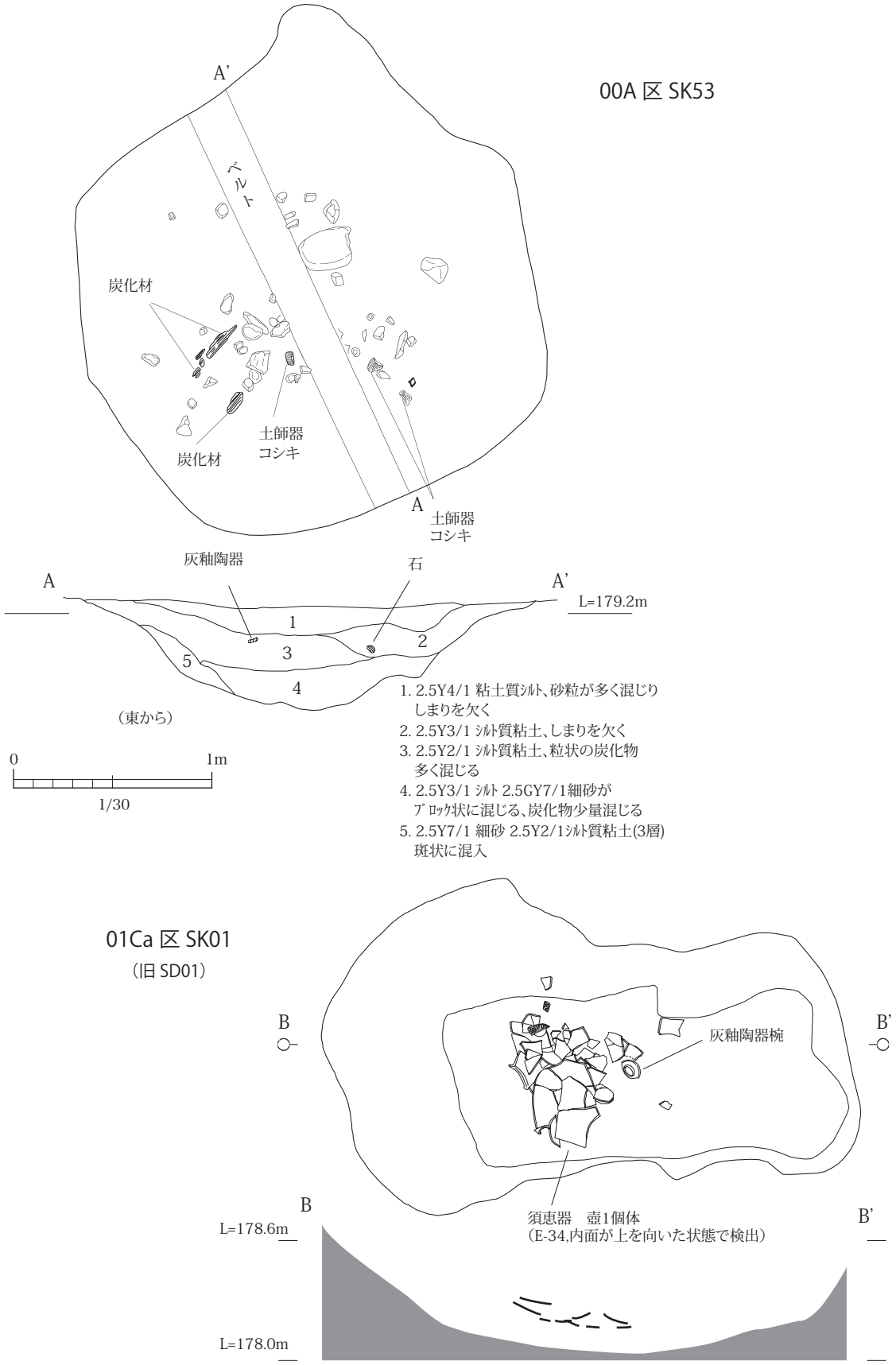


図 9　00A 区 SK53・01Ca 区 SK01（S=1/30）

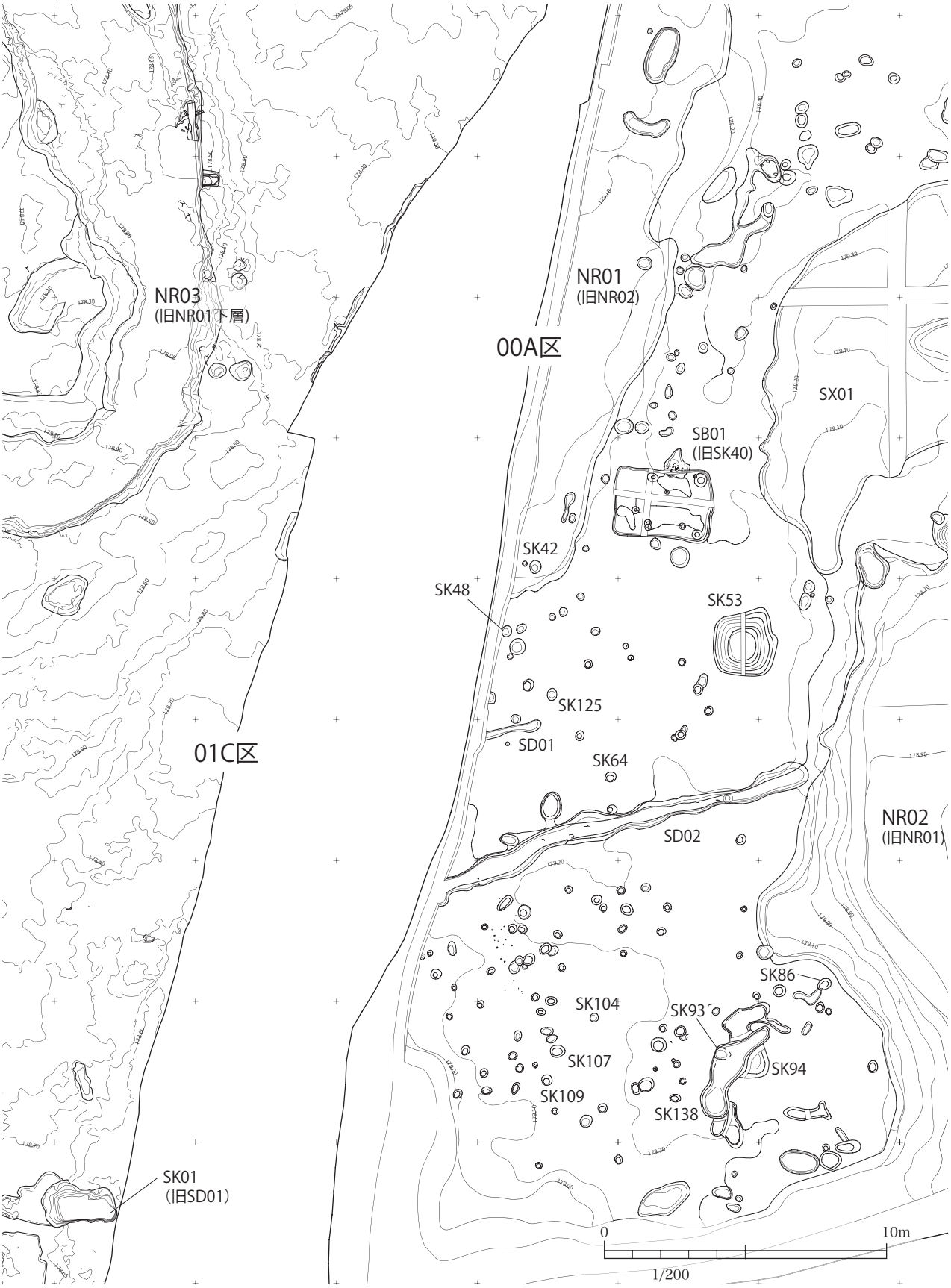


図 10　00A・01C 区主要遺構図（S=1/200）

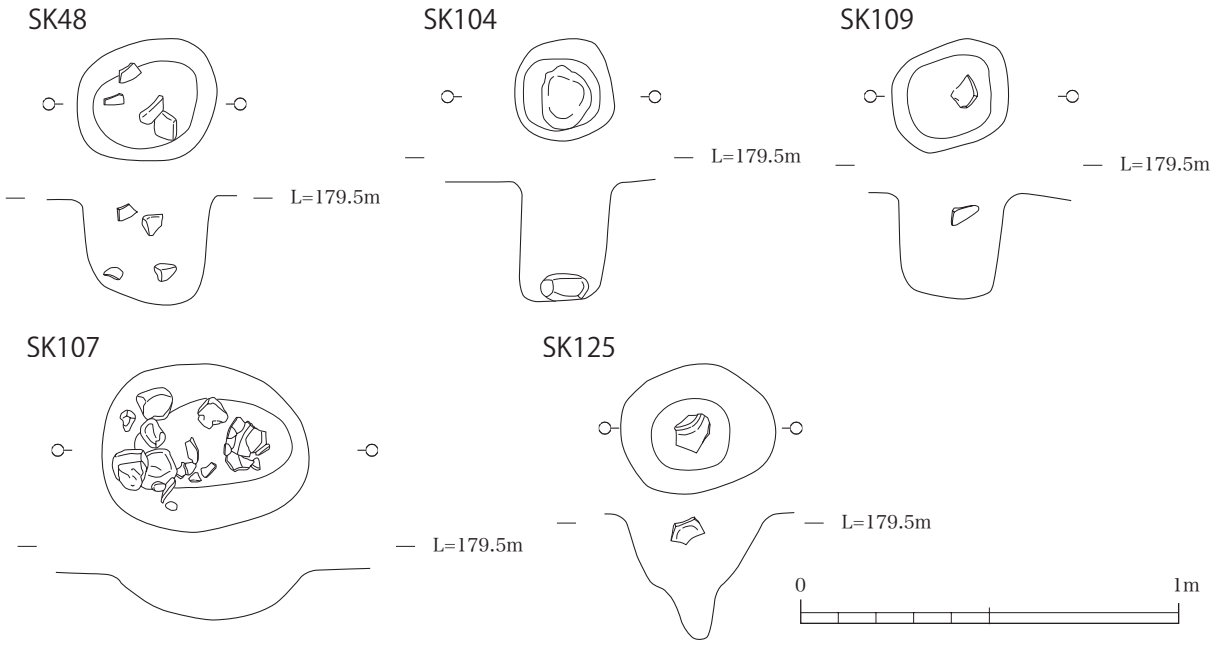


図 11　00A 区 SK48・104・107・109・125（S=1/20）

れていない。

SK107 も溝 SD02 の南側に多数分布する土坑の一つである（図 11）。56 × 44cm、深さ 13cm の円形の浅い土坑であり、底部付近で礫とともに灰釉陶器、土師器甕が出土した。

SK109 は 32 × 24cm、深さ 28cm の円形の小型の土坑である（図 11）。埋土の上位で灰釉陶器瓶類の破片が出土した。

SK125 は溝 SD01 の北側で検出面で 40 × 34cm を測る円形の小型の土坑である（図 11）。深さ 32cm のうち最下層 12cm は柱を据えた痕跡とみられる径約 12cm の凹みとなっている。埋土上位で灰釉陶器椀が出土した。

SD02 は竪穴建物 SB01、土坑 SK53 の南側に位置する（図 10）。幅 55cm ～ 1.2m、深さ 15 ～ 24cm を測る溝であり、12.2m を確認した。微高地を東西に横断する形となり、調査時点での微高地の傾斜と同方向にのびている。遺物は検出されていない。周囲のピット群はすべてが同時期に共存したという確証はないものの、この溝を境に北側は分布がやや希薄であり、南西側は比較的密に分布する状況が看取される。

そのほか、この付近の包含層（III 層）からは少量の須恵器と灰釉陶器多数が出土している。

＜ 01A・B・C 区＞

現代の水路を挟んで隣接する調査区であり、ここでは一括して記述する。自然地形では 01A 区西辺が丘陵に画されておりほとんどが河川流路に含まれている。わずかに 01C 区の一部で東側 00A 区

から続く中州状微高地の痕跡が認められる。この微高地に近い範囲で土坑 1 基を検出した。

01Ca 区 SK01（旧 SD01, 図 9）は 00A 区に近い調査区南東端にあり、長さ 2.7m、最大幅 1.7m、深さ 57cm を測る隅丸長方形の土坑である。埋積された状況に特徴があり、検出時には土坑全体を拳大の礫が覆い、礫の充填は土坑のほぼ半分の深さまで達していた。下層では破砕した大型の須恵器壺と灰釉陶器椀、皿が出土している（28 ～ 34　K-90 号窯式段階）。

流路 NR03 は、流路 NR01 下層で微高地を削るように蛇行する古い流路の痕跡である。01C 区および 01B 区で確認されている。01C 区では 3.5 ～ 9 m の幅が一定しない溝状の落ち込みが円弧を描くようにのび、その下流 01B 区では幅が 12m 以上と広がりつつ浅くなり南西へ流れたと考えられる。埋土は黒色粘土質（IV 層）であり、大量の植物遺体が含まれる。古代の須恵器、灰釉陶器のほか、案や曲物底、田下駄など木製遺物もここから検出された。特に 01Cb 区東側では建築部材と思われる板材が集積した地点がみられた。同様な板材は 00B 区でも検出されている。なお、一部の材には炭化が認められた。そのほか微高地に近い範囲の包含層（III 層か）より、陽物形や大足などの木製品が出土している。

01A 区調査区西辺、北辺は丘陵から続く斜面であり、薄い表土が覆っている。標高の高い位置ではほとんど遺構は検出されず、やや下がった水田耕作土の下（II 層中）から丘陵端に沿って蛇行する溝状の落ち込み（SD01 ～ 06）を確認した。幅は一定せず、丘陵の自然地形（等高線）に沿う、または傾斜に直交するものがある。人為的な遺構ではなく自然地形と考えている。なお、SD02,03,04 埋没後の堆積層（NR01 上層　旧 NR02 として遺物採取）には尾張型第 7 型式の山茶碗が含まれている。

溝 SD04 は幅 0.4 ～ 1.5m、深さ約 25cm、溝底面の標高は 179.2 ～ 178.7m を測り、これらの溝の中では最上段にあたる。山茶碗（尾張型 , 東濃型）が出土した。

溝 SD02 は幅 1.8 ～ 2 .6m、深さ約 40cm、溝の底面の標高は 178.9 ～ 177.8m を測る。埋土に粗粒砂層を多く含み、遺物はわずかではあるが山茶碗（尾張型第 5 型式）等が出土した。

溝 SD01 は幅 0.6 ～ 1.5m、深さ 30 ～ 50cm、溝底面の標高は 178.4 ～ 177.8m、SD02 にほぼ平行して下段の位置にあたる。灰釉陶器椀が出土した。

溝の埋没時期と位置関係は、時期ごとの谷部の堆積のレベルを示しているものと思われる。

01A 区の谷部が最も古い段階から流路であったと思われる。下層の青灰色の礫混じり粘土 , 砂層（V 層）は丘陵部直上の堆積層に連続しており、この層中で細片ながらも摩滅した縄文後期の土器片を採取している。その上に黒褐色粘土～シルト層が堆積しており、ここでは粗粒砂をほとんど含まない II 層と考えられる。一方、東側の 01B 区の II 層は大量の砂を含み、かつ複雑な堆積状況を示している。したがって、古代以降水量の多い流れの中心は丘陵と微高地の間である 01B 区の辺りにあり、01A 区付近は幅の広い流路で 01B 区より

01A 区　V 層のトレンチ調査

も比較的穏やかな堆積環境にあったと考えられる。

＜01D 区＞

00A 区東側に隣接するが、微高地の地形は続かず全体が緩やかな凹みを形成している。表土は大きく削られ整地されており、その下に暗褐色シルト層が堆積する。これも流路の一部であったと考えられる。遺物は少なく、最下層から墨書灰釉陶器が出土した。

＜02A 区＞

01A・B 区南側に位置し、少なくとも古代以降は河川流路の中心に近い部分にあたる。調査区が手狭なため、調査は II 層の堆積状況の確認までとした。水田耕作土より近世～近代の磁器製品や窯道具などを採取した。

3　蟹川左岸域

＜02B・C 区＞

蟹川左岸域の調査区は既に宅地化されていたこともあり、客土による整地層に覆われていた。調査区は丘陵部の末端付近にあたり、北西側と東側が高くその間は浅い谷状の地形となっており、ここに湿地状の堆積が認められた。調査範囲内は標高 182.8m ～ 180.9m、比高差 1.9m を測る。谷部には自然木や植物遺体を多く含んだ暗褐色粘土質シルトが堆積し、傾斜の角度が変化する辺りで等高線に沿う方向の杭列を確認した。先に報告した蟹川右岸域の調査地点とは異なり、埋土中に砂粒の含まれる割合は少なく、河川でも流れの弱い穏やかな堆積環境にあったと考えられる。

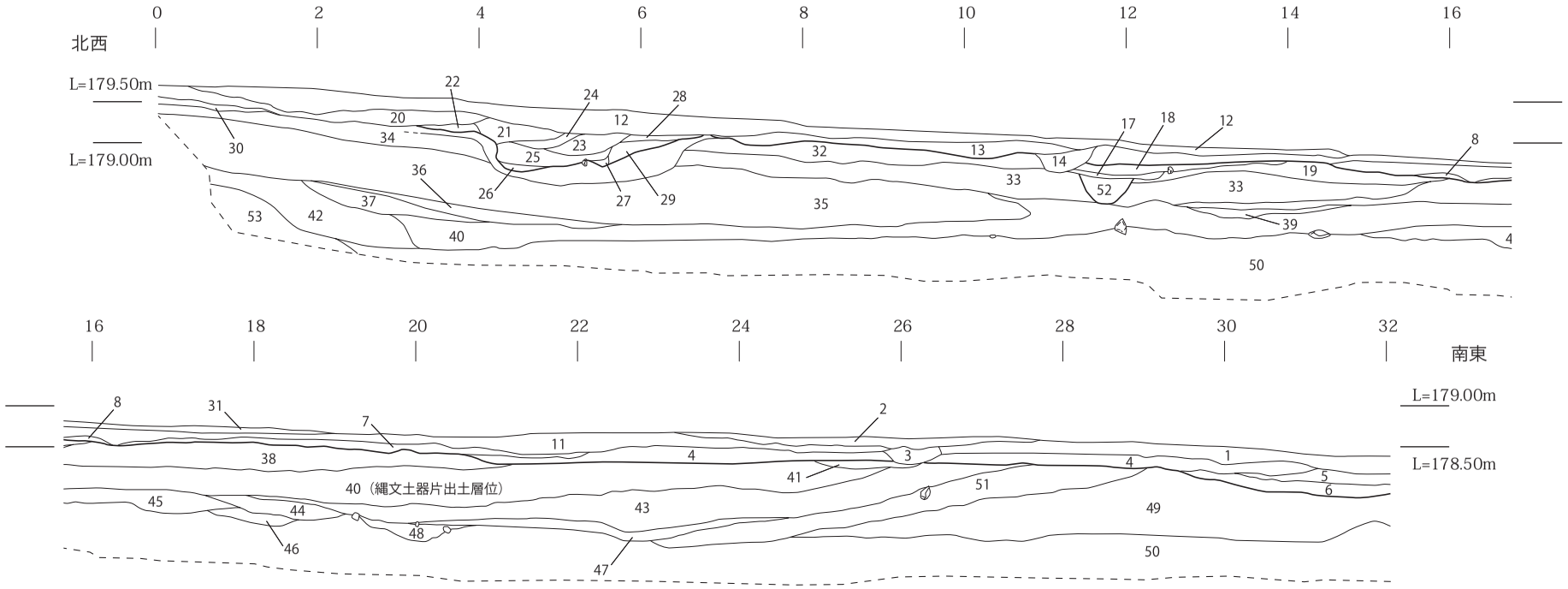
出土遺物は、古代の須恵器、灰釉陶器、土師器甕など 9 世紀代の遺物が一定量含まれるほか、中世の古瀬戸後期～大窯初期の陶器が比較的多く含まれる。後者は東側の丘陵部に存在する窯跡（桑下東窯跡）あるいは桑下城跡の時期に含まれ、関連が窺われる。

表 3　竪穴建物 00A 区 SB01　出土炭化材の樹種同定結果

試料no.	樹　種	備　　考
1	ヒノキ	放射方向4.5cmの破片、一部生焼け
2	ヒノキ属	幅（接線方向）5cm,厚み（放射方向）2cm,板目取りの板状破片,約40年輪
3	ヒノキ	φ2.5cmの丸木,約22年輪,外側一部生焼
	シラキ	板状破片が多い
4	ヒノキ	放射方向1cmで22年輪あり
5	サカキ	φ3.5cmの丸木または半裁
6	不可	
7	ヒノキ属	
	クスノキ科	丸木？（土の侵食多い）
8	ヒサカキ	
9	サカキ	
10	サカキ	
11	サカキ	φ2.5cmの丸木
12	ヒサカキ	φ3.0cmの丸木または半裁
13	ヒノキ	幅（接線方向）14cm,厚み（放射方向）0.3～1cm,板目取りの板状破片
14	ヒサカキ	幅（接線方向）9cmの破片
15	ヒサカキ	φ5.5cmの丸木

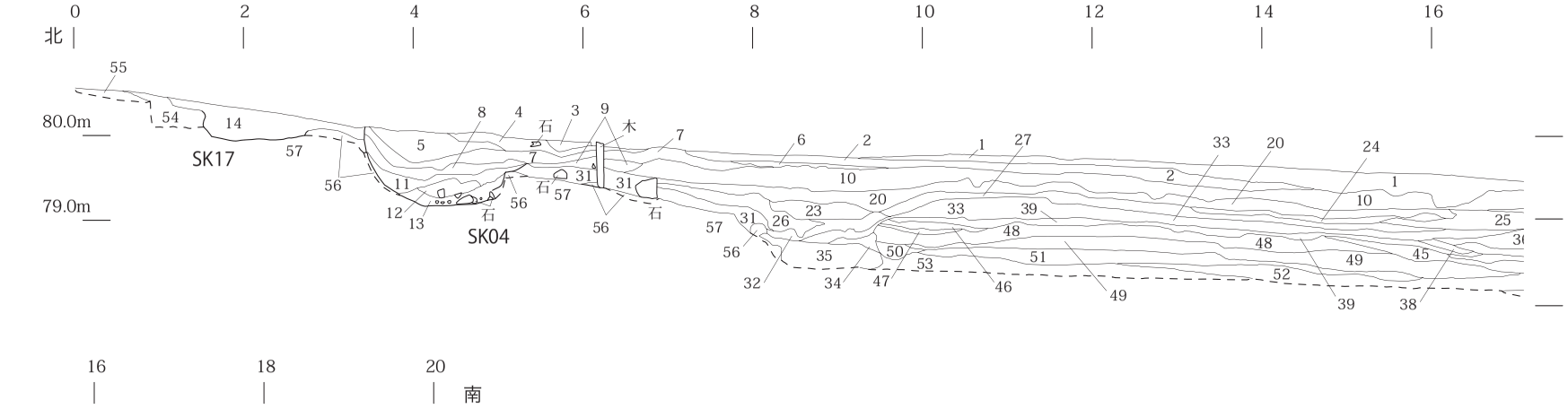
樹種		試料数
針葉樹	ヒノキ	4
	ヒノキ属	2
落葉広葉樹	シラキ	1
常緑広葉樹	クスノキ科	1
	サカキ	4
	ヒサカキ	4
	不可	1
合　計		17

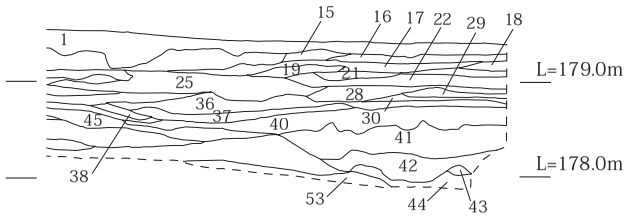
（植田弥生（パレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土炭化材の樹種同定」より）



1. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（植物遺体 , 炭化物を少量含む）
2. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト（炭化植物遺体を少量含む）
3. 5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂（20～50mm 大の礫を含む）
4. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（炭化植物遺体を含む）に 5Y5/3 灰オリーブ色中粒砂が混じる
5. 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土（炭化植物遺体を含む）
6. 10YR4/1 褐灰色粘土（炭化植物遺体を含む）
7. 10YR4/1 褐灰色粘土（炭化植物遺体を含む）
8. 10YR4/1 褐灰色粘土（炭化植物遺体を含む）
11. 10YR3/1 黒褐色粘土（炭化植物遺体を少量含む） 5Y4/2 灰オリーブ色中粒砂がブロック状に混じる
12. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト（炭化植物遺体を含む）
13. 5Y4/1 灰色粘土質シルト（20～30mm 大の角礫を少量含む）
14. 5Y6/3 オリーブ黄色中粒砂（10mm 大の小礫を含む）
15. 10YR3/1 黒褐色粘土（10mm 大の小礫 , 炭化植物遺体を含む） 5Y5/2 灰オリーブ色極細粒砂がブロック状に混じる
17. 5Y5/1 灰色粘土質シルト
18. 5Y4/1 灰色粘土質シルト（炭化植物遺体を少量含む）
19. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土質シルト （10～20mm 大の礫を含む , 基盤層か）
20. 10YR3/1 黒褐色粘土質シルト（炭化植物遺体を含む） 2.5Y6/4 にぶい黄色中粒砂混じる
21. 5Y5/2 灰オリーブ色極細粒砂 ,10YR3/1 黒褐色粘土質シルト （植物遺体を含む）
22. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土
23. 10YR2/1 黒色粘土質シルト（植物遺体を含む） 5Y6/2 灰オリーブ色極細粒砂混じる
24. 10YR2/1 黒色粘土質シルト（植物遺体を含む）
25. 5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂（20mm 大の小礫少量 , 植物遺体を含む）
26. 5Y4/1 灰色粘土質シルト（植物遺体を含む）
27. 10YR2/1 黒色粘土質シルト（植物遺体を含む）
28. 5Y4/1 灰色粘土
29. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土 ,5Y4/1 灰色中粒砂をブロック状に含む
30. 5Y2/1 黒色粘土質シルト
31. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト（植物遺体を含む） 2.5Y6/4 にぶい黄色粗粒砂をブロック状に少量含む
32. 10Y4/1 灰色砂質シルト（20～30mm 大の礫を少量含む）
33. 10Y4/1 灰色粘土質シルト
34. 10Y4/1 灰色粘土質シルト（20～30mm 大の礫を少量含む）
35. 10Y5/1 灰色砂質シルト（20～50mm 大の礫をわずかに含む）
36. 10Y5/1 灰色砂質シルト（20～50mm 大の礫をわずかに含む） 極細粒砂混じる
37. 10Y6/1 灰色中粒砂（20～30mm 大の礫をわずかに含む）
38. 10Y5/1 灰色粘土
39. 10Y6/2 オリーブ灰色細粒砂
40. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト（5～10cm 大の礫をわずかに含む）
41. 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
42. 7.5Y5/2 灰オリーブ色粘土（20～30mm 大の礫を含む）
43. 7.5GY4/1 灰色砂質シルト（細粒砂混じり ,5cm 大の礫を含む）
44. 5GY5/1 オリーブ灰色砂質シルト（細粒砂混じり ,5cm 大の礫を含む）
45. 10Y5/2 オリーブ灰色粘土質シルト（20～50mm 大の礫を少量含む）
46. 5GY5/1 オリーブ灰色粘土質シルト
47. 10Y5/1 灰色砂質シルト
48. 10Y5/1 灰色細粒砂
49. 10Y5/1 灰色極細粒砂
50. 10Y6/2 オリーブ灰色粗粒砂（3～10cm 大の礫を密に含む）
51. 5GY4/1 暗オリーブ灰色極細粒砂 （粗粒砂混じり ,5～10cm 大の礫を密に含む）
52. 5Y3/1 オリーブ黒色粘土（植物遺体 ,5cm 大の礫を少量含む）
53. 10GY5/1 緑灰色粘土 , 基盤層

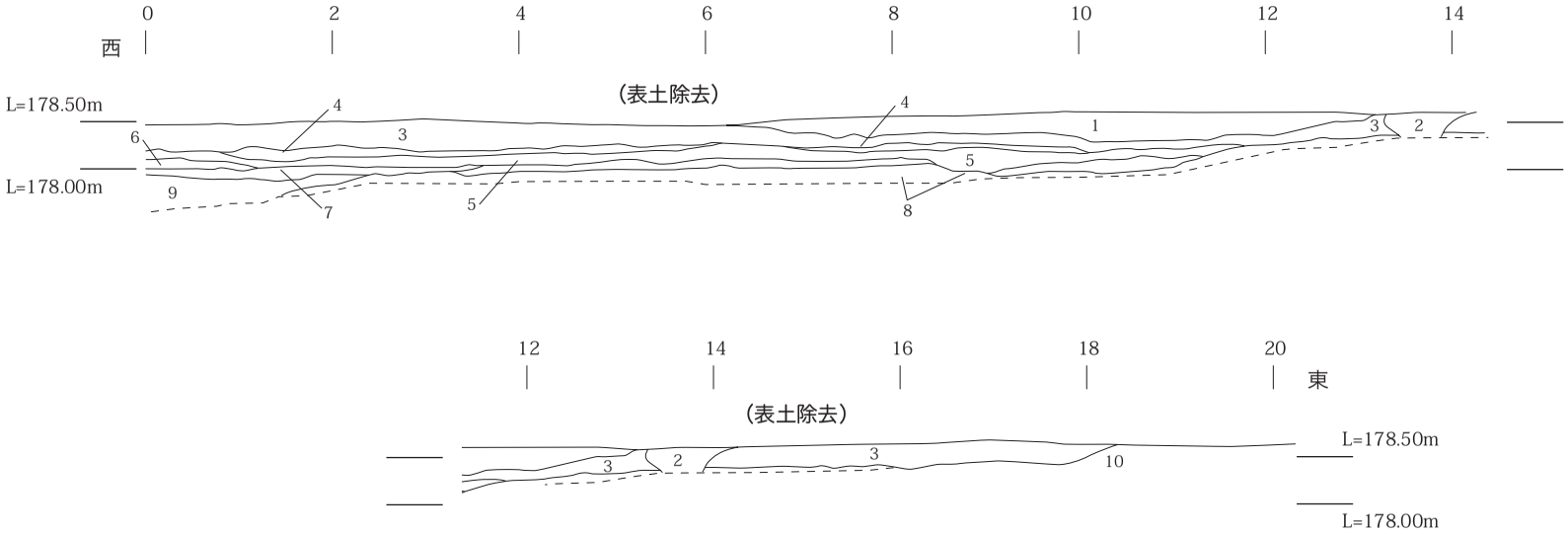
図 12　01A 区南北ベルト土層断面図（S=1/80）





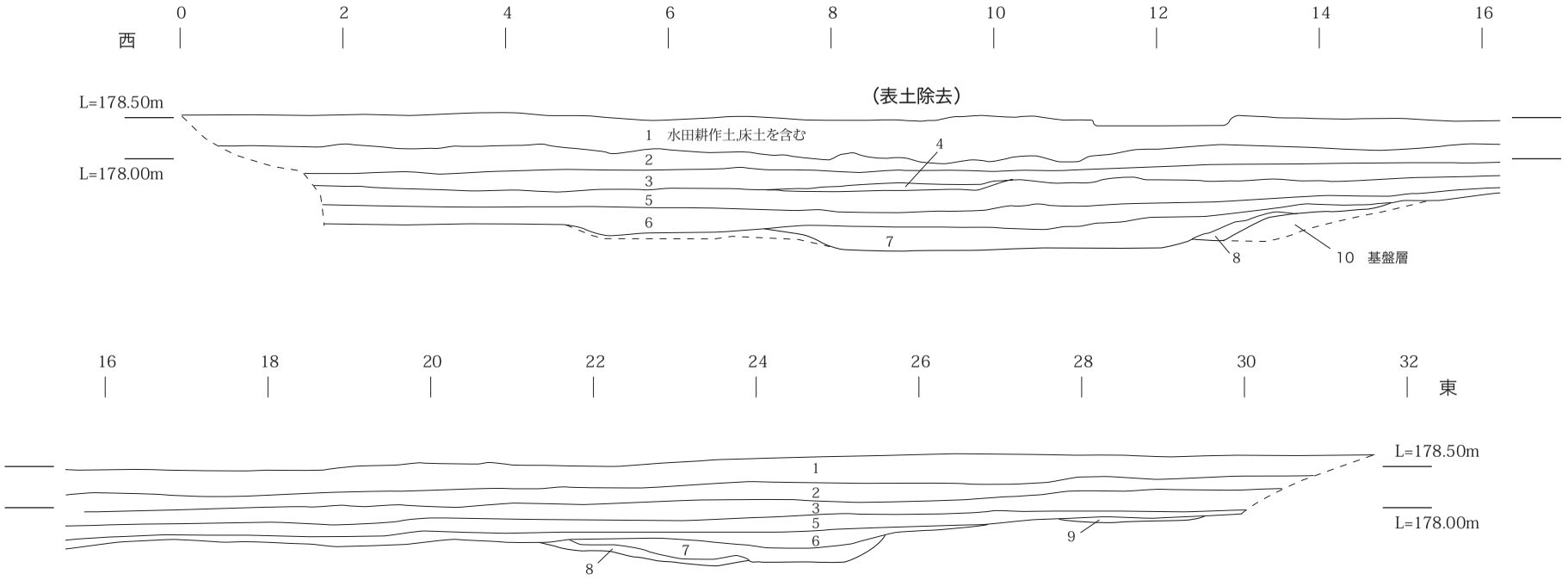
1.10YR3/1黒褐色土,砂利・木片含む
2.5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色土,砂利混る
3.2.5Y5/1黄灰色土,沈鉄含む
4.2.5Y6/2灰黄色ｼﾙﾄ,大型礫・砂利混る,沈鉄含む
5.2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色ｼﾙﾄ,2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色細粒,砂混る
6.5Y4/1灰色ｼﾙﾄ
7.5Y5/1灰色ｼﾙﾄ
8.2.5GY4/1暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色ｼﾙﾄ,2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色細粒,砂混る
9.10Y5/2ｵﾘｰﾌﾞ灰色ｼﾙﾄ,10Y7/2灰白色細粒砂混る
10.5Y5/1灰色砂礫,5Y5/1灰色ｼﾙﾄ層,腐葉土層混る
11.10GY4/1暗緑灰色粘質ｼﾙﾄ
12.2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色粗粒砂,10GY4/1暗緑灰色粘質ｼﾙﾄ混る
13.2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色砂礫,大型礫含む
14.10Y3/2ｵﾘｰﾌﾞ黒色ｼﾙﾄ,粗粒砂混る.沈鉄含む
15.5Y4/1灰色ｼﾙﾄ,5Y5/1灰色極細粒砂混る
16.5Y5/1灰色砂礫
17.2.5Y3/1黒褐色ｼﾙﾄ,2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂,腐葉土多く含む
18.5Y5/1灰色砂礫
19.5Y5/1灰色砂礫
20.10Y4/1灰色粘質ｼﾙﾄ,5Y5/1灰色細粒砂,腐葉土混る
21.2.5Y2/1黒色ｼﾙﾄ
22.10Y4/1灰色ｼﾙﾄ
23.2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂,植物遺体多く含む
24.2.5Y6/3にぶい黄色細粒砂,10Y4/1灰色粘質ｼﾙﾄ混る
25.10YR5/3にぶい黄褐色砂礫,10YR3/2黒褐色ｼﾙﾄ混る
26.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ
27.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ
28.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ
29.5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ,5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色細粒砂混る
30.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色細粒砂,5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ混る
31.10Y2/1黒色粘質土
32.5Y2/1黒色ｼﾙﾄ,5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色中粒砂混る,植物遺体多く含む
33.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色粗粒砂,5Y4/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色ｼﾙﾄ混る
34.5Y2/1黒色ｼﾙﾄ,5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂混る,植物遺体含む
35.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ砂礫
36.10YR2/2黒褐色泥炭
37.10YR2/1黒色ｼﾙﾄ,5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色中粒砂混る,植物遺体多く含む
38.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色中粒砂,10YR2/1黒色ｼﾙﾄ層状に混る
39.10YR2/2黒褐色泥炭
40.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色極粗粒砂,鉄分のしみ込みあり,
10YR2/1黒色ｼﾙﾄ混る,植物遺体の層含む
41.10YR3/1黒褐色粘質土,植物遺体多く含む
42.10YR3/1黒褐色中粒砂,5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色極粗粒砂混る,
植物遺体多く含む
43.5B4/1暗青灰色ｼﾙﾄ,10YR3/1黒褐色ｼﾙﾄ混る
44.10YR3/1黒褐色ｼﾙﾄ,植物遺体多く含む
45.10YR3/1黒褐色粘質ｼﾙﾄ,植物遺体多く含む
46.10YR2/1黒色ｼﾙﾄ,植物遺体多く含む
47.2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色極粗粒砂
48.10YR4/2灰黄褐色ｼﾙﾄ
49.2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色砂礫,10YR3/2黒褐色土混る
50.2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色粘質土,砂利含む
51.10YR3/2黒褐色土,10YR5/3にぶい黄褐色砂混る,植物遺体多く含む
52.7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色粘質ｼﾙﾄ
53.7.5Y5/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色砂礫
54.5Y6/1灰色砂礫,礫多く混る.沈鉄含む
55.5Y6/2灰ｵﾘｰﾌﾞ色粘質土,沈鉄含む
56.2.5GY6/1ｵﾘｰﾌﾞ色粘質土,5B5/1青灰色粘質土の酸化
57.5B4/1青灰色粘質土

図 13　99 区南北ベルト土層断面図（S=1/80）



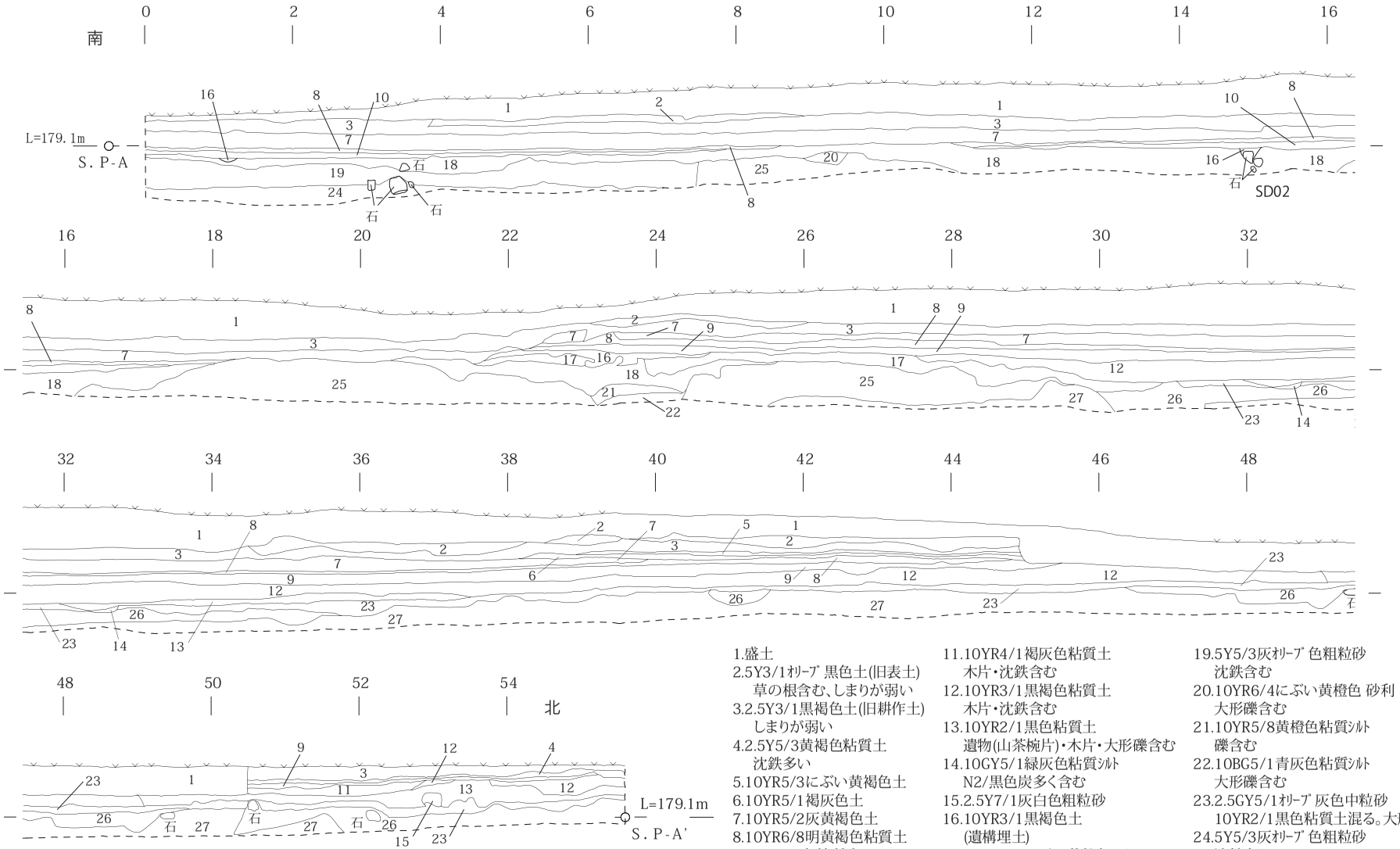
1. 5Y3/1オリーブ黒色粘土に5Y6/2灰オリーブ色極細粒砂層を挟む
2. 5Y5/3灰オリーブ色細粒砂(20～30mm大の礫を含む)
3. 5Y2/1黒色粘土(植物遺体含む)
4. 5Y4/1灰色砂質シルト
5. 5Y4/1灰色砂質シルトに5Y3/2オリーブ黒色細粒砂を含む
6. 5Y6/2灰オリーブ色細粒砂(10～20mm大の礫を含む)
7. 5Y6/3オリーブ黄色中粒砂
8. 5Y4/1灰色粘土質シルト(20～30mm大の礫を含む)
9. 5Y3/1オリーブ黒色粘土
10. 5Y5/1灰色細粒砂(50mm大の礫を含む,基盤層)

図 14　01B 区東西ベルト土層断面図（S=1/80）



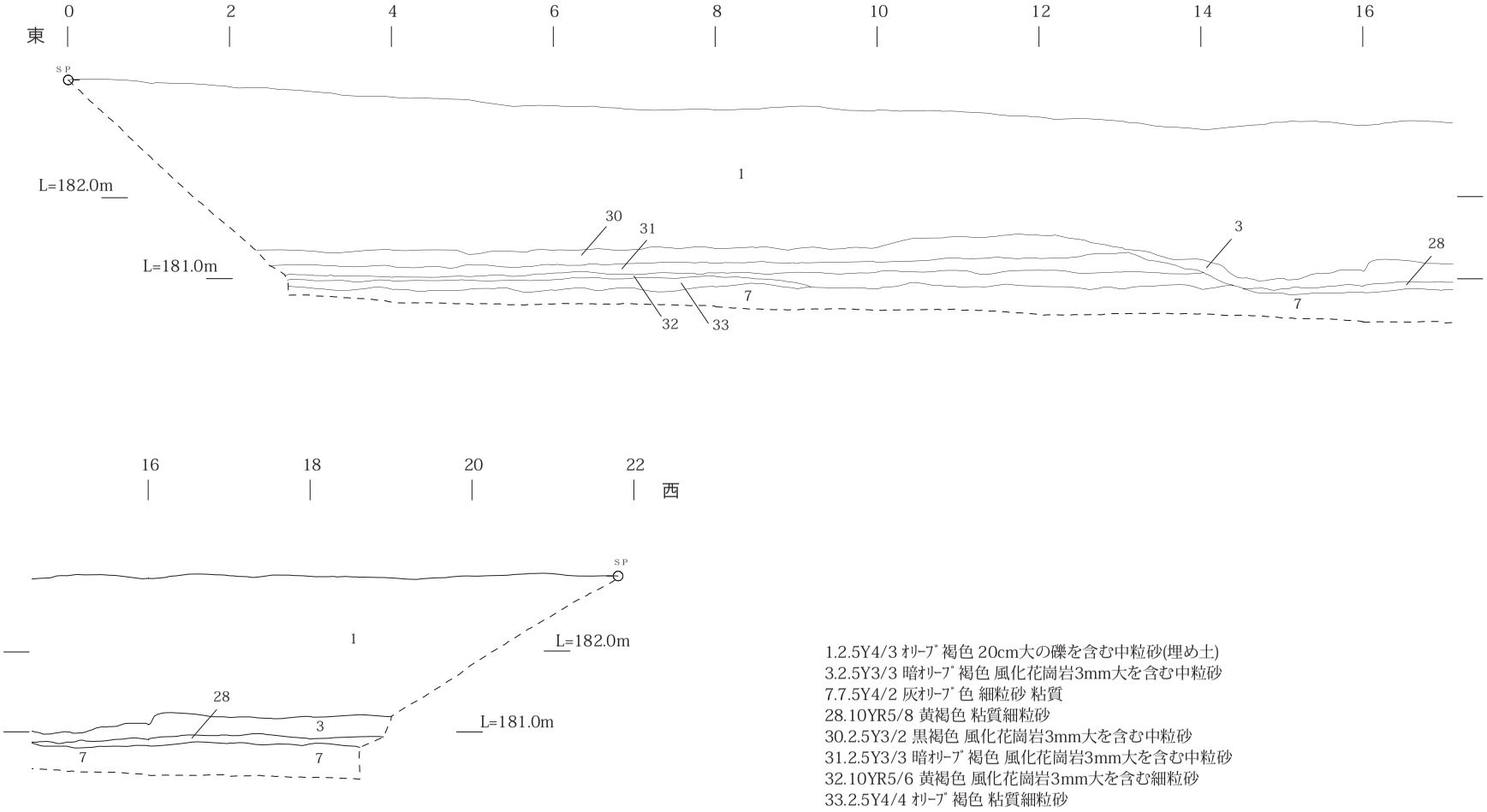
1. 上位,5Y3/1オリーブ黒色粘土質シルト（鉄斑あり、旧水田耕作土）
   下位,5Y4/1灰色粘土質シルト（鉄斑あり、旧水田床土）
2. 10YR3/1黒褐色粘土質シルト（植物遺体含む）
3. 10YR2/1黒色粘土質シルト（植物遺体含む）
4. 5Y2/1黒色粘土質シルト（植物遺体を多く含む）
5. 10YR2/1黒色シルト質粘土（植物遺体含む）
6. 5Y2/1黒色粘土質シルト（植物遺体を多く含む）
7. 10YR1.7/1黒色粘土（炭化物,植物遺体を多く含む）
8. 5Y3/1オリーブ黒色極細粒砂（炭化物,植物遺体を含む）
9. 5Y3/1オリーブ黒色粘土（炭化物少量含む）
10. 10Y4/1灰色極細粒砂（基盤層）

図 15　01Ca 区北壁土層断面図（S=1/80）



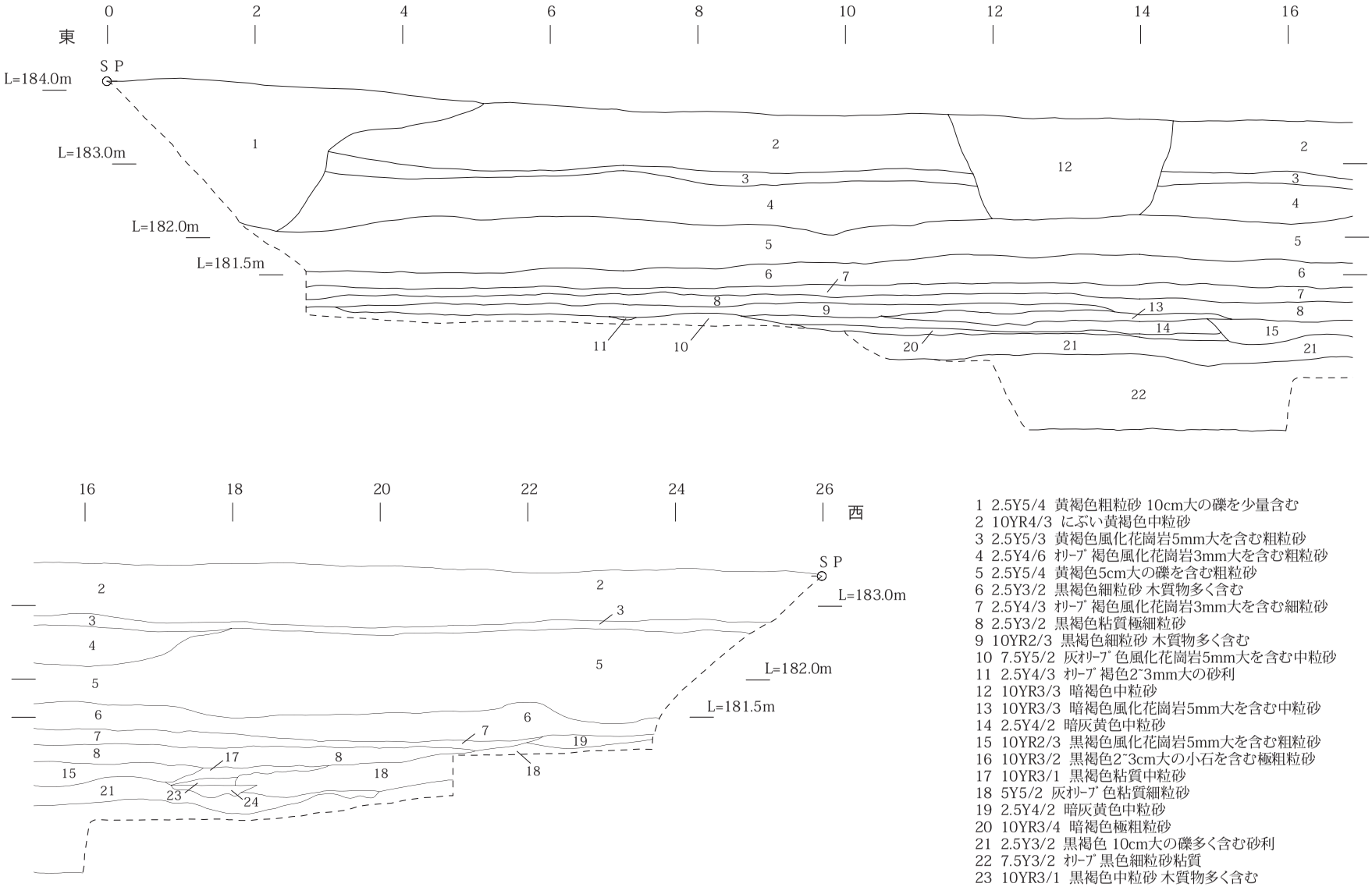
1.盛土
2.5Y3/1ｵﾘｰﾌﾞ黒色土(旧表土)
草の根含む、しまりが弱い
3.2.5Y3/1黒褐色土(旧耕作土)
しまりが弱い
4.2.5Y5/3黄褐色粘質土
沈鉄多い
5.10YR5/3にぶい黄褐色土
6.10YR5/1褐灰色土
7.10YR5/2灰黄褐色土
8.10YR6/8明黄褐色粘質土
9.5Y5/1灰色粘質土
沈鉄含む
10.10YR5/1褐灰色土
11.10YR4/1褐灰色粘質土
木片・沈鉄含む
12.10YR3/1黒褐色粘質土
木片・沈鉄含む
13.10YR2/1黒色粘質土
遺物(山茶椀片)・木片・大形礫含む
14.10GY5/1緑灰色粘質ｼﾙﾄ
N2/黒色炭多く含む
15.2.5Y7/1灰白色粗粒砂
16.10YR3/1黒褐色土
(遺構埋土)
17.10YR6/4にぶい黄橙色ｼﾙﾄ
10YR3/1黒褐色土混る。沈鉄含む
18.10YR6/4にぶい黄橙色ｼﾙﾄ
沈鉄含む
19.5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色粗粒砂
沈鉄含む
20.10YR6/4にぶい黄橙色 砂利
大形礫含む
21.10YR5/8黄橙色粘質ｼﾙﾄ
礫含む
22.10BG5/1青灰色粘質ｼﾙﾄ
大形礫含む
23.2.5GY5/1ｵﾘｰﾌﾞ灰色中粒砂
10YR2/1黒色粘質土混る。大形礫含む
24.5Y5/3灰ｵﾘｰﾌﾞ色粗粒砂
沈鉄含む
25.10YR5/2褐灰色砂利
26.10GY5/1緑灰色粘質ｼﾙﾄ
27.10GY5/1緑灰色砂利
大形礫混る

図 16　00A 区西壁土層断面図（S=1/80）



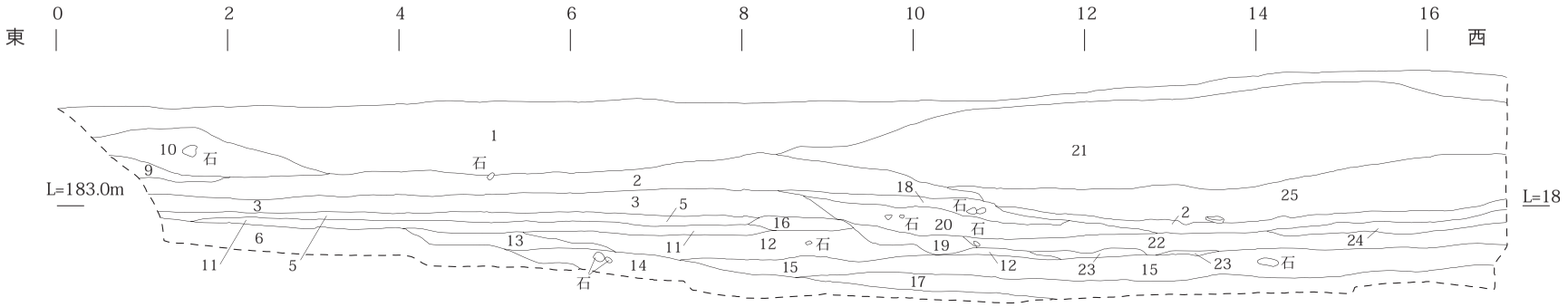
1.2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 20cm大の礫を含む中粒砂(埋め土)
3.2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色 風化花崗岩3mm大を含む中粒砂
7.7.5Y4/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色 細粒砂 粘質
28.10YR5/8 黄褐色 粘質細粒砂
30.2.5Y3/2 黒褐色 風化花崗岩3mm大を含む中粒砂
31.2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色 風化花崗岩3mm大を含む中粒砂
32.10YR5/6 黄褐色 風化花崗岩3mm大を含む細粒砂
33.2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 粘質細粒砂

図 17　02C 区南壁土層断面図（S=1/80）



1 2.5Y5/4 黄褐色粗粒砂 10cm大の礫を少量含む
2 10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂
3 2.5Y5/3 黄褐色風化花崗岩5mm大を含む粗粒砂
4 2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色風化花崗岩3mm大を含む粗粒砂
5 2.5Y5/4 黄褐色5cm大の礫を含む粗粒砂
6 2.5Y3/2 黒褐色細粒砂 木質物多く含む
7 2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色風化花崗岩3mm大を含む細粒砂
8 2.5Y3/2 黒褐色粘質極細粒砂
9 10YR2/3 黒褐色細粒砂 木質物多く含む
10 7.5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色風化花崗岩5mm大を含む中粒砂
11 2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色2~3mm大の砂利
12 10YR3/3 暗褐色中粒砂
13 10YR3/3 暗褐色風化花崗岩5mm大を含む中粒砂
14 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂
15 10YR2/3 黒褐色風化花崗岩5mm大を含む粗粒砂
16 10YR3/2 黒褐色2~3cm大の小石を含む極粗粒砂
17 10YR3/1 黒褐色粘質中粒砂
18 5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色粘質細粒砂
19 2.5Y4/2 暗灰黄色中粒砂
20 10YR3/4 暗褐色極粗粒砂
21 2.5Y3/2 黒褐色 10cm大の礫多く含む砂利
22 7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色細粒砂粘質
23 10YR3/1 黒褐色中粒砂 木質物多く含む
24 10YR2/3 黒褐色中粒砂

図 18　02Bb 区南壁土層断面図（S=1/80）



1.7.5Y4/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色 10cm大の礫を含む極粗粒砂(埋め土)2.5Y5/6土塊含む
2.7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色 中粒砂
3.2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 粘質細粒砂
5.10YR4/4 褐色 粘質細粒砂
6.5Y5/3　灰ｵﾘｰﾌﾞ色 細粒砂(水分を含む)2.5Y4/6粘質ｼﾙﾄ混じる。
9.2.5Y3/2 黒褐色 中粒砂 2.5Y4/4土塊混じる 中粒砂
10.2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 極粗粒砂 5Y5/4風化花崗岩5mm大を含む極粗粒砂混じる。
11.10YR3/4 暗褐色 細粒砂
12.10YR3/3 暗褐色 細粒砂 2.5Y4/4 粘質細粒砂土塊混じる。
13.10YR3/2 黒褐色 粘質細粒砂
14.7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色 ｼﾙﾄ(水分多く含む)7.5Y4/1粗粒砂混じる。
15.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色 粘質ｼﾙﾄ 2.5Y5/6ｼﾙﾄ混じる
16.2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 細粒砂
17.7.5Y4/1 灰色 極細粒砂 2.5Y5/6ｼﾙﾄ混じる。
18.10YR4/6 褐色 細粒砂 2.5Y4/3中粒砂混じる。
19.2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色 細粒砂 粘質
20.2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 中粒砂 10YR4/6細粒砂混じる。
21.10YR5/8 黄褐色 粘質細粒砂 20cm大の礫少量混じる。
22.2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 10cm~20cm大の礫層
23.2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色 粗粒砂 2.5Y4/4粗粒砂混じる。
24.2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色 中粒砂 2.5Y4/4中粒砂混じる。
25.2.5Y5/4 黄褐色 粗粗砂 しまりなし 10cm大の礫少量含む。

図 19　02Ba 区南壁土層断面図（S=1/80）

第3章　遺　物

1　出土状況の概要と時期区分

出土遺物の大半は旧河川および湿地の堆積層から検出されており、土器・陶磁器では縄文時代から近世までの幅広い時期のものが含まれる。

今回調査地点で出土した遺物の時期について、次のように区分した。

I 期 ―― 縄文時代
II 期 ――古墳時代前期
III-1 期 ― 須恵器 NN-32 ～ IG-78 号窯式（7 世紀後葉～ 9 世紀前葉）
-2a 期 ― 灰釉陶器 K-14 ～ K-90（9 世紀）
-2b 期 ― 灰釉陶器 0-53 ～百代寺窯式（10 世紀～ 11 世紀後葉）
IV-1 期 ― 山茶碗（11 世紀末～ 14 世紀中葉）（-1a 期：尾張型第 3,4 型式／ -1b 期：第 5 ～ 8 型式 *）
-2 期 ― 古瀬戸後期 **（14 世紀後葉～ 15 世紀後葉）
-3 期 ― 大窯 1 ～ 2 期 ***（16 世紀前葉）
V 期 ――近世以降

（* 藤澤 1994 ／ ** 藤澤 1982,1991,1995 ／ *** 藤澤 2002 ）

まず、I 期土器は前述した基本層序の第 V 層でのみ確認した。石器は少量ながら各調査区から散漫な分布状況が確認されている（第 3 章 - 6）。II 期も明確な遺構は確認されず、O1A 区南端付近の湿地状堆積層で採取された数点のみである。

今回の調査地点付近で安定した居住がみられるようになったのは古代以降である。ただし III-1 期の須恵器、土師器煮炊具は僅かであり、遺構が明瞭に捉えられていない。灰釉陶器、III-2 期に突如増加してピークとなる。III-2a 期には 00A 区の中洲状の微高地上に竪穴住居、柱穴等の遺構群が展開し、周辺で比較的遺存状況の良い灰釉陶器が検出されるなど、まとまった資料が得られている。続く III-2b 期から IV-1 期の早い段階までは一定量の出土があり、際立った断絶は認められない。これ以降の時期の出土遺物の様相は断続的となり、全体に少量となっている。堆積状況より推定されるように、主要な流路が移動して一帯すべてが湿地状となった環境の変化を反映していると思われる。一方、02 年度調査範囲では主に IV-2,IV-3 期の中世施釉陶器、窯道具類などが出土しており、これらは東方丘陵上に存在する桑下城跡、桑下東窯跡（大窯）やその城下との関連がうかがわれる。

土器・陶磁器類は、まず調査範囲（図 6）の位置と地形的特徴から現在の蟹川右岸域となる 99,00,01 年度調査区と、蟹川左岸域の 02B,C 区に分け、その上で時期・器種ごとに配置し記述を行った。また、石器は旧河川の堆積層で確認された場合が多く、出土地点の情報については調査区の大枠を示すにとどめた。

2　遺構出土の土器・陶器（E-no.）

00A 区 SB01（竪穴建物 旧 SK40）

8 の灰釉陶器椀は完形で伏せた状態で出土した。竪穴住居廃絶時に近い時期の遺物である。口縁部

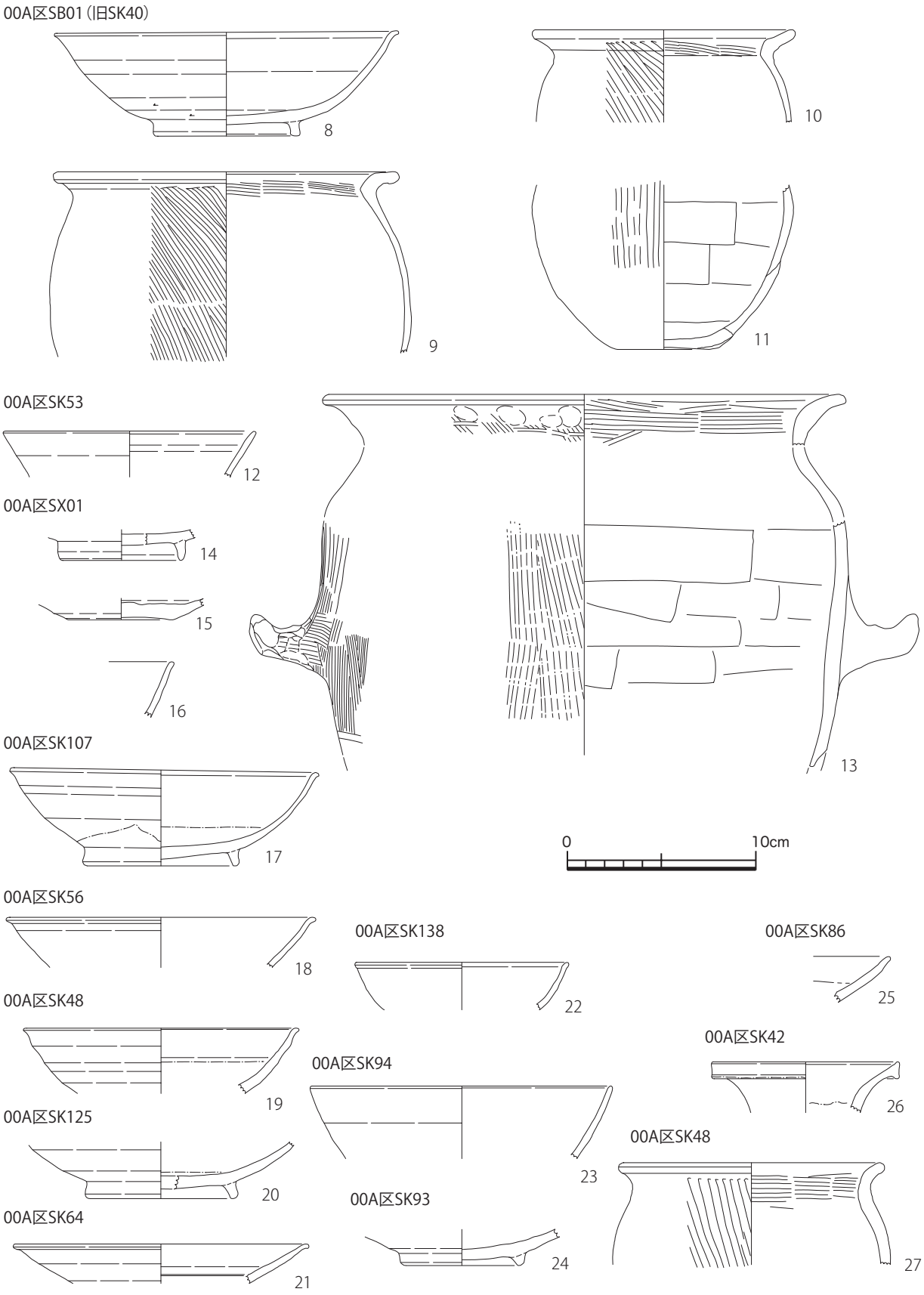


図 20　遺構出土の土器・陶器 1 （S=1/3）

01Ca区SD01

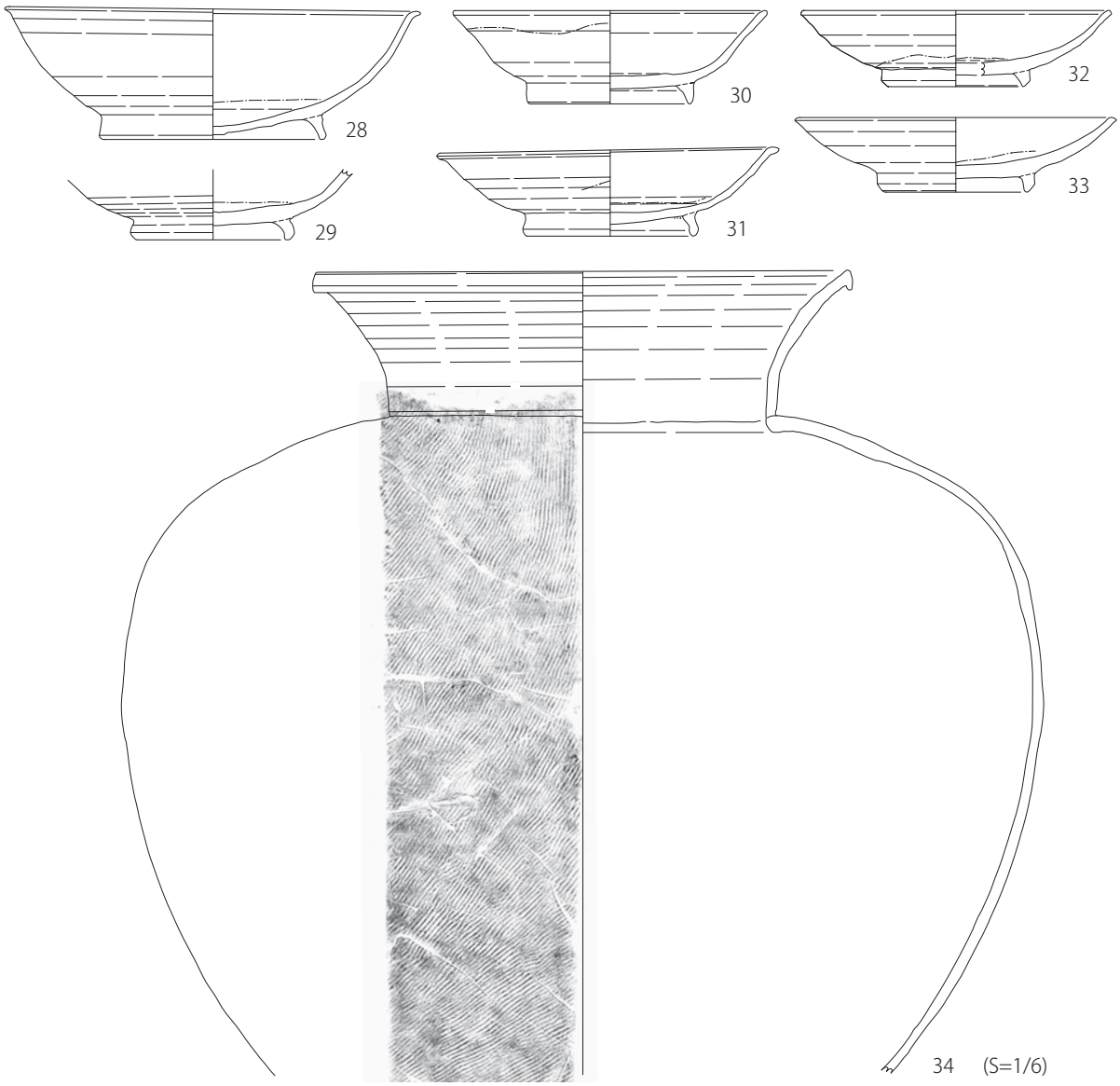


図 21　遺構出土の土器・陶器 2（S=1/3, 34 のみ S=1/6）

は外反して端部は水平に伸びる。施釉範囲は内面のみ全面でハケ塗り。見込にはピン痕が残る。外面高台脇、高台内はケズリ調整を施し、断面方形の角高台が付く。K-14 号窯式。9 ～ 11 は土師器であり、9,10 は口縁が外へ折れ、口縁内側を横方向のハケ調整を施す。外面を明瞭で粗い斜めハケで調整する濃尾系甕。11 は平底となる小型の甕底部で、胎土に砂粒を多く含み粘土紐の接合部が比較的明瞭である。内面は横方向の板ナデ、外面には不明瞭な縦方向のハケメが残る。底面に木葉痕が認められる。東濃系甕。

00A 区 SK53（土坑）

14 は体部が直線的でやや開く須恵器杯。15 は土師器で、把手付の鍋。外面は縦方向に近い細かいハケ調整であり、内面口縁付近は横方向のハケ、胴部は横方向の板ナデ調整を施す。

00A 区 SX01（不定形の凹み）

55 は須恵器無台杯。底部は静止糸切り。57 は灰釉陶器椀で O-53 号窯式。焼成不良で軟質。高台内にススが付着する。16 は灰釉陶器椀で釉はハケ塗り。K-90 号窯式か。

00A 区 SK107（柱穴か）

17 は灰釉陶器椀。胎土は緻密、精良である。口縁端部が僅かに外反する。高台外面の面取は不明瞭であるが、高台脇をケズリ調整する。高台内はケズリの後ナデを施す。釉薬は口縁から体部中位まで内外面をハケ塗りする。見込部分に摩滅痕が認められる。K-90 号窯式か。

00A 区 SK56（土坑）

18 は灰釉陶器椀。釉はハケ塗り。K-90 号窯式か。

00A 区 SK48（土坑）

19 は灰釉陶器椀。外面体部下半はケズリ調整。釉はハケ塗り。K-90 号窯式か。

00A 区 SK125（土坑）

22 は灰釉陶器椀。底部を少し外れた位置に高台が付く。高台脇はナデ調整。見込と高台接地面に摩滅が認められる。O-53 号窯式。

00A 区 SK64（土坑）

21 は灰釉陶器段皿。釉はハケ塗り。K-90 号窯式。

00A 区 SK138（土坑）

23 は灰釉陶器椀。胎土は緻密、精良である。O-53 号窯式。

00A 区 SK94（土坑）

20 は灰釉陶器椀。口縁部は外反しない。K-90 号窯式。

00A 区 SK93（土坑）

24 は灰釉陶器椀。　胎土は緻密である。断面三角形に近い高台が付く。高台脇はナデ調整。高台内中央に糸切痕、墨痕が残る。見込および高台接地面に摩滅が認められる。H-72 号窯式。

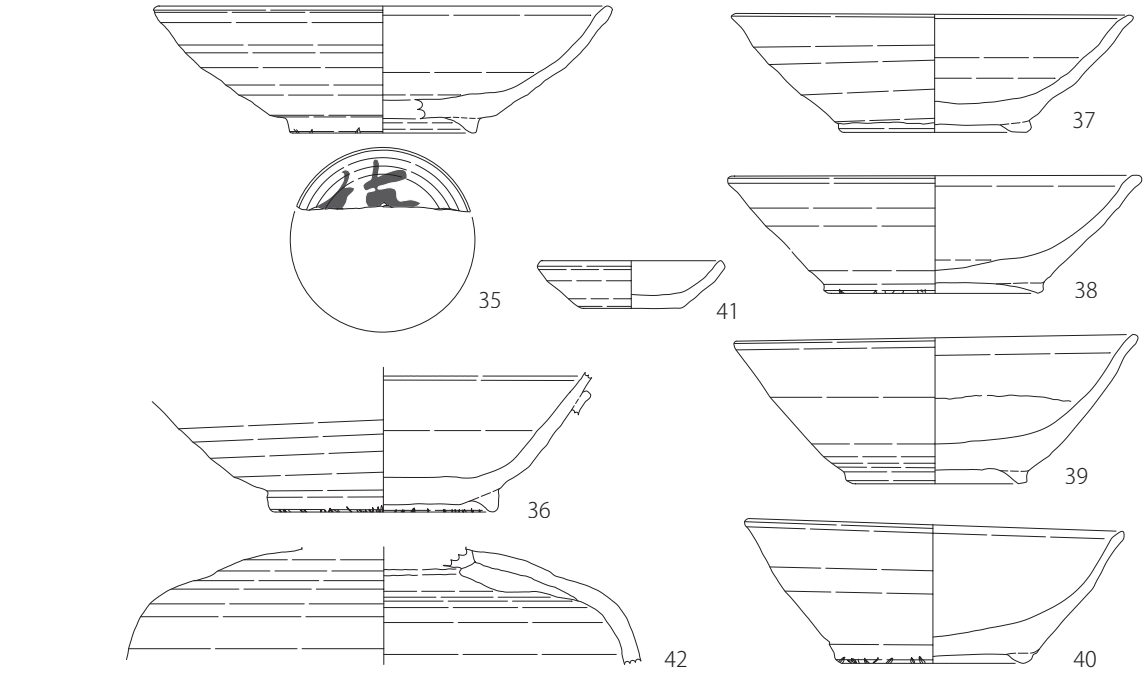
00A 区 SK86（土坑）

25 は灰釉陶器灰釉皿。口縁端部外面に緩やかな稜を形成する。K-90 号窯式か。

00A 区 SK42（土坑）

26 は灰釉陶器長頸瓶。胎土は白色でやや軟質の焼成。口縁部上端は突出しない。K-14（～ K-90）号窯式か。

01A区SD02



01A区NR01上層（旧NR02,SD02～04埋没後の堆積層）

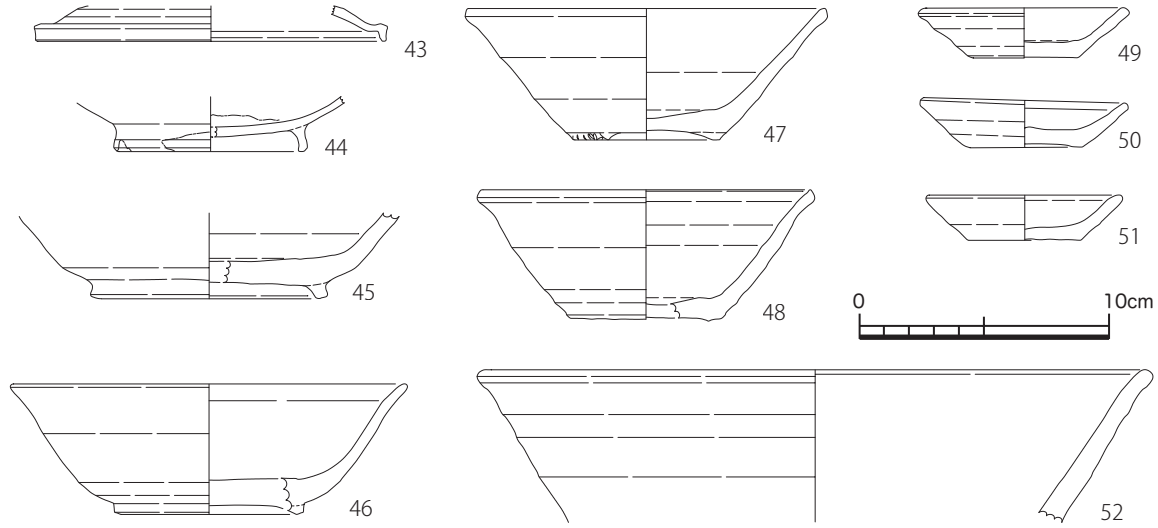


図 22　遺構出土の土器・陶器３（S=1/3）

00A 区 SK48（土坑）

27 は土師器甕で、口縁部を緩やかに外反させる。口縁付近内面はヨコ方向のハケ、外面は粗い斜めハケ調整を施す。濃尾系甕。

01Ca 区 SK01（土坑 旧 SD01）

34 は須恵器広口壺。底部付近は残存していないが、丸底と思われる。外面をタタキ調整する。上層の礫を取り除いた下層のほぼ中央付近で検出され、口縁部を下にむけ、破片の大半は内面を上にした状態で見つかった。灰釉陶器椀、皿類は礫に混じりその周囲で検出された。28,29 は器高の高いや

や大型の椀で、30,31 はやや浅い椀、32,33 は皿である。釉薬はハケ塗りで、椀の高台脇は 30 を除いてケズリ調整が施される。墨書された個体もあり、33 は高台内に「寺」、28 も判読できないが高台内に墨痕が認められる。28,30 を除く他はすべて高台接地面に、33 は見込と高台接地面に顕著な摩滅が認められる。椀、皿類は概ね K-90 号窯式に属するもので、30 は若干新しい様相が認められる。

01A 区 SD02（溝）

42 は須恵器の瓶類肩部で外面には自然釉が掛る。接合部は三段構成。その他は中世山茶碗と小皿類であり、35,36 は断面三角形のやや高い高台が付く。尾張型 4 型式。37 ～ 40 は扁平な高台となる。尾張型第 5 型式と 40 は第 6 型式か。見込と口縁部内側、高台に摩滅が認められるものが多い。35 は高台内に墨書をもつ。

01A 区 NR01 上層（旧 NR02,SD02 ～ 04 埋没後の堆積層）

43 は須恵器蓋。44 は灰釉陶器椀であり、高台脇はケズリ調整する。K-90 号窯式。45 は腰の張る形態の椀。高台は断面方形を呈し、高台内に糸切り痕が残る。46 ～ 51 は山茶碗と小皿。46 は口縁部内側および高台接地面に摩滅痕が認められる。尾張型第 4 型式。47,48 は同第 7 型式。小皿のうち 50,51 は内面や底部脇に摩滅が認められる。尾張型第 5，6 型式か。52 は片口鉢。内面に顕著な摩滅痕が認められる。

3　包含層出土の土器・陶器

次に遺構外、主に旧河川堆積層出土遺物について、時期・調査区ごとに記述する。

＜ III 期　土師器煮炊具＞

使用によるとみられるススが付着する個体 5 点について、放射性炭素年代測定（AMS）を行った。結果を表 4 に示す。

表 4　土器付着炭化物の放射性炭素年代測定結果

E-no.		δ 13C（0/00）	14C年代（yrBP±1σ）	14C年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代（yrBP±1σ）
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
10	濃尾系	-25.23±0.14	1300±20	665AD(37.2%)695AD 700AD(6.9%)710AD 745AD(24.1%)765AD	660AD(95.4%)780AD	1300±20
63	濃尾系	-25.37±0.17	1235±20	710AD(28.6%)750AD 760AD(32.1%)820AD 840AD(7.6%)860AD	690AD(37.4%)750AD 760AD(58.0%)880AD	1234±21
374	濃尾系	-24.84±0.14	1270±20	685AD(38.7%)725AD 735AD(29.5%)770AD	675AD(95.4%)775AD	1271±20
68	清郷型	-24.39±0.15	1130±20	890AD(11.1%)900AD 915AD(57.1%)965AD	870AD(95.4%)990AD	1131±20
335	伊勢型	-25.18±0.14	725±20	1265AD(68.2%)1285AD	1260AD(95.4%)1295AD	726±19

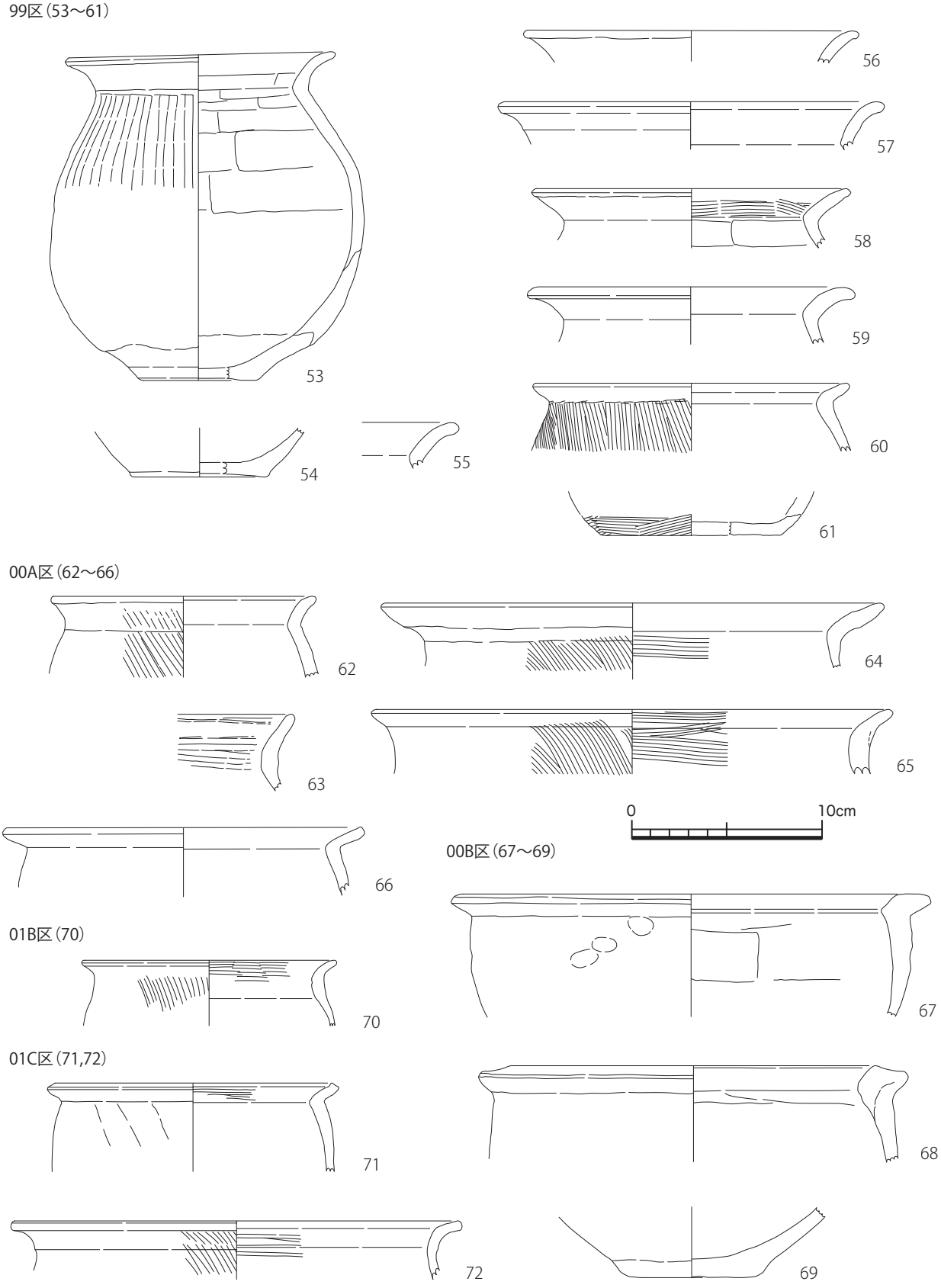


図 23　包含層出土の土器・陶器 1（古代 ,S=1/3）

99 区（53 ～ 61）

53 は小型の平底鍋。全体の形状が復元できる唯一の個体である。胎土に砂を多く含み、やや軟質の焼成である。底部と胴部接合部が明瞭で、外面口縁はヨコナデ、胴部は縦方向の板ナデ調整か。浅い丸ノミ彫りのような凹みが不明瞭に連続する。内面は横方向の板ナデ調整。54 ～ 61 は濃尾系甕。胎土に砂粒を少し含む。外面口縁付近はヨコナデ、胴部はハケ、内面口縁付近も横方向のハケ調整を施す。５は平底の底部片であり、硬く焼締まっている。

00A 区（62 ～ 65）

62 ～ 65 は濃尾系甕。内面口縁付近は横方向のハケ、外面は斜めハケ調整を施す。63,65 は頸部の屈曲が緩やかで、やや肥厚する。66 は三河系甕。胎土に含まれる砂粒は少なく焼締まっている。外面はナデ調整。

00B 区（67 ～ 69）

67,68 は清郷型鍋。外面はナデ、内面は横方向の板ナデを施す。69 は甕の底部。底面に木葉痕が残る。

01B 区（70）

70 は小型の濃尾系甕。口縁部の外反は緩く短く、頸部が肥厚する。

01Ca 区（71,72）

71 は胎土は 66 に近い。外面はユビナデ、内面はナデ調整。口縁上端がやや突出する。三河系甕か。

＜ III 期の陶器＞

99 区（73）

73 は須恵器の有台杯。O-10 号窯式。有台杯は今回の調査範囲では数少ない器種である。

00A 区（74 ～ 109）

71 ～ 78 は須恵器蓋。紐部分は不明で、折返しが明瞭なもの、短く痕跡程度のものがある。79 は無台杯。底部はヘラ切り。以上の資料の時期は O-10 ～ K-14 号窯式に属するものか。80 は須恵器で器種 , 時期は不明。大型の壺・甕の類か。81 ～ 97 は灰釉陶器椀。81 ～ 84 釉薬はハケ塗り、K-90 号窯式。82 は見込にも施釉される。84 は高台接地面に摩滅痕が認められる。85 ～ 93 は O-53 号窯式。釉薬は漬け掛けし、高台接地面に摩滅痕が認められるものが多い。94 ～ 97 は H-72 号窯式。４点とも内面と高台接地面に摩滅痕が認められる。98 ～ 106 は灰釉陶器皿。98 は低い角高台が付く、K-14 号窯式。99 ～ 103 は K-90 号窯式。104 ～ 106 は O-53 号窯式。107 は輪花椀。108,109 は長頸瓶。108 は底部脇の器壁を厚く作る。102 は外面胴部下半をヘラケズリ整形する。

01D 区（110 ～ 112）

遺物の出土が少ない地点であったが、旧河川埋積土下層から墨書のある資料を採取した。111 は底部を手持ちケズリ整形する須恵器無台杯。底面の墨書は判読できず。110,112 は K-14 号窯式の灰釉陶器椀。角高台は顕著な摩滅痕が認められる。110 の墨書は明瞭な筆致で高台内に３文字、「文室門」

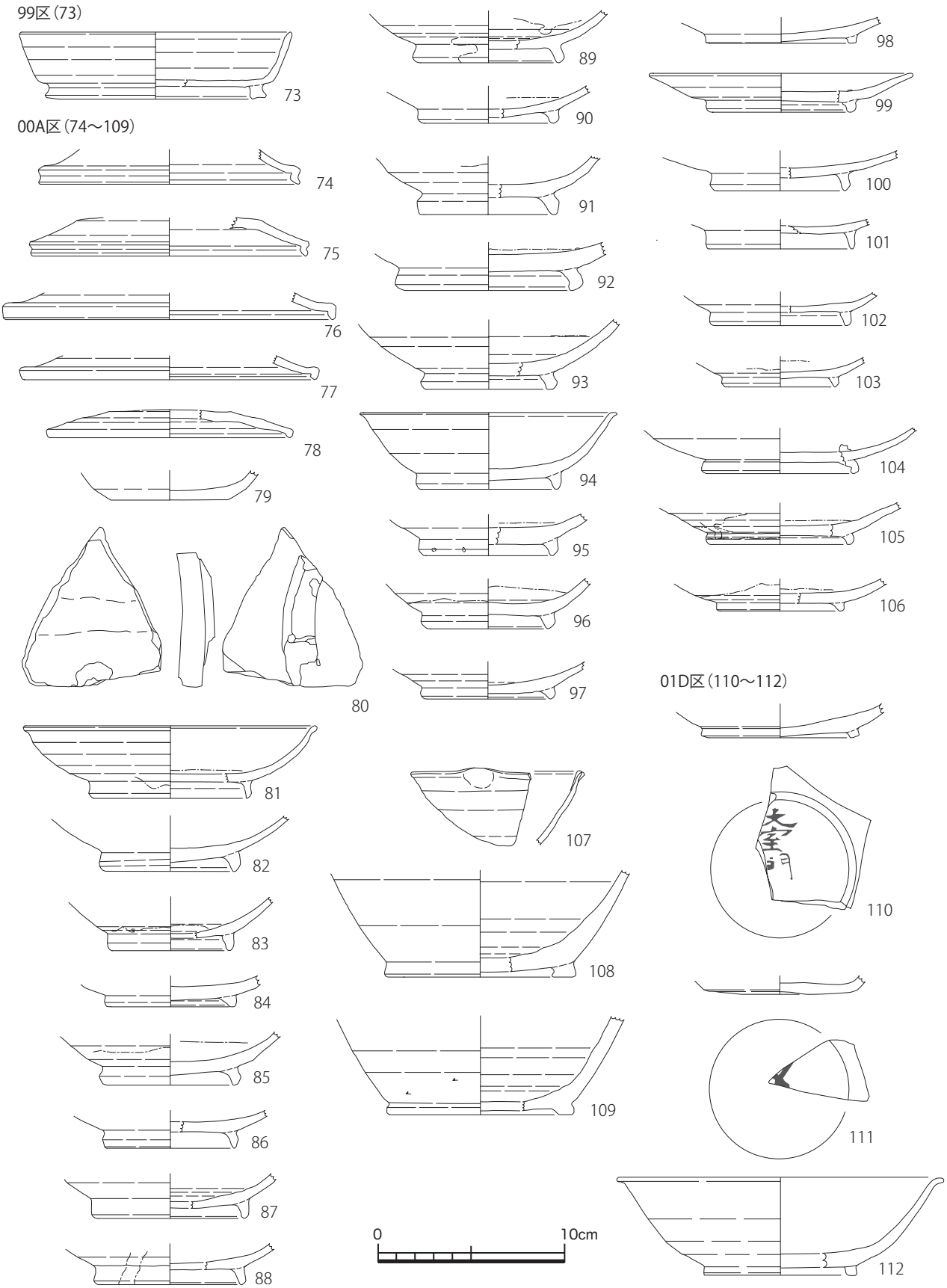


図 24　包含層出土の土器・陶器 2（古代 ,S=1/3）

00B区（113～156）

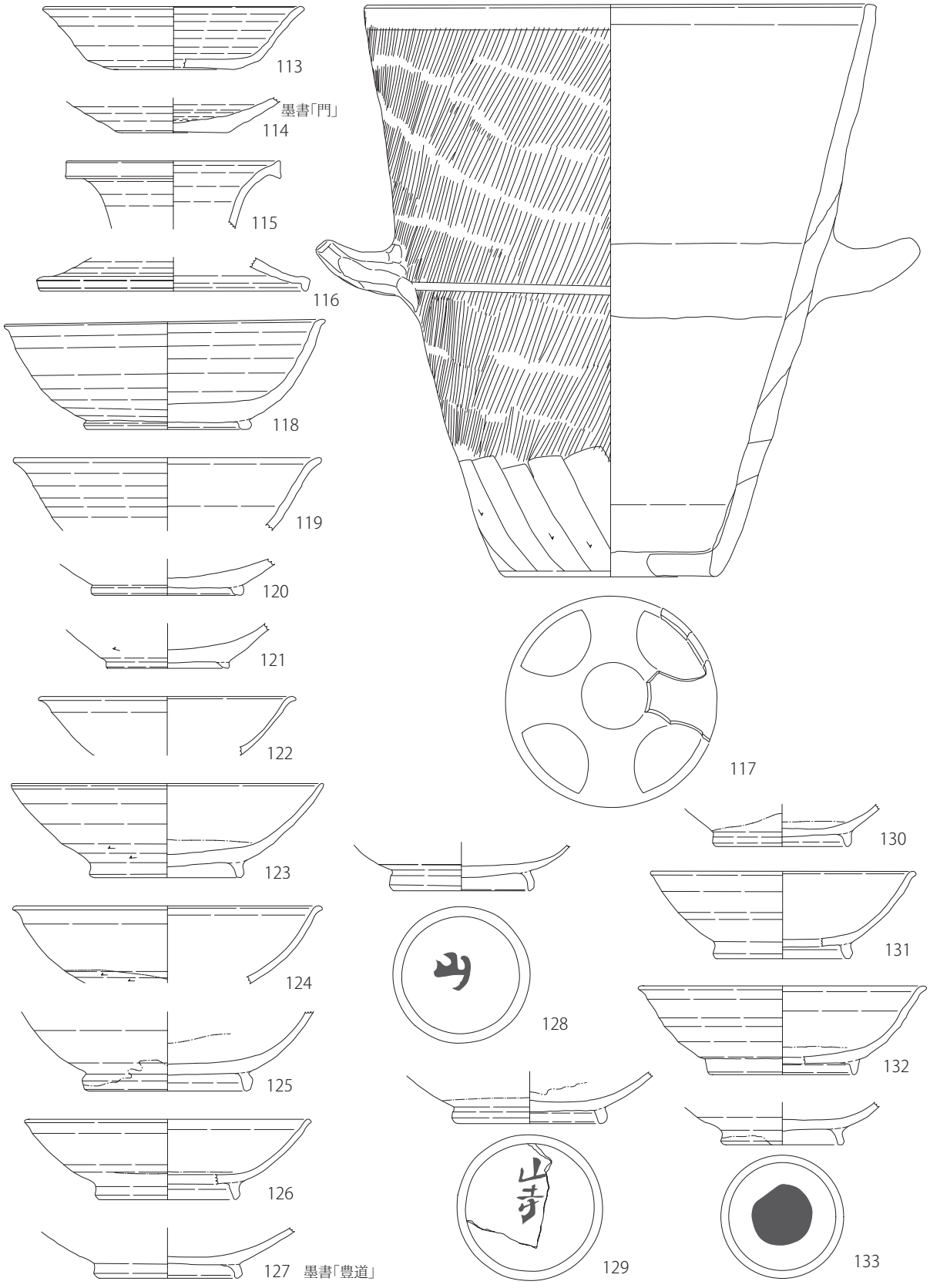


図 25　包含層出土の土器・陶器 3（古代 ,S=1/3）

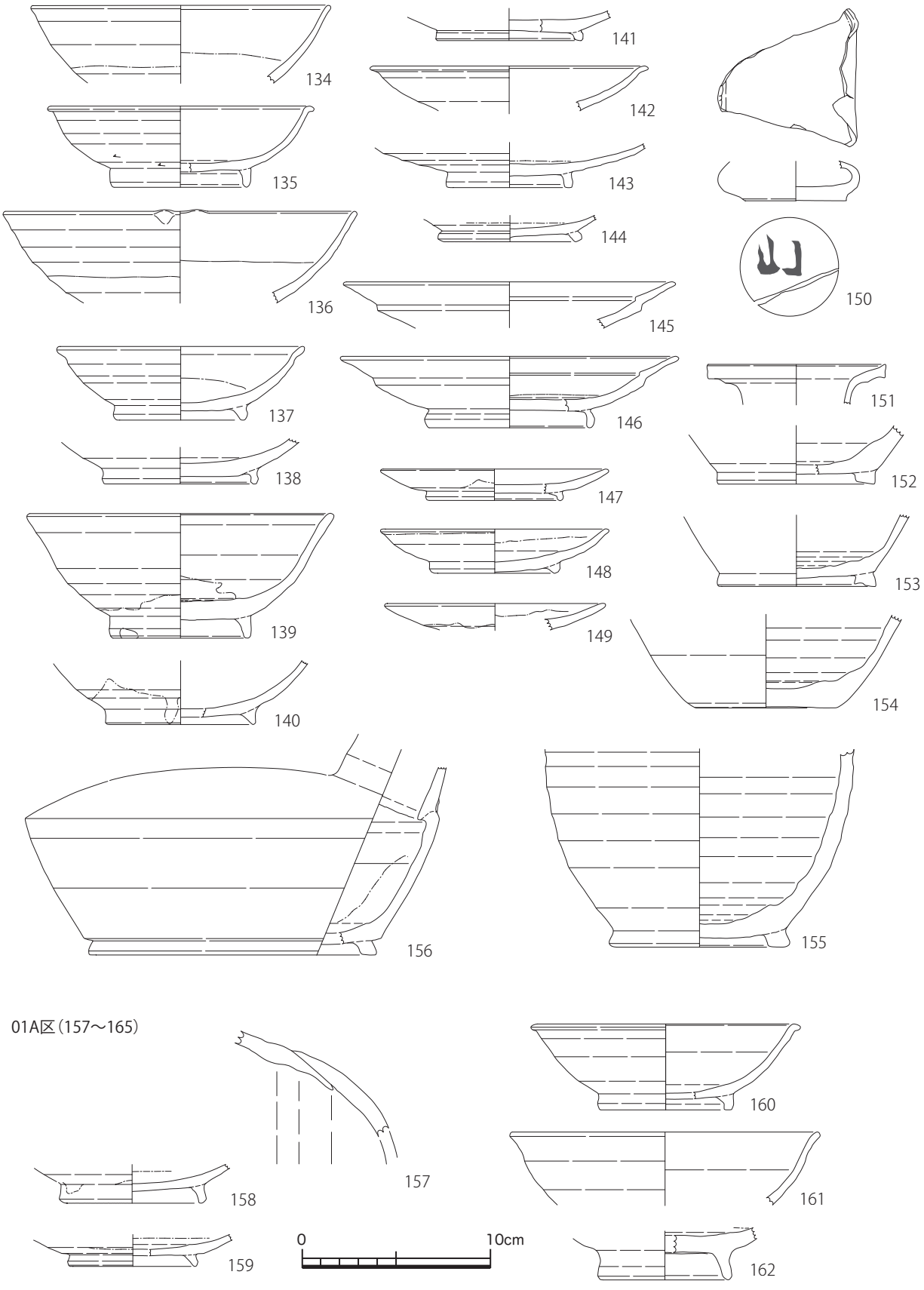


図 26　包含層出土の土器・陶器 4（古代 ,S=1/3）

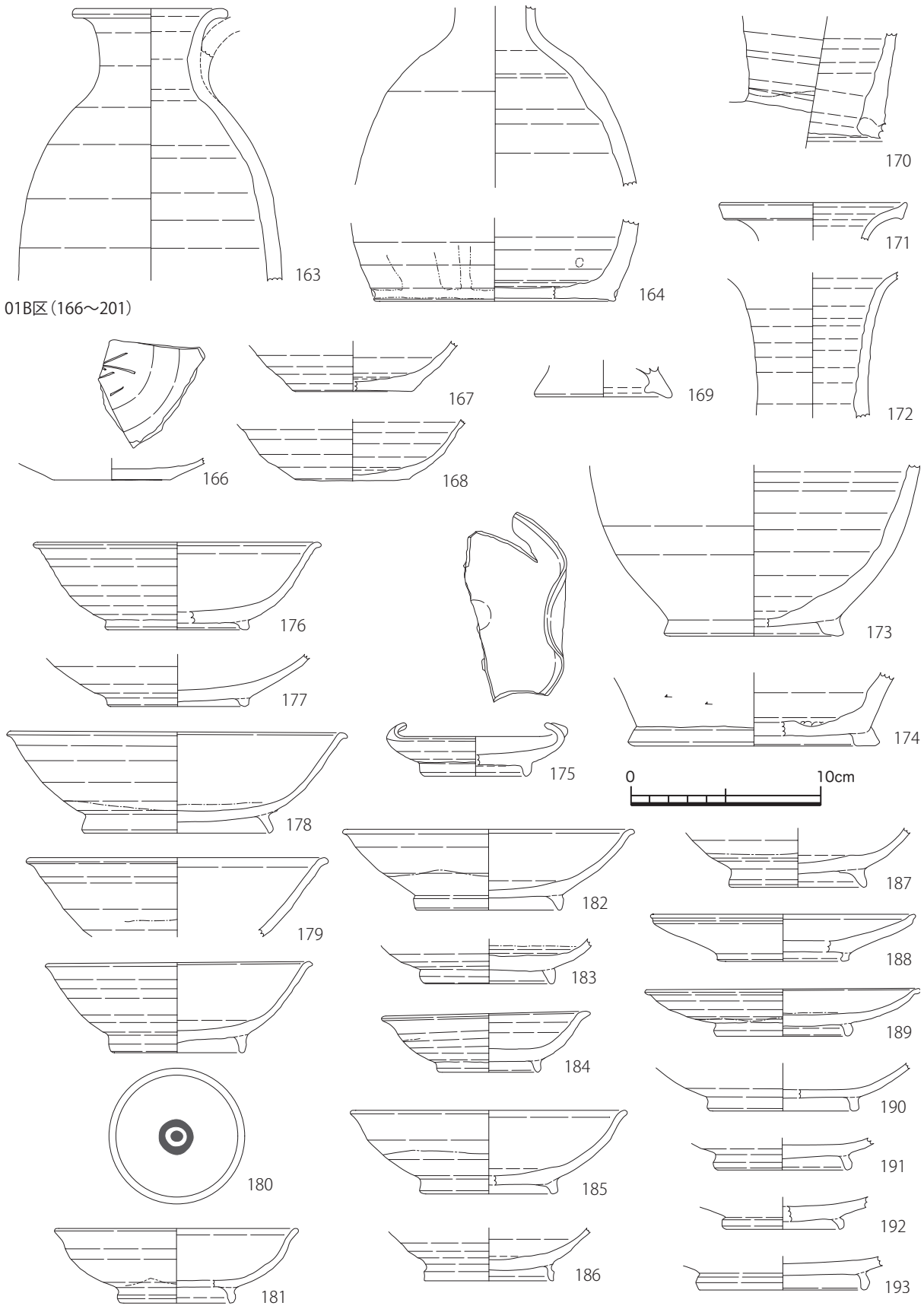


図 27　包含層出土の土器・陶器 5（古代 ,S=1/3）

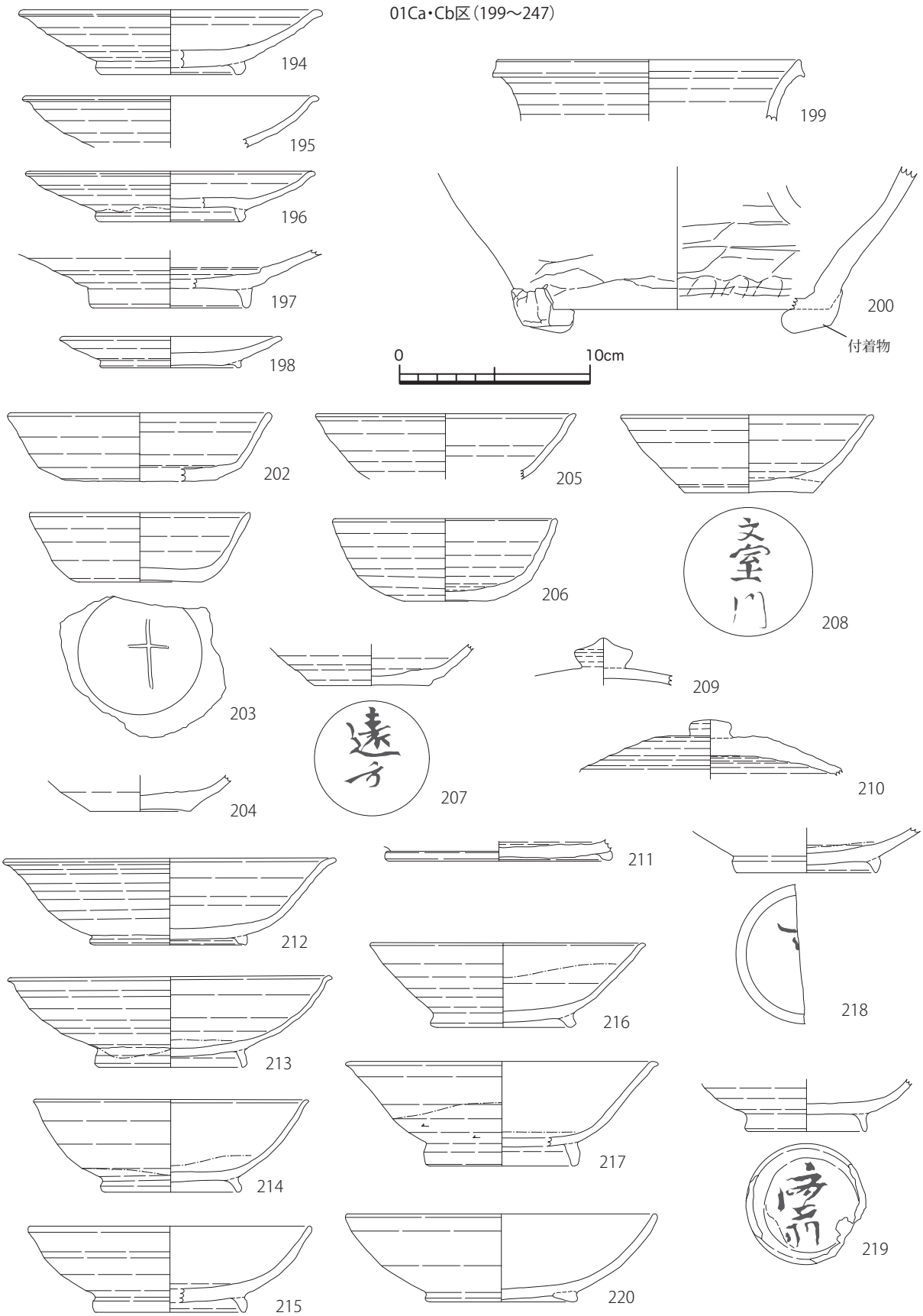


図 28　包含層出土の土器・陶器 6（古代 ,S=1/3）

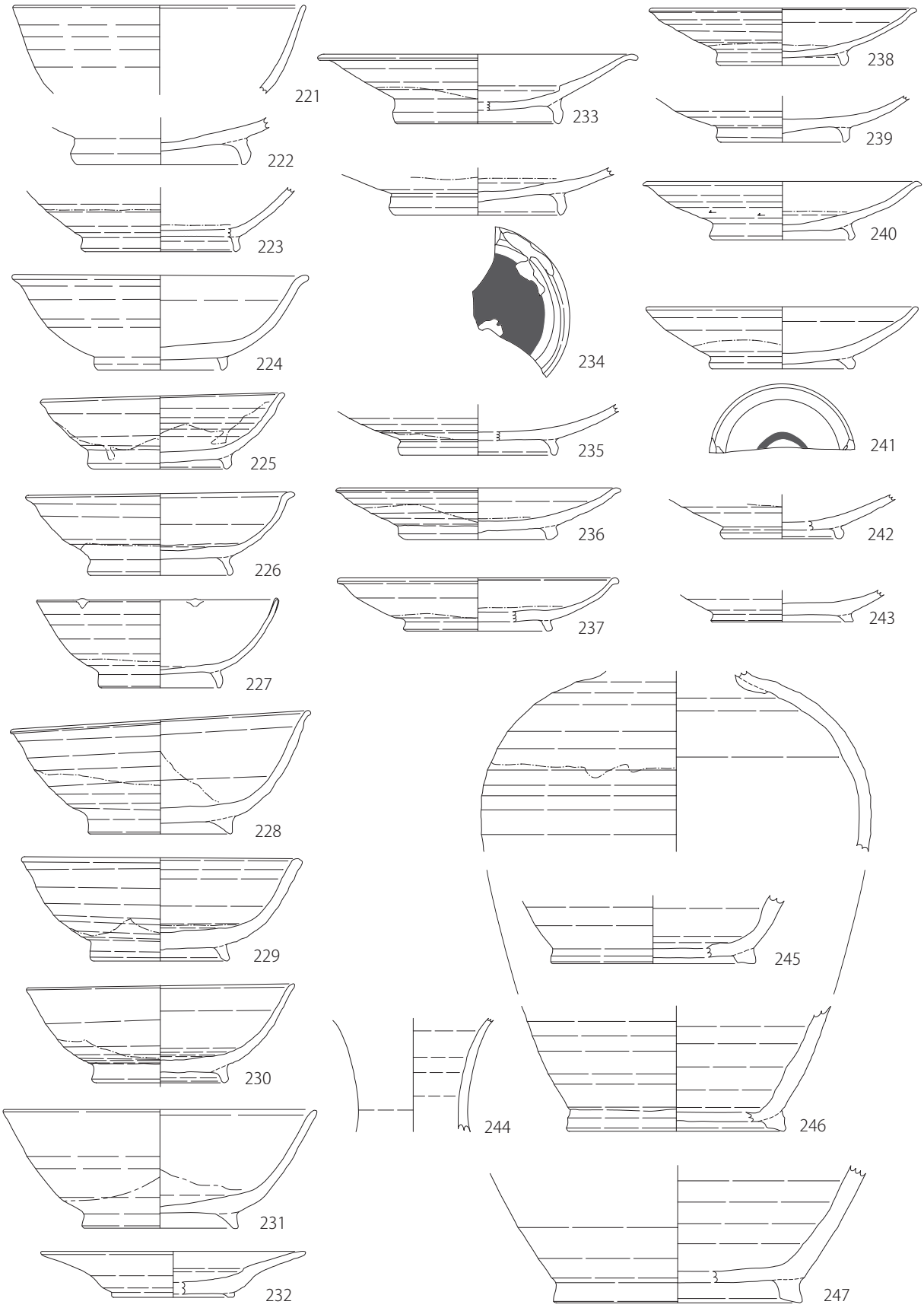


図 29　包含層出土の土器・陶器 7（古代 ,S=1/3）

とある。

00B 区（113 ～ 156）

113 ～ 117 は須恵器である。113,114 無台杯は体部が直線的に八の字状に開く。底部脇に摩滅痕が認められる。115 は長頸瓶。116 は蓋。O-10 ～ K-14 号窯式に属する。117 は甑で、外面胴部はタタキ整形ののち上端をヨコナデ、下半は縦方向にケズリ、中位には凹線 1 条をめぐらし把手を 2 ヶ所に貼付ける。内面はヨコナデ調整を施す。底部透しの形状は、中央に円形、その周囲に半円形 4 個を配置したものと思われる。

118 ～ 155 は灰釉陶器である。118 ～ 140 の椀は中型と小型、輪花椀があり、K-90 号窯式を中心に墨書のある資料がみられる。118 ～ 122 は K-14 号窯式。摩滅痕は高台にみられるほか、口縁部内側と端部（118,119）、外面腰部（118）にも認められる。123 ～ 133 は K-90 号窯式。墨書があり、128 は「山」、129 は「山寺」、133 は記号的に塗りつぶした丸が高台内に描かれている。133 は高台内も摩滅しており、転用硯として用いられた可能性がある。摩滅痕は高台部分のほか内面に認められる個体が目立つ。134 ～ 136 の釉薬は漬け掛け、O-53 号窯式。136 は輪花椀。摩滅痕は高台部分と一部に内面にも認められるものがある。137 ～ 139 は高台内に糸切りが残る。H-72 号窯式。140 は断面三角形の高台が付く。百代寺窯式。141 ～ 150 は皿である。141 は K-14 号窯式。142 ～ 146 は K-90 号窯式に含まれるもので、145,146 は段皿。高台接地面に摩滅痕が認められる。147,150 は O-53 号窯式で、150 の耳皿は底部糸切り未調整で、底部に「山」の墨書がある。148,149 は H-72 号窯式。151 ～ 155 は長頸瓶。156 は平瓶。

01A 区（157 ～ 165）

157 は須恵器の横瓶片。158 ～ 162 は灰釉陶器椀で 158 は K-90 号窯式、159,160 は 0-53 号窯式、161,162 は H-72 号窯式か。ただし 160 は未施釉。163 ～ 165 は水注。165 底部は糸切り後ナデ調整を施す。

01B 区（166 ～ 201）

166 ～ 168 は須恵器無台杯。166 は内面にヘラ書あり。167 は内面に摩滅痕、168 は底部に墨痕あり。169 は瓶類の高台部分か。

175 ～ 198 は灰釉陶器である。175 は耳皿。高台内に糸切り痕が残る。170 は平瓶。171 ～ 174 は長頸瓶などの瓶類。174 の胴部下半はケズリ整形。176,177 の椀は K-14 号窯式。177 の高台接地面に摩滅痕が認められる。高台内には墨書があり、不明瞭ではあるがこれも「文室門」と思われる。178 ～ 181 の椀は K-90 号窯式。180 の高台内には、二重丸の記号のような墨書がある。。183 ～ 185 の椀は O-53 号窯式。内面と高台接地面に摩滅痕が認められる。186,187 椀は H-72 号窯式。高台内に糸切り痕が残る。188 椀は百代寺窯式。底部は厚手で、内面と高台部分に摩滅痕が認められる。189 皿は体部が直線的に開き、底部が厚い。口縁端部外側と高台に摩滅痕が認められる。K-14 号窯式か。190 ～ 196 皿、197 段皿は K-90 号窯式。内面と高台接地面に摩滅痕が認められる。198 皿は底部が厚く、高台は底部を外れた位置に付く。H-72 号窯式。

01Ca・Cb 区（199 ～ 247）

199 ～ 211 は須恵器である。199,200 は壺口縁、201 は甕。胴部はタタキ整形の後下部をヘラケズリ調整する。底部を薄く作る。杯は 211 を除いて他は無台杯で、腰部を面取するもの（202）、しないもの（203）、体部が丸みをもって立ち上がるもの（206）、八の字状に開くもの（204,205,207,208）などがある。203 は底面に「十」のヘラ書きがある。墨書については、207 は「遠方」、208 は「文室門」と底部にあり、後者は 110 と筆跡が近似している。概ね O-10 ～ K-14 号窯式に属すると思われる。211 は有台杯の底部で、高台内と高台に摩滅痕が認められる。209,210 は蓋、釦形の紐部分。

212 ～ 219,221 ～ 244 は灰釉陶器である。212 椀は K-14 号窯式。口縁内側、外面腰部と高台部分に摩滅痕が認められる。213 ～ 219 椀は K-90 号窯式。215 は内面全面に施釉。217 の胎土は緻密、精良である。高台部分に摩滅痕が認められる。高台内に墨書されるものがあり、219 は稚拙な筆運びであり、おそらく「文室門」を真似たものと思われる。221 ～ 227 椀は O-53 号窯式。230 ～ 229 は H-72 号窯式。231 椀は百代寺窯式。皿では 232 段皿が K-14 号窯式。233 ～ 240 は K-90 号窯式。233 は段皿。234 は高台内が摩滅し、広い範囲に墨の痕跡がみられ、硯に転用されたものと思われる。241,242 は O-53 号窯式。241 は内面と高台部分に摩滅痕、高台内に墨書（「○」か）が認められる。243 は内面と高台部分に摩滅痕、高台内に墨痕が認められる。底部には糸切り痕が残る。H-72 号窯式。

245 ～ 244 は長頸瓶。246 の頸部接合部は三段構成で、肩部にかけて厚く灰釉が施される。

220 は緑釉椀で、今回調査ではこの 1 個体のみ。釉は総釉で、内面にピン跡が残る。高台は断面は扁平な三角形を呈し、幅のある蛇ノ目高台である。表面は光沢のある暗緑灰色を呈する。出土の直後は黒色に近く、釉の色調は埋没中に変化したものと思われる。

＜ IV・V 期の遺物＞

99 区（248 ～ 265）

丘陵末端付近で土坑、溝など遺構が検出されている。IV-1 期と少量の IV-2 期、V 期の遺物がある。掲載資料は水田（湿地）と旧河川出土遺物から抽出した。IV-1 期前半に属するのものが多い。

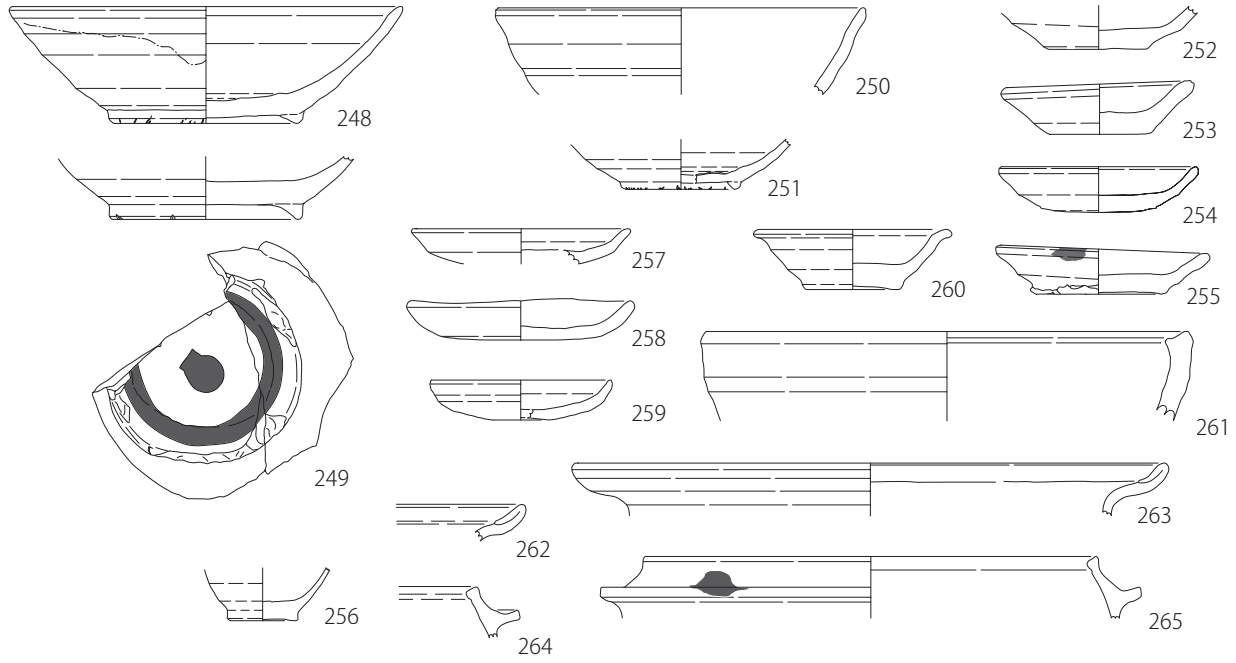
00A 区（266 ～ 271）

主に微高地を覆う表土からの出土遺物は主に山茶碗・小皿である。266 は尾張型第 8 型式。267 は高台の付く小碗、第 4 型式。268 は第 7 型式。269 は東濃型小皿で底部に「の」と墨書が施される。270,271 は灰釉折縁小皿。古瀬戸後期 III か。

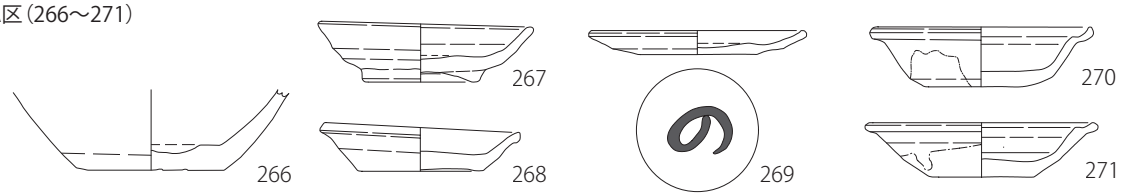
00B 区（272 ～ 292）

旧河川の出土資料である。比較的遺存状況の高い遺物が多い。272 ～ 281,288 ～ 290 山茶碗は口径が広く、口縁端部が外反する。断面三角形の高台が付き、高台にはモミ痕のあるもの、無いものとがある。尾張型第 3，4 型式段階か。いずれも高台部分が摩滅し、内面にも摩滅痕が認められる資料が多い。290 は口縁上端が内側に突出した形状で、高台内に「上」と墨書が施される。高台部分は摩滅するが内面には認められない。小碗は良好な資料がなく、小皿はやや新しい時期のもので、282 ～ 286 は尾張型第 5 型式、第 7，8 型式段階か。287 は胎土が精良で焼成は軟質である。291 は灰釉四耳壺、292 は灰釉平底末広碗。

99区（248～265）



00A区（266～271）



00B区（272～292）

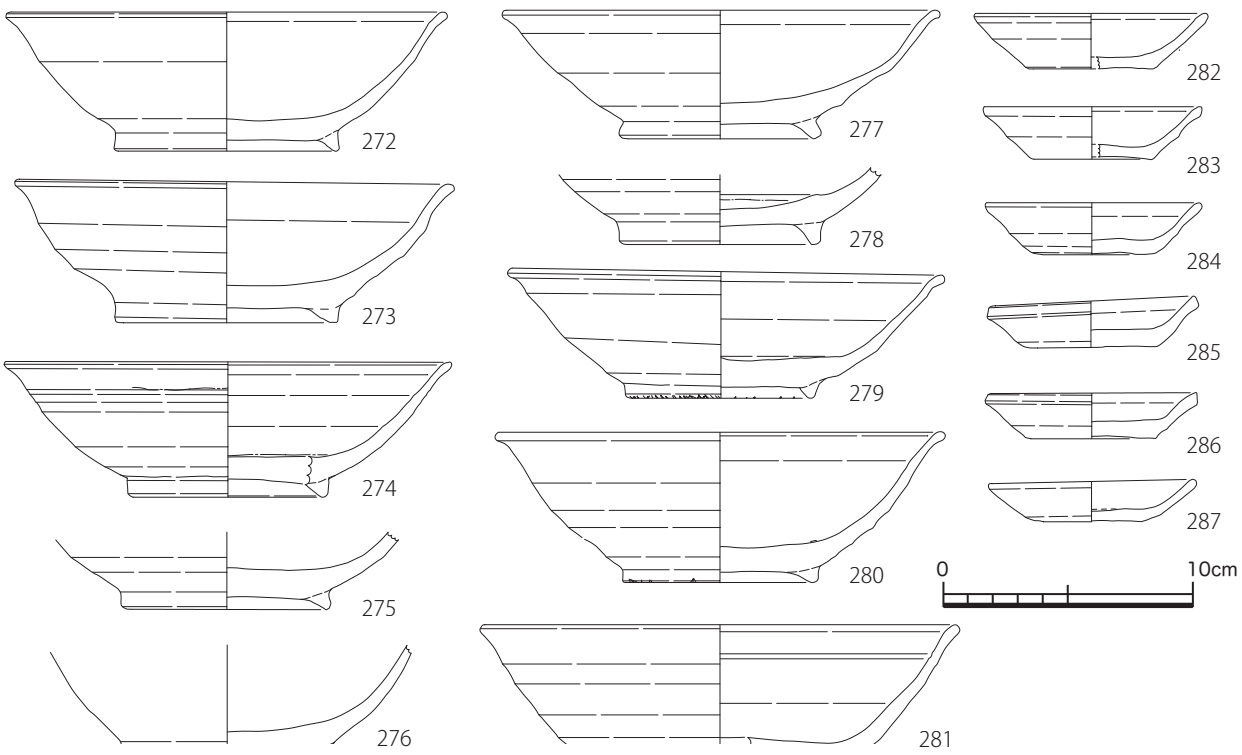


図 30　包含層出土の土器・陶器 8（中世 ,S=1/3）

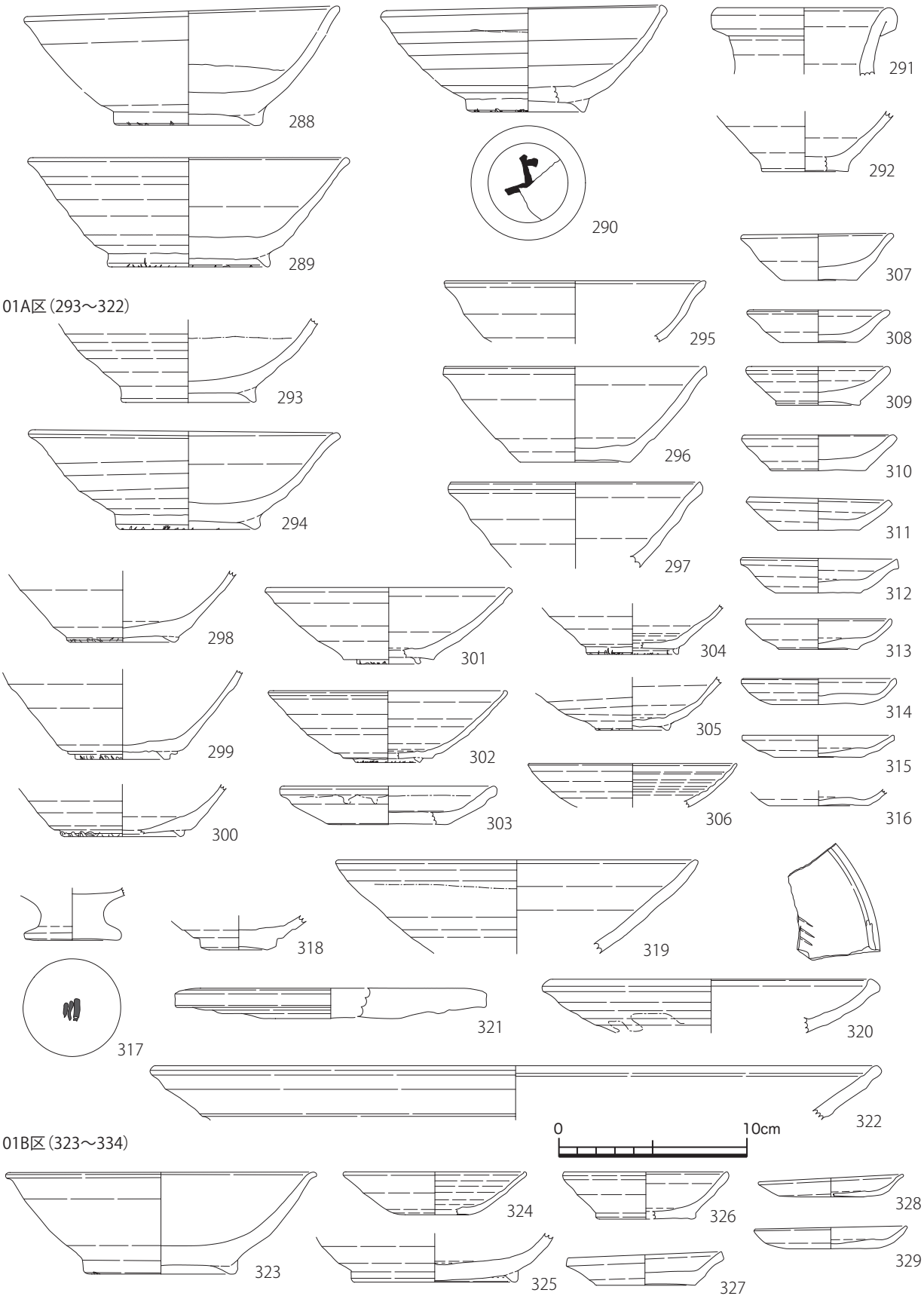


図 31　包含層出土の土器・陶器 9（中世 ,S=1/3）

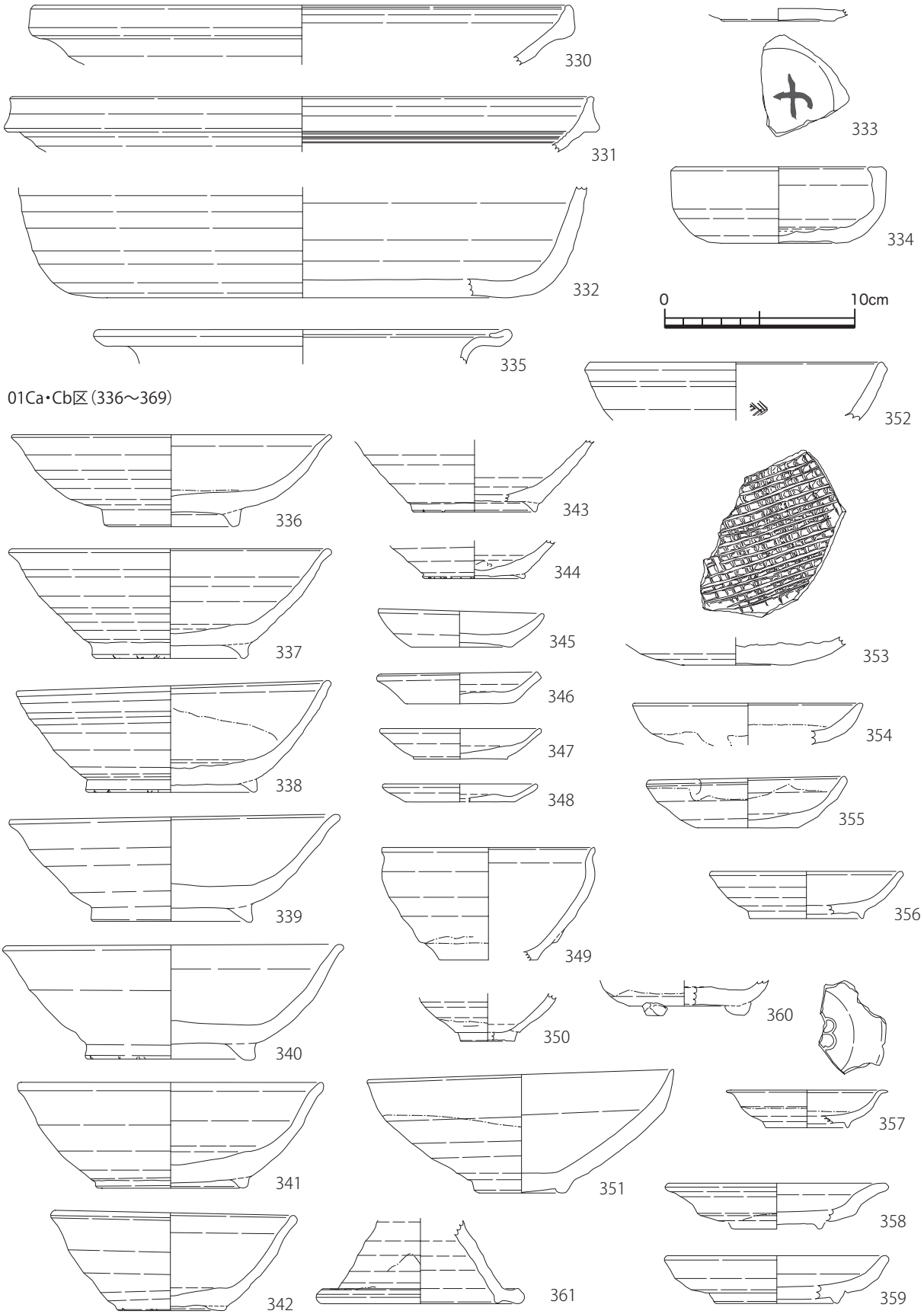


図 32　包含層出土の土器・陶器 10（中世 ,S=1/3）

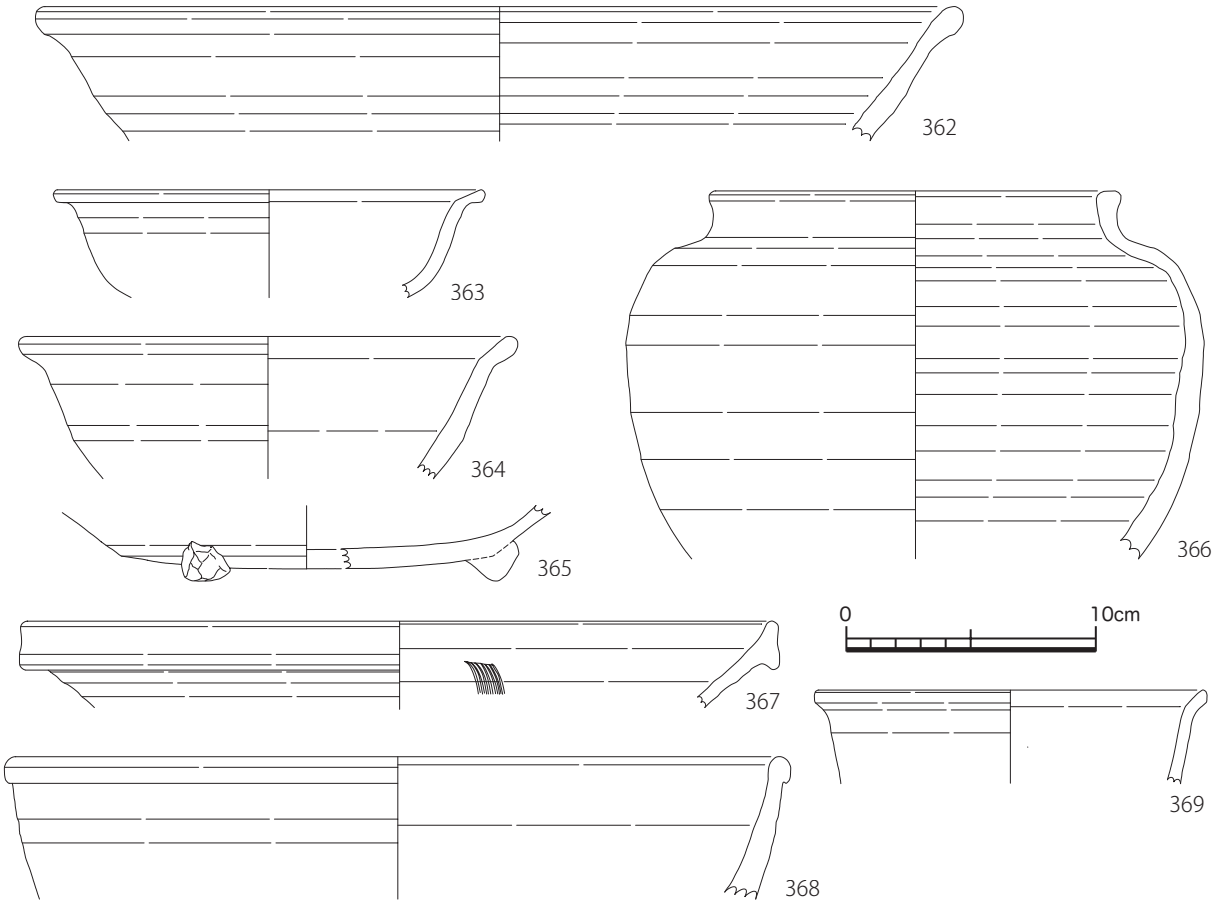


図 33　包含層出土の土器・陶器 11（中世 ,S=1/3）

01A 区（293 ～ 322）

水田および旧河川の出土資料である。293 ～ 297 は尾張型山茶碗。293,295 は口縁部内面に降灰が認められる。307 ～ 312 は尾張型。298 ～ 306 は胎土が緻密な東濃型山茶碗。小皿は 313 ～ 316 が東濃型。317 は仏供。底部に墨書されている。318 は内反高台の天目茶碗。319 は灰釉平碗。320 は灰釉卸皿。内側に円環状にめぐる突起に摩滅痕が認められる。322 は灰釉直縁大皿。以上の施釉陶器は概ね古瀬戸後期の時期にまとまりがみられる。321 蓋は上面のみ鉄釉が施されており、下面の突起は使用のため摩滅している。

01B 区（323 ～ 335）

水田および旧河川の出土資料である。323,325 山茶碗はやや大振りで、尾張型第 4 型式に属する。326,327 小皿はそれぞれ第 5 型式、第 7，8 型式か。333 は尾張型小皿で底部に墨書が施されている。324 は東濃型山茶碗、脇之島 3 号窯段階。328,329 は東濃型小皿で、時期は大洞東～脇之島窯段階か。335 は土師器伊勢型鍋、使用痕がある。330,331 は錆釉擂鉢。332 は灰釉洗。施釉陶器は概ね古瀬戸後 IV 期～大窯 1 段階に属する。334 は窯道具の匣鉢。底部に製品溶着の痕跡がある。大窯期のものと思われる。

02B・C区（370～396）

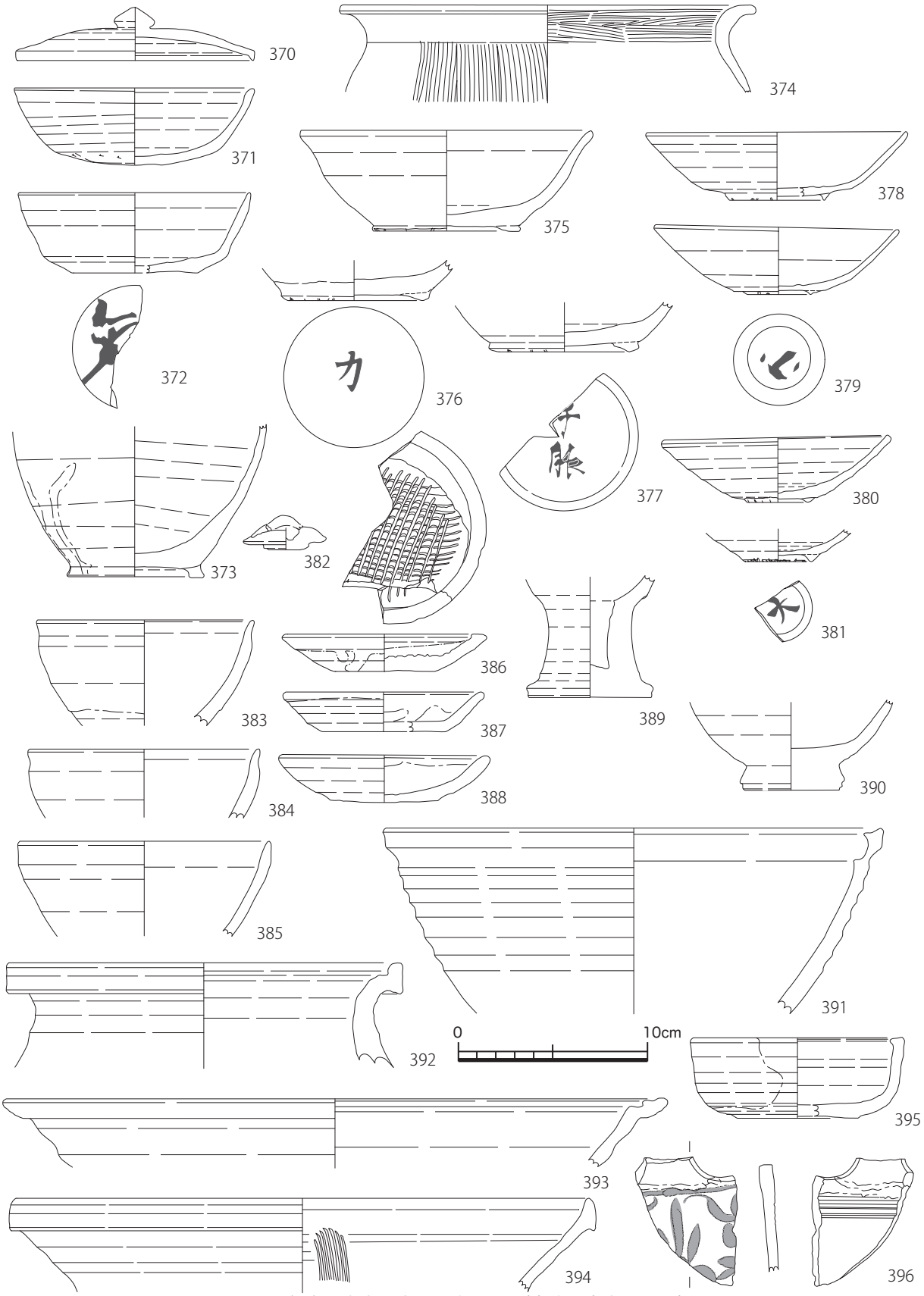


図 34　包含層出土の土器・陶器 12（古代・中世 ,S=1/3）

01C 区（336 ～ 369）

調査区南側は 00A 区微高地から続く比較的浅い部分、北側はやや深い流路が通る。流路の木材集積地点から III-1a 期の山茶碗が比較的纏まって出土した。336 は尾張型第 3 型式、337 ～ 341 は第 4 ,5 型式と併行する東濃型山茶碗も含まれる。高台部分および内面に摩滅痕が認められる。342 は第 6 型式。343,344 は東濃型山茶碗。345 ～ 348 は小皿。345 の胎土は比較的精良で軟質の焼成である。尾張型第 5 型式併行期か。346 は第 7, 8 型式 347,348 は東濃型。362 は片口鉢。摩滅痕は口縁部内側に顕著にみられる。349,350 は天目茶碗。351 は灰釉平碗。353 は卸皿。354,355 は灰釉縁釉小皿。363 は灰釉折縁中皿。364 は灰釉折縁深皿。365 は直縁大皿底部。368 は灰釉洗。369 は灰釉柄付片口。施釉陶器のうち 364,368,369 は IV-1b 期、他は概ね IV-2 期に属する。356 は焼締の小皿。360 は鉄釉香炉。361 は鉄釉燭台の脚部。357 は内面に印花文のある灰釉端反皿。367 は錆釉擂鉢。366 は錆釉釜。大窯第 1 段階に属するものか。358 は灰釉反り皿。359 は長石釉丸皿。V 期に属する。

＜ 02B,C 区＞（370 ～ 396）

遺物は少なく散漫に分布する。その中でも III 期の遺物は多くない。370 ～ 372 は須恵器。370 は釦状の紐が付く蓋。371 は無台杯で体部は丸みをもち底部を手持ちケズリする。372 も無台杯で体部は直線的で腰部は面取する。底部は回転ケズリ調整であり、判読できないが、大きく文字が墨書されている。373 は長頸瓶か。374 は土師器濃尾型甕。外面にススが多く付着する。

IV・V 期の遺物が表土および湿地で検出された。376 ～ 381 は山茶碗。尾張型 6 型式（376,377）、東濃型大畑大洞～大洞東窯段階（378 ～ 381）のものがある。底部に墨書されるものがあり、376 は「力」、377 は中世資料では稀な複数の文字、381 は「大」とある。383 ～ 385 は天目茶碗。390 は仏餉具で、外面上部に錆釉が施される。382 は鉄釉蓋。386 は灰釉卸皿。387 は鉄釉縁釉小皿、388 はハサミ皿。395 は匣鉢。391 は錆釉内耳鍋。393 は灰釉折縁深皿。394 は鉄釉擂鉢。392 は常滑産甕。396 は磁器染付の筒形容器で、欠損部付近に修復跡（焼継）がみられる。

＜その他＞

I 期の遺物として、縄文土器と後述する石器類がある。土器は第 V 層トレンチ調査の際に採取されたものであり、遺存状況は極めて悪い。1 ～ 3 は深鉢型の縁帯文土器であり後期初頭～中葉に属するものと思われる。

II 期の遺物として、土師器壺の底部（6）、小型壺（4,5）、台付甕（7）がある。

IV 期の遺物として少量ながら青磁碗、皿が出土している。龍泉窯系の鎬蓮弁文、画花文碗、同安窯系の櫛目文のある皿などであるが、いずれも約 3 ～ 4 cm 角程度の小片である場合が多い。その他に陶丸（411 ～ 416）、加工円板（408 ～ 410）、土製錘（417,418）がある。このうち加工円板は近世の陶器片を利用したものであり、409 は周囲に研磨が施されている。

4　木製品

河川流路より木質遺物を多数検出した。大半は自然木であるが、加工痕のある製品等が含まれる。01Cb 区の河川流路下層（第 IV 層）より集中して見つかっている。案（1）は厚さ約 2.5cm の台部と下方が撥状に開く脚部からなる。脚部（2）は脚の太さに比べ結合部が不釣り合いに大きく。おそら

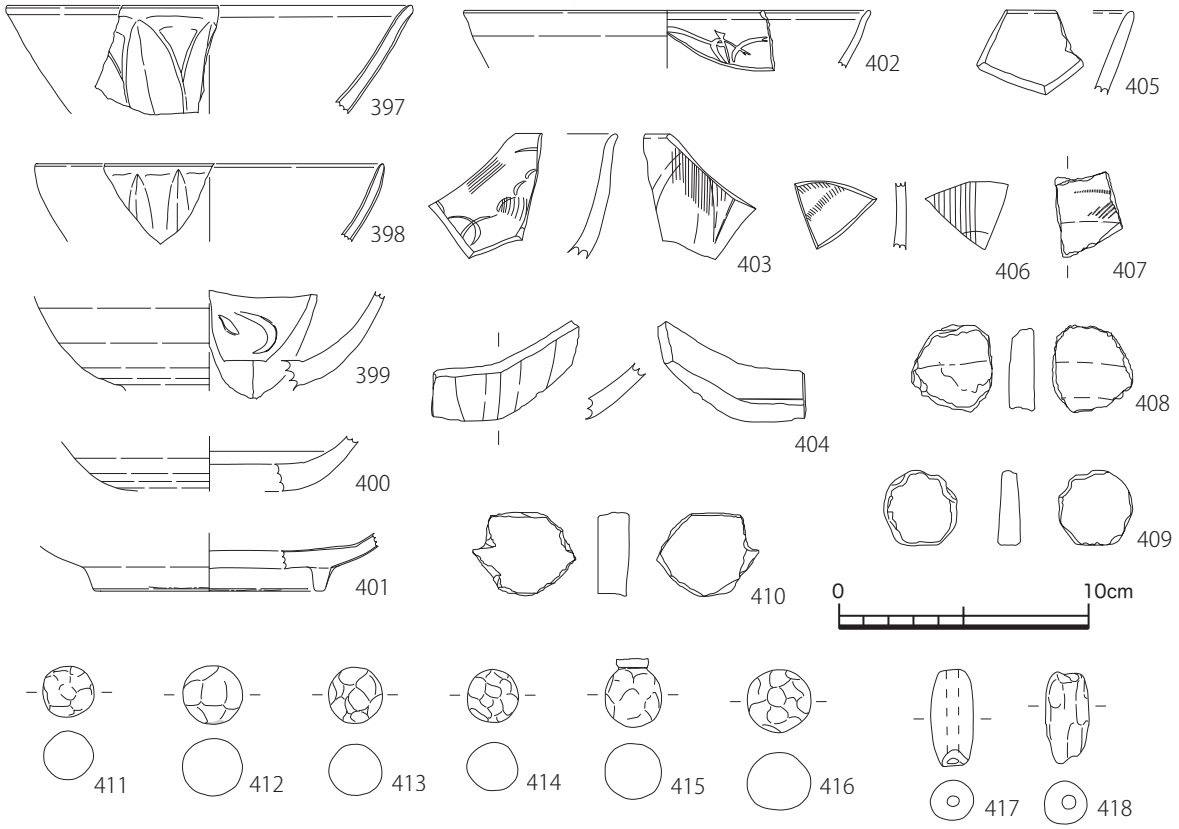


図 35　磁器・その他土器・陶器（S=1/3）

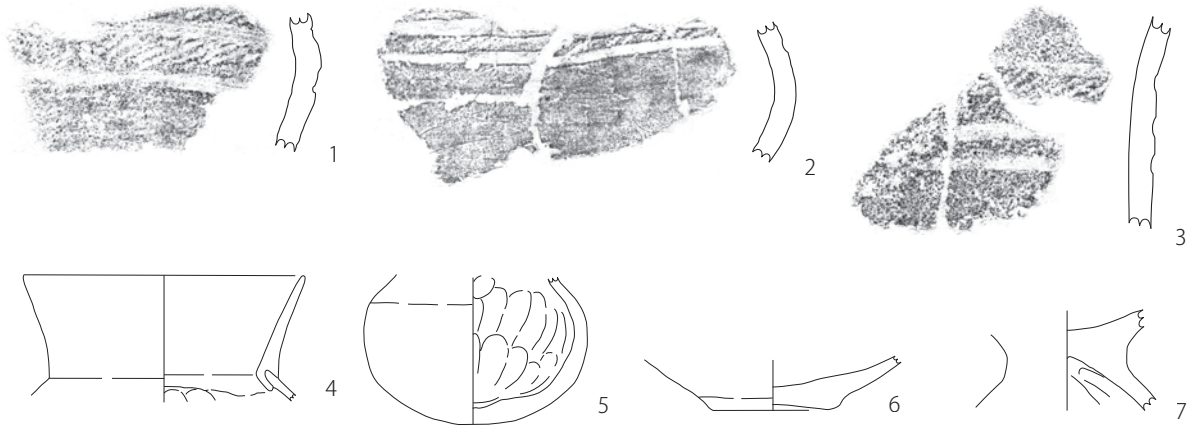


図 36　縄文土器（1 ～ 3,S=1/2）・土師器（4 ～ 7,S=1/3）

く脚部下方が破損したため短く作り変えたものと思われる。把手付刳物容器（3）は槽部分に短い把手がつく。陽物形（4）の材はツバキ、木箆（5）などがある。建築部材と思われる板材が比較的多く（6）有抉板材は一部が炭化している。（7）は田下駄の足板と思われる。曲物底（9,10）、棒状木製品（11,12）、（13）は垂木と思われる。（14）は田下駄、（15）は大足の足板。（16）は薄い板状の棒状木製品で 1 個所に目釘が残る。（17,18）は棒状の有抉材。（19）は折敷であったものを穿孔し転用している。

製品の樹種および放射性炭素年代測定（伐採年代）について、分析結果を表 5，6 に記す（註 1）。

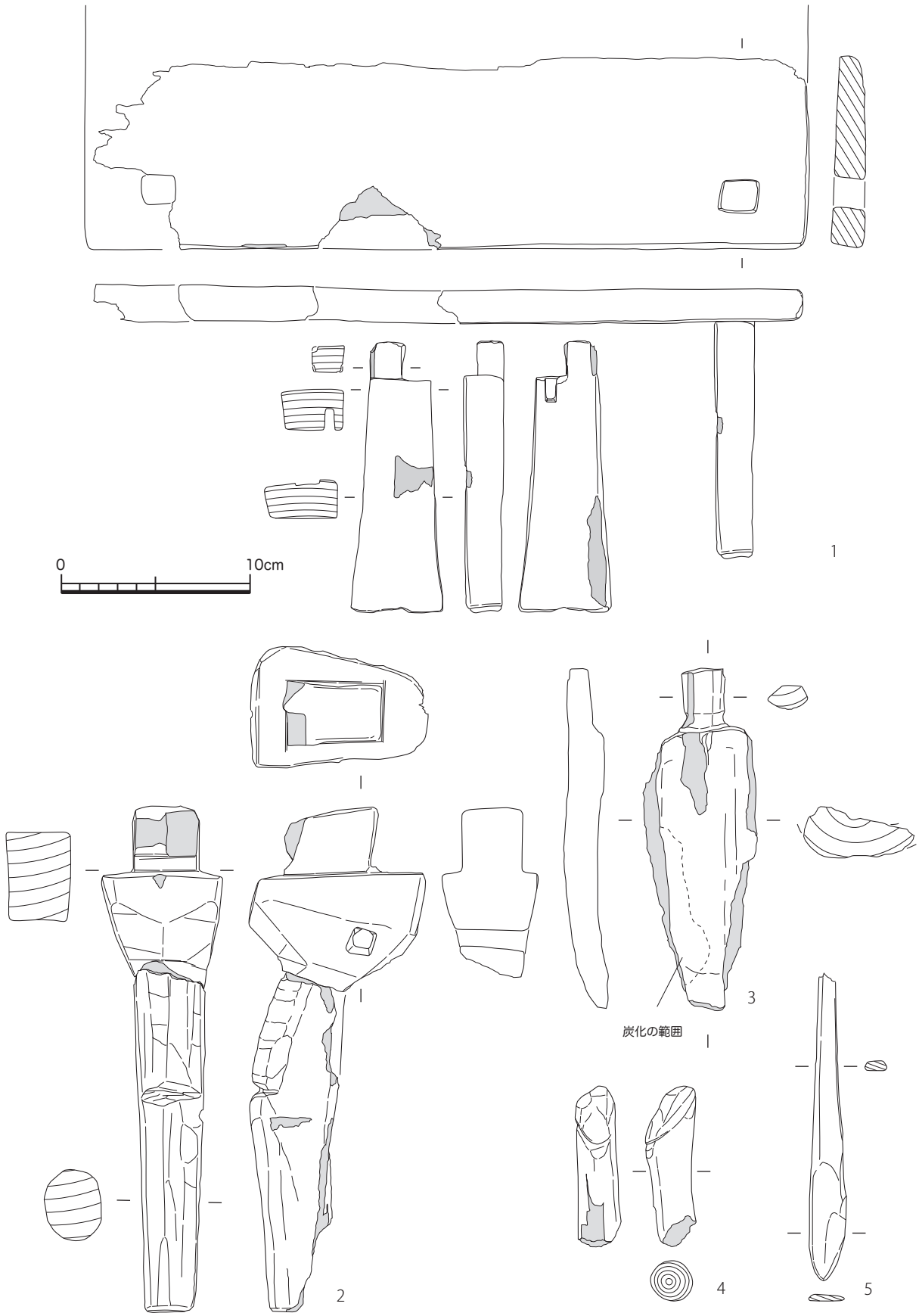


図 37　木製品 1 （S=1/3）

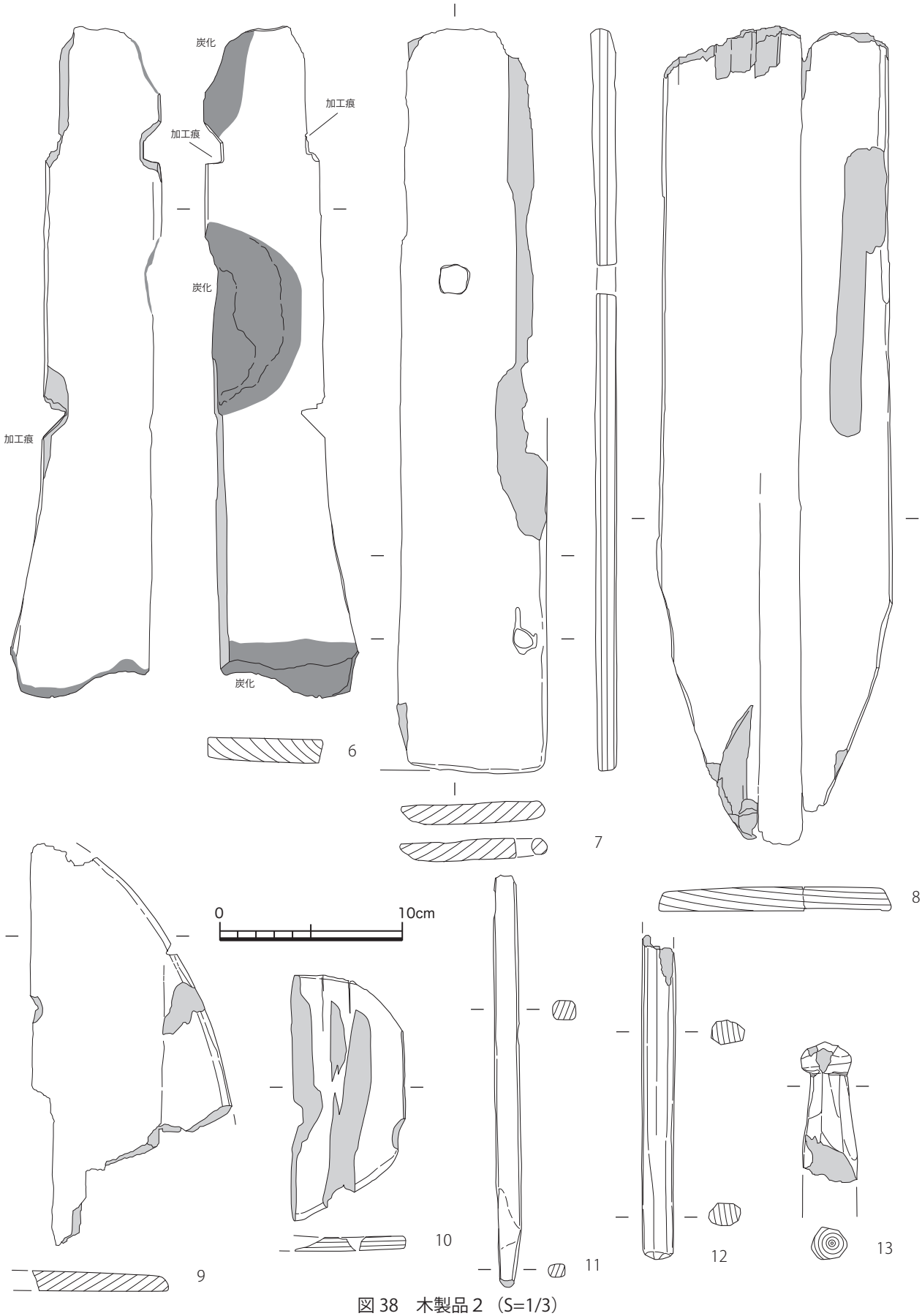
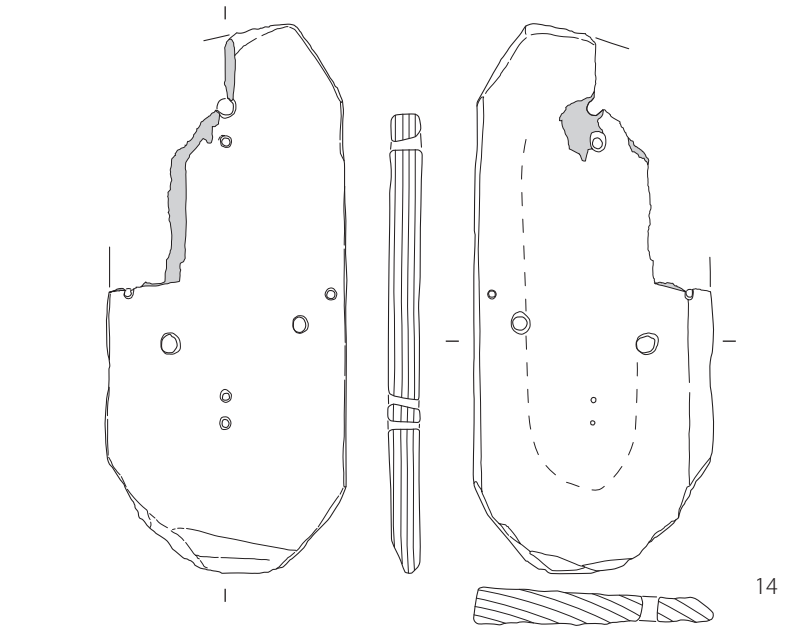


図 38　木製品 2（S=1/3）



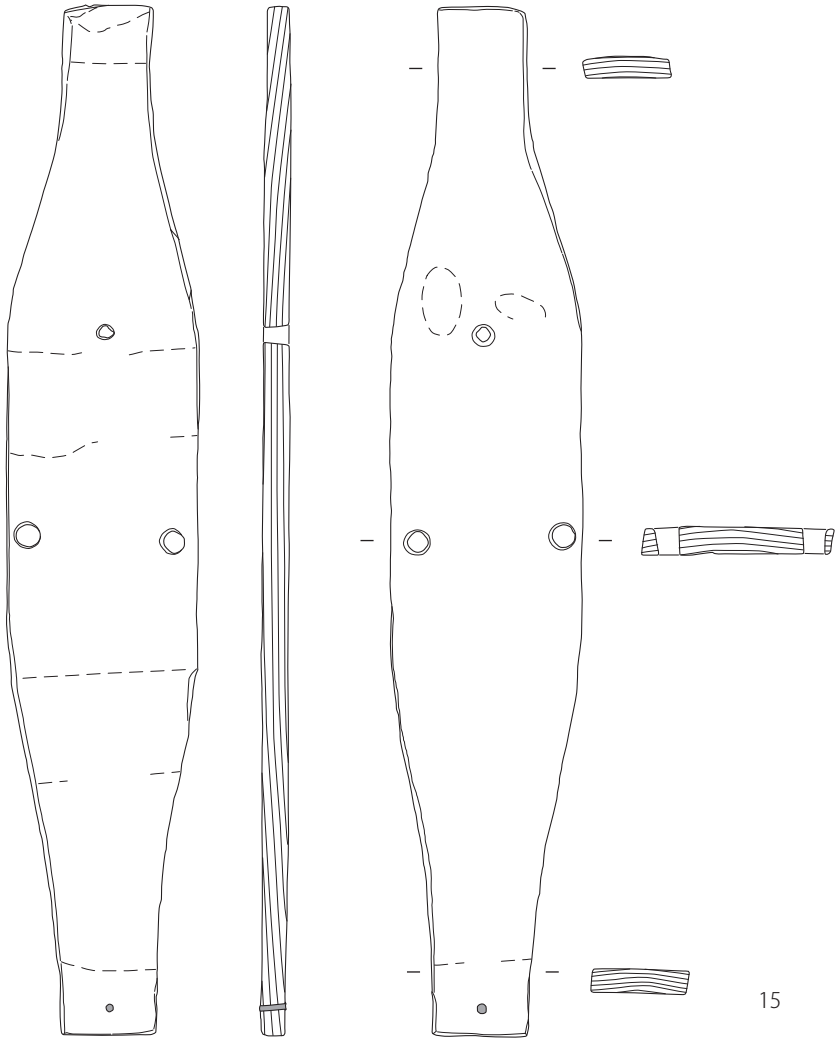


図 39　木製品 3 （14,15 のみ S=1/4）

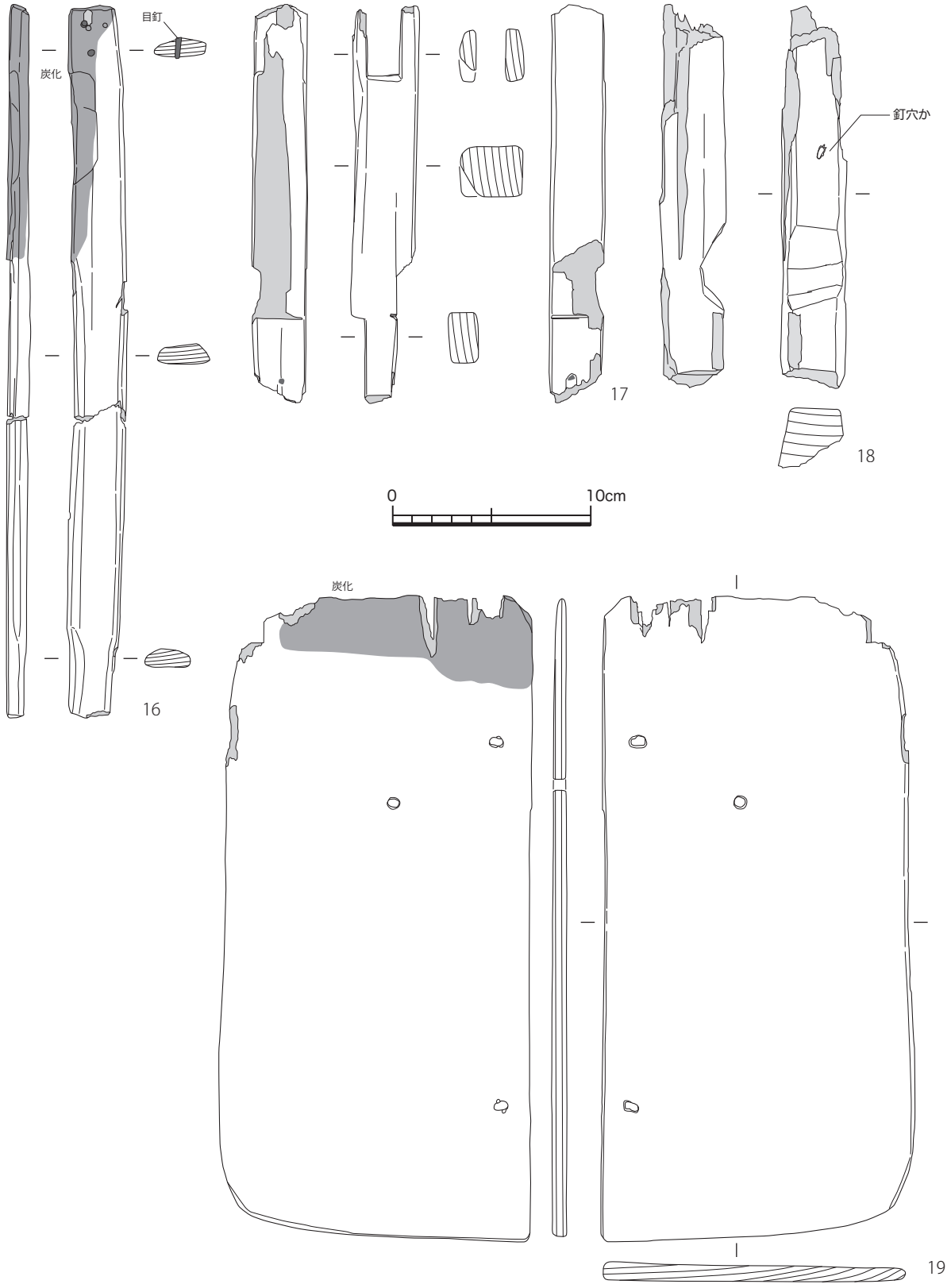


図 40　木製品 4 （S=1/3）

表５　木製品の樹種

W-no.	調査区	グリッド	遺構	器種（形状）	樹種	木取り	長さ（cm）	幅	厚さ
1	01B	IXE3a	NR01	案	ヒノキ	斜め柾目	*37.5	*9.9	1.7
1	01B	IXE3a	NR01	案脚部	ヒノキ		14.2	4.9	2.2
2	01Ca	IXE5d	NR01.no.9	脚部	アカガシ亜属	柾目	26.8	9.1	6.4
3	01Ca	IXE6e	NR01,no.10	把手付刳物容器	クヌギ節	板目	*17.8	*5.8	*2.6
4	01B	IXE5a	NR01	陽物形	ツバキ		*7.4	2.5	2.5
5	01Ca		NR01北西部	木箆	ヒノキ	斜め柾目	*16.2	2.0	0.6
6	01Cb	IXE2f	NR01	有抉材（板状）	ヒノキ	斜め板目	*36.1	*7.6	1.2
7	01Cb	IXE1f	NR01	板材（田下駄？）	-		*40.4	*8.2	1.1
8	01Cb	IXE2f	NR01	板材	ヒノキ	板目	*44.4	*12.2	1.3
9	01Cb	IXE2f	NR01	曲物底板	ヒノキ	斜め板目	*21.8	*10.0	1.1
10	01D	IXE6n	NR01	曲物底板	ヒノキ	板目	*14.4	*6.0	0.8
11	01Cb	IXE2f	NR01	棒状	ヒノキ	柾目	*22.4	1.3	0.8
12	01A	IXD4m	NR01	棒状	ヒノキ	削り出し	*17.2	1.7	1.2
13	01B	IXD5s	NR01	垂木	不明		*7.7	2.8	1.9
14	01Cb	IXE2f	NR01	田下駄	ヒノキ		29.2	12.4	1.9
15	01Cb		NR01	大足	ヒノキ		54.3	10.1	1.5
16	01Cb	IXE4c	NR01	棒（木釘付き）	ヒノキ	柾目	35.4	2.8	0.9
17	01Ca	IXE4d	NR01	有抉材（角柱状）	ヒノキ	柾目	*19.9	2.9	2.5
18	01Ca	IXE5e	NR01,no.11	有抉材（角柱状）	ヒノキ	分割	*19.2	*3.1	*3.0
19	01Cb	IXE2f	NR01	折敷（穿孔して転用）	ヒノキ	斜め柾目	31.8	*15.0	0.8

表６　木製品の放射性炭素年代測定結果

W-no.		$\delta^{13}C$（0/00）	^{14}C年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代（yrBP±1σ）
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
1a	案台部	-26.01±0.16	1145±20	880AD(21.1%)900AD 915AD(47.1%)965AD	780AD(1.5%)790AD 810AD(93.9%)980AD	1145±21
1b	案脚部	-24.16±0.14	1215±20	770AD(45.9%)830AD 835AD(22.3%)870AD	710AD(8.1%)750AD 760AD(87.3%)890AD	1216±20
2	脚	-28.16±0.15	1095±20	895AD(25.8%)920AD 945AD(42.4%)985AD	890AD(95.4%)990AD	1096±20
13	垂木	-28.00±0.16	1210±20	775AD(43.3%)830AD 835AD(24.9%)870AD	720AD(4.1%)740AD 770AD(91.3%)890AD	1208±22
3	把手付刳物容器	-26.44±0.16	1195±20	780AD(7.5%)790AD 805AD(60.7%)875AD	770AD(95.4%)890AD	1195±20

その他、02BBb 区で検出した杭や自然木など加工度の低い資料 22 点について樹種同定を行った。内訳は杭 4 点が針葉樹のアカマツ・ヒノキ、常緑広葉樹のモチノキ属・サカキ、その他芯持ち丸木の形状が大半の木製品 14 点では、ヒノキ（6 点）・アカガシ亜属（3 点）・サクラ属（2 点）・カヤ（1 点）・クリ（1 点）・カエデ属（1 点）、自然木では伐採痕のある根材など 2 点がヒノキであり、カエデ属・アカガシ亜属各 1 点、そのほか炭化材 1 点はクリとの結果を得た。根張り材や加工度の低いこれら検出樹種の多くは、調査区周辺の成育していたと考えられる。以上からヒノキが豊富で常緑広葉樹、落葉広葉樹など多くの種類が成育する自然林に近い安定した森林が広がっていた環境が復元される。なお、東海地方のヒノキが成育している標高は 600m 以上であるが、当時は遺跡を囲む 200 ～ 300m の低山地にも分布していた可能性も考えられるという。なお、この内 3 点について放射性炭素年代測定を行い、7 世紀代伐採資料という年代を得ている（註 2）。

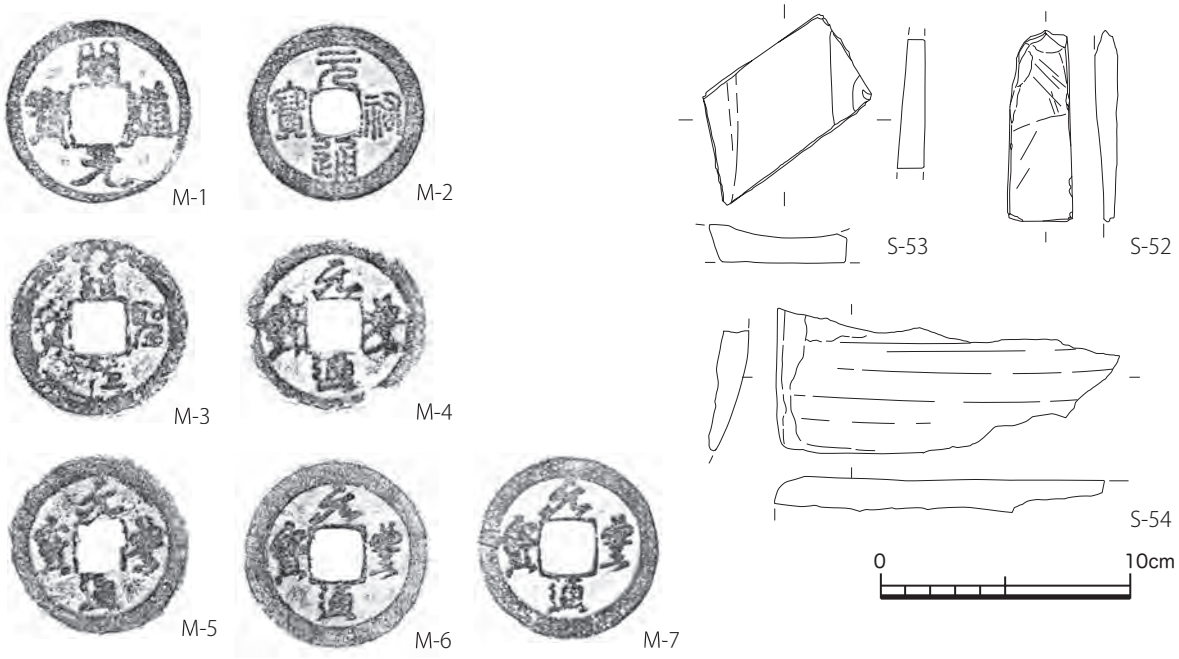


図 41　銭貨（S=1/1）・石製品（S=1/3）

【註】
1) パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ「放射性炭素年代測定」／植田弥生（パレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土木製品の樹種同定」
2) 02C 区分析結果　植田弥生（パレオ・ラボ）「上品野蟹川遺跡出土木製品の樹種同定」／山形秀樹（パレオ・ラボ）「放射性炭素年代測定」

5　石製品（S-no.）・金属製品（M-no.）

II 期以降のものと思われる石製品として、凝灰岩製の砥石（S-52）、泥岩製の硯（S-53）、一部に自然面を残し砥石に利用されたと思われるもの（S-54）がある。泥岩。

金属製品では、鉄鏃と銭貨がある。鉄鏃は旧河川から 2 点が出土した（写真図版 8-44,45）。鉄鏃は主に儀仗用とされる平根の形態であり、III-2 期に属すると思われる。銭貨はすべて北宗銭であり、散漫な分布状況がみられる。1 は明道元寶（初鋳年代 1042 年）、4 ～ 7 は元豊通寶（同 1078 年）、2 は元祐通寶（同 1086 年）、3 は紹聖元寶（同 1094 年）。

6　石器（S-no.）

本調査によって出土した石器は 80 点ほどで、剥片石器が主体となっている。調査区内には大きな自然流路が存在しており、その中からの出土が大半を占める。02Ba 区は北東から南西に伸びる丘陵部の末端に位置しており、そこから剥片石器が 5 点出土している。

＜ 02Ba 区出土石器＞（ 1 ～ 5 ）

1 は調整のみられる剥片で、ナイフ形石器の可能性も考えられる。横長気味の貝殻状剥片を使用しており、一端に急傾斜の連続した調整を加えている。また、一側辺にもやや不連続ながらも細かい調整が加えられており、もう一側辺には、使用のためか不連続な剥離が観察される。 2 は掻器と考えら

れる。一側辺にやや連続した剥離が観察される。この石器では、同一石器内で剥離面の風化の度合いの差が著しいものがあり、異なる時期による調整などの可能性も考えられるのか。３・４は剥片で、４はやや横長の貝殻状を呈するものである。５は石核でブロック状を呈するものである。打点をずらしつつ同一方向から連続した剥片作出が行われたようで、貝殻状剥片などが作出されたものと考えられる。

＜その他地点の出土石器＞

主に自然流路内から出土した資料である。以下、器種別に報告する。

石鏃（６～９）　６・７は凹基無茎鏃、９は凹基有茎鏃と考えられる。７・９は鏃身部の平面形状が五角形を呈するもので、８もその傾向がある。８は平基無茎鏃に分類されるものの、基部は若干凸気味を呈しており、有茎鏃との関連も考えられるものである。

石匙 (10)　摘部をもつ刃器で、いわゆる「横長石匙」である。刃部調整は両面から行われている。一端がやや尖り気味になっているのも特徴か。

掻器などの刃器 (11 ～ 13)　刃部調整を行ったと考えられる刃器類を集めたが、使用による剥離との峻別が難しいものもある。11 は上下に打面を転位させながら作出された縦長剥片を使用しており、側辺と端辺に裏側から剥離を加えているか。12 はやや貝殻状を呈する横長剥片を利用して、「拇指状」の刃器が作られている。13 は菱形を呈する剥片の斜辺を中心に連続した剥離が見られるものである。

使用痕のある剥片 (14 ～ 18)　使用によると考えられる剥離痕が観察されるものである。14・16 は剥片の長辺部に連続した細かい剥離が見られる。一方、15・17・18 の細かい剥離はやや不連続気味であり、局所的に見られるものもある。14・17・18 は貝殻状の横長剥片、16 はやや縦長気味の剥片を使用している。

調整のみられる剥片 (19 ～ 21)　製品製作の途中段階のものも含まれている可能性もある。19・21 は扁平な形状の剥片で、両面に周囲からの剥離調整が加えられているものである。20 は貝殻状の横長剥片作出後に縁辺部への若干の剥離が見られることから、ここに分類した。

剥片類 (22 ～ 38)　22・23 は断面形状台形状を呈する、縦長剥片状のものである。ともに剥片端部が垂直の敲打により折られているか。その他、貝殻状の剥片や菱形を呈する剥片などが多く見られる。剥片の長軸が 5 cm ほどの法量のものが最も大きい部類のようである。

石核類 (39 ～ 49)　ブロック状のもの、板状のもの、円板状のものなどがある。作出されている剥片は貝殻状剥片・菱形の剥片などと考えられる。水晶製のものを２例したが (45・48)、今回の調査では、その他器種で水晶製のものは見つかってはいない。

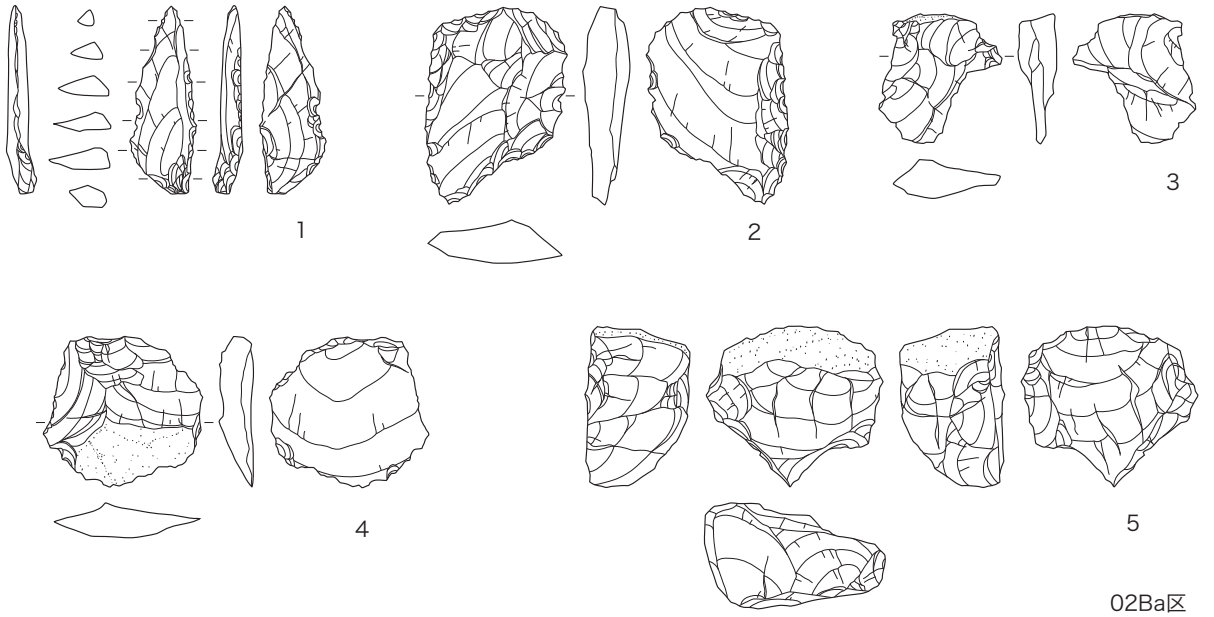
磨製石斧 (50・51)　50 は両刃石斧。断面形状が楕円形を呈する。調整による敲打痕が所々残されており、最終調整としての全面研磨の様子が観察できる。51 は扁平片刃石斧である。断面形状は方形を呈する。使用時によると思われる剥離痕が若干観察されるか。

剥片石器の使用石材　今回の調査では、02Ba 区およびそれ以外の調査区でも、剥片石器石材の主体はチャートである。この傾向は特に剥片・石核類で著しいようである。それに若干の下呂石・溶結凝灰岩・黒曜石・メノウが含まれているようであり、溶結凝灰岩は石鏃 1 点のみ、黒曜石は剥片類 1 点のみである。

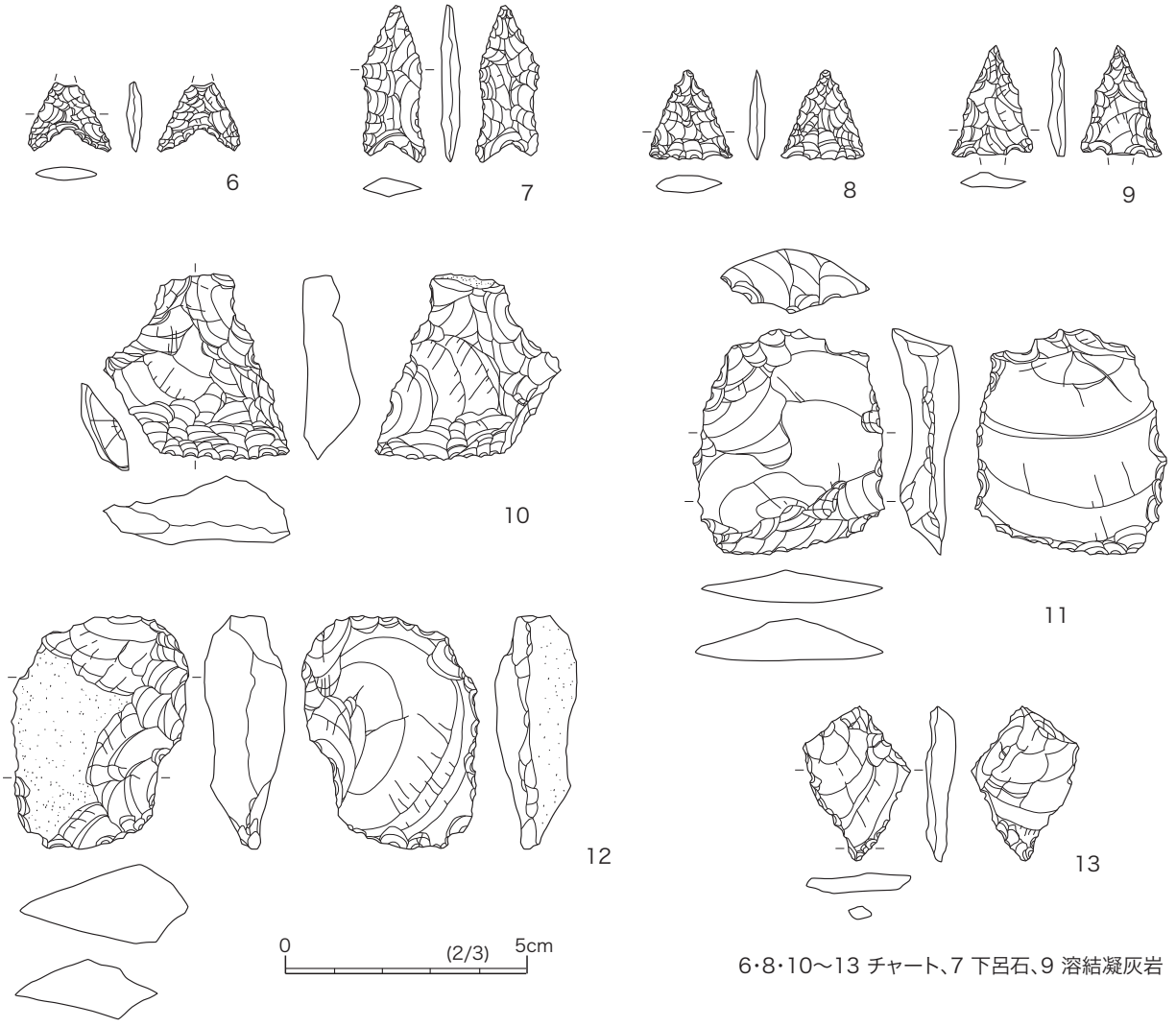
（川添　和暁）

表７　石器類一覧表（掲載資料）

S-no.	調査区	グリッド	遺構・取り上げNo.	器　種	石材1	石材2	備考	長さmm	幅mm	厚さmm	重さg
S-1	02Ba	IXG10k	検出I	ナイフ形石器	チャート			37.20	13.39	5.04	2.33
S-2	02Ba	IXG10k	検出I	掻器・スクレーパー類	下呂石		古い石器の再利用か	38.92	27.64	8.70	9.23
S-3	02Ba	IXG10j	検出I	剥片	チャート			25.57	21.49	6.96	3.10
S-4	02Ba	IXG10j	検出I	剥片(貝殻状)	チャート			29.60	29.94	6.96	6.10
S-5	02Ba	IXG10k	検出I	石核	チャート			31.41	35.75	19.23	24.81
S-6	99	VIIID16o	青灰色粘土,no.8	石鏃（無茎）	チャート			14.34	12.30	2.96	0.59
S-7	00B		表採	石鏃（無茎）	下呂石			32.15	12.43	3.91	1.45
S-8	00A	IXE8j	検出,no.2	石鏃（無茎）	チャート			18.29	14.13	3.66	1.00
S-9	99	VIIID14n,n,15l～n	表土剥ぎ	石鏃（有茎）	溶結凝灰岩			22.48	13.54	3.03	0.96
S-10	02C	IXF9r	検出I,no1	掻器・スクレーパー類	チャート			39.36	31.17	11.22	16.81
S-11	00A	IXE6l	NR01,no.12	掻器・スクレーパー類	チャート			46.10	39.76	8.28	20.89
S-12	00B	VIIIE18d	NR01,no.15	掻器・スクレーパー類	チャート			49.88	35.41	17.03	28.70
S-13	01A	IXD1k	NR02	掻器・スクレーパー類	チャート			31.63	21.52	5.59	3.45
S-14	99		青灰色粘質土,no.17	使用痕のある剥片	チャート			23.08	22.62	8.68	5.42
S-15	99		青灰色粘土直上,no.32	使用痕のある剥片	チャート			37.72	34.59	17.43	26.76
S-16	01B	IXE3a	NR01（下層）	使用痕のある剥片	チャート			41.75	31.18	4.35	7.61
S-17	00B	VIIIE19a	NR01,no.8	使用痕のある剥片	チャート			29.84	29.79	5.42	5.30
S-18	00B		北トレンチ	使用痕のある剥片	チャート			28.04	40.16	6.31	7.34
S-19	00B	VIIID18t	NR01,no.6	調整のみられる剥片	チャート			18.17	12.38	3.54	0.87
S-20	02Bb	IXG9d	検出I	調整のみられる剥片	チャート			16.55	22.03	7.30	2.63
S-21	01A	IXD2l	NR02	調整のみられる剥片	チャート			18.51	21.18	4.64	2.20
S-22	02Bb		検出II（黄灰色粘土層）	縦長剥片	チャート			24.60	16.28	4.40	2.03
S-23	00A・B		表採	縦長剥片	チャート			19.78	11.79	2.68	0.95
S-24	02Bb	IXG8a	検出II（黒褐色粘土層）	剥片	下呂石			15.90	18.40	10.08	2.05
S-25	99	VIIID15m	黒色土	剥片	チャート			26.61	34.60	9.92	7.68
S-26	99		青灰色粘土,no.31	剥片	黒曜石			22.54	16.14	8.49	2.55
S-27	99		青灰色粘土直上,no.34	剥片	チャート			28.68	22.61	7.78	5.26
S-28	02Bb	IXG8a	検出II（黒褐色粘土層）	剥片	下呂石	円礫(爪)		30.14	22.20	6.34	3.53
S-29	99		青灰色粘土直上,no.30	剥片(貝殻状)	チャート			24.74	25.53	6.68	2.95
S-30	02Bb	IXG9c	検出II,黒褐色粘土層	剥片	チャート			37.35	25.32	5.50	5.73
S-31	02Bb	IXG9c	検出I	剥片	チャート			22.13	26.66	4.55	2.78
S-32	02C	IXF10r	検出I	剥片	チャート			36.29	36.55	10.83	12.02
S-33	02C	IXF8s	no.3	剥片(五角形状)	チャート			35.14	31.57	7.00	7.34
S-34	00B	VIIID19t	NR01,no.24	剥片(貝殻状)	チャート			28.56	22.12	6.28	4.06
S-35	99	VIIID16p	黒色土	剥片(五角形状)	チャート			30.64	38.48	7.27	5.85
S-36	02C	IXF9s	検出I	剥片	チャート			26.48	25.30	10.58	6.19
S-37	00B	VIIIE19b	NR01,no.14	剥片(五角形状)	チャート			25.99	27.26	5.92	3.20
S-38	99		東西ベルト	剥片(五角形状)	チャート			32.39	32.27	6.82	6.21
S-39	00B	VIIIE20b	NR01ベルト	石核	チャート			16.44	34.55	10.66	4.15
S-40	00A		西壁	石核	チャート			23.15	26.04	7.88	4.57
S-41	00B		表採	石核	チャート			19.89	27.07	8.52	5.35
S-42	99	VIIID15o	黒色土	石核	チャート			22.64	20.33	11.02	4.76
S-43	00B	VIIIE20b	NR01,no.16	石核	メノウ			38.42	38.35	12.47	17.76
S-44	99	VIIID19p	トレンチ（地山直上,腐葉土層）	石核	チャート			50.89	32.85	12.90	26.49
S-45	01B	IXE6a	NR01（上層）	石核	水晶			27.04	41.69	15.91	15.62
S-46	01Ca	IXE6d	NR01（上層）	石核	チャート			40.03	22.02	22.75	32.11
S-47	02C	IXF9r	検出I,no2	石核	チャート			28.10	19.59	9.71	5.21
S-48	02Bb	IXG8a	検出II（暗黄灰色粘土層）	石核	水晶			26.20	20.02	10.93	6.33
S-49	02C	IXF9q	検出I	石核	チャート			26.73	15.45	10.08	4.81
S-50	01B	IXE6a	NR01（上層）	磨製石斧(両刃石斧)	ホルンフェルス			126.23	44.19	27.05	227.51
S-51	00A		表採	磨製石斧(扁平片刃石斧)	安山岩			69.11	35.74	14.39	71.52

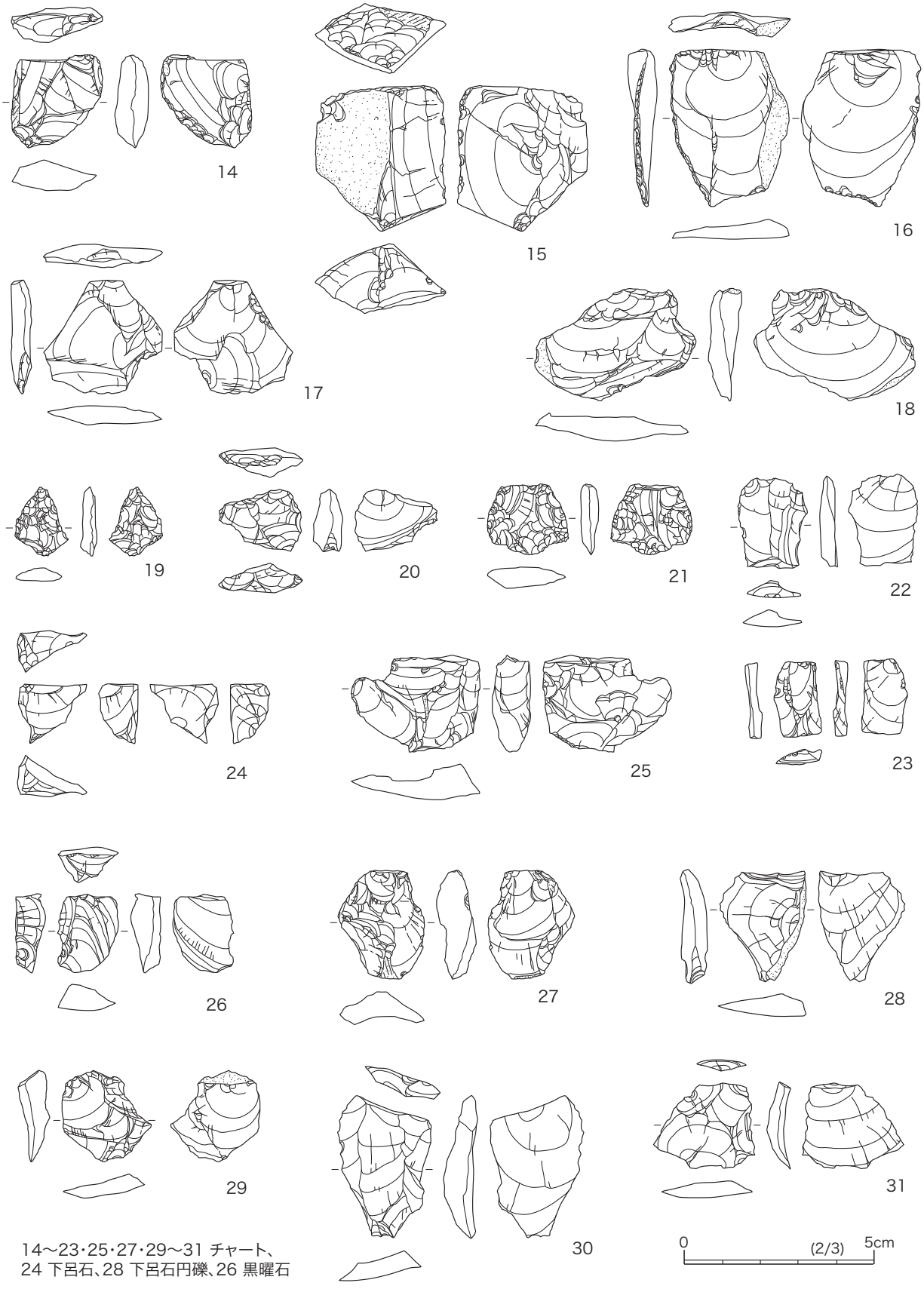


02Ba区
1･3～5 チャート、2 下呂石



6･8･10～13 チャート、7 下呂石、9 溶結凝灰岩

図 42　石器 1 （S=2/3）



14～23･25･27･29～31 チャート、
24 下呂石、28 下呂石円礫、26 黒曜石

図 43　石器 2 （S=2/3）

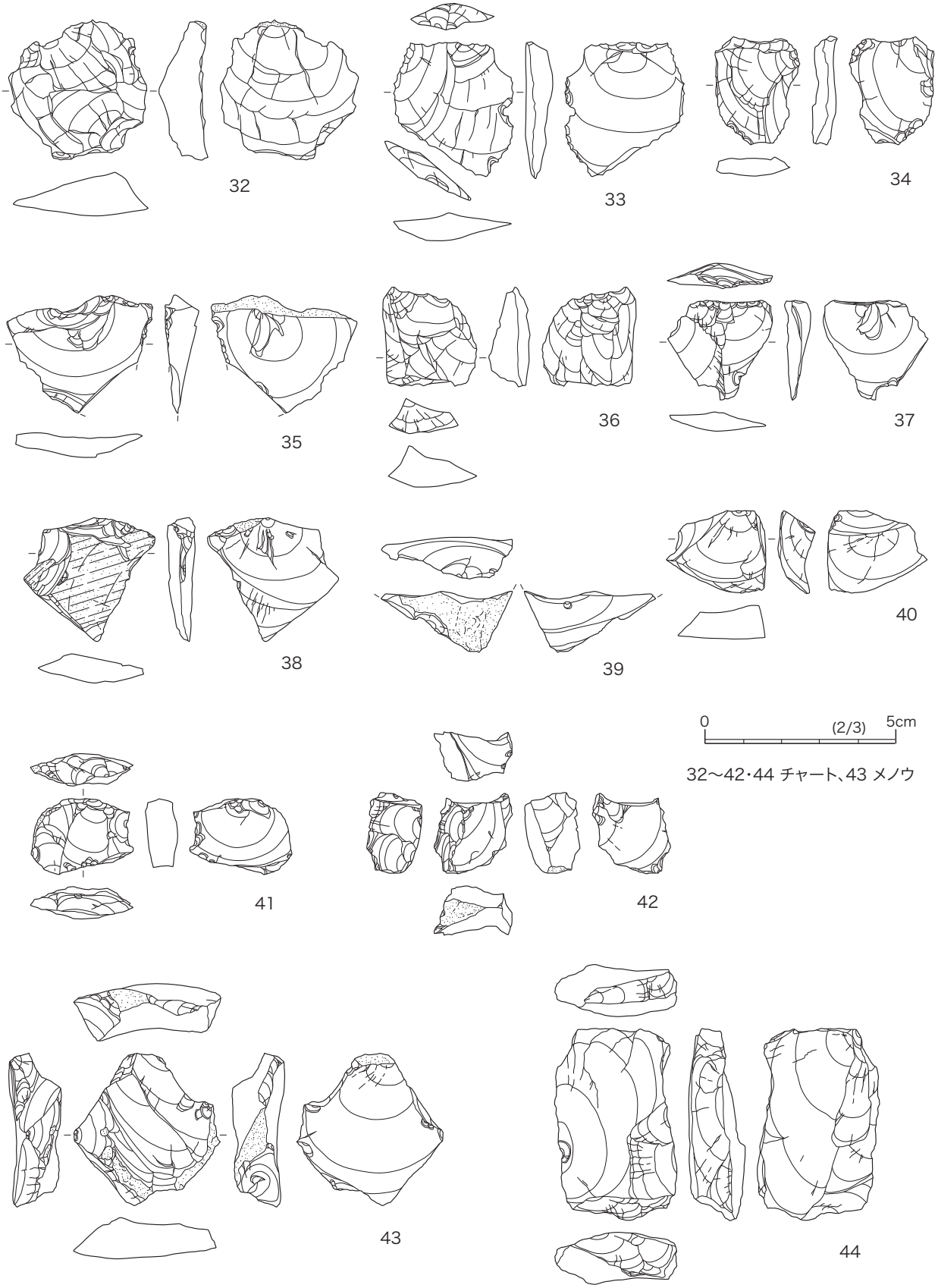
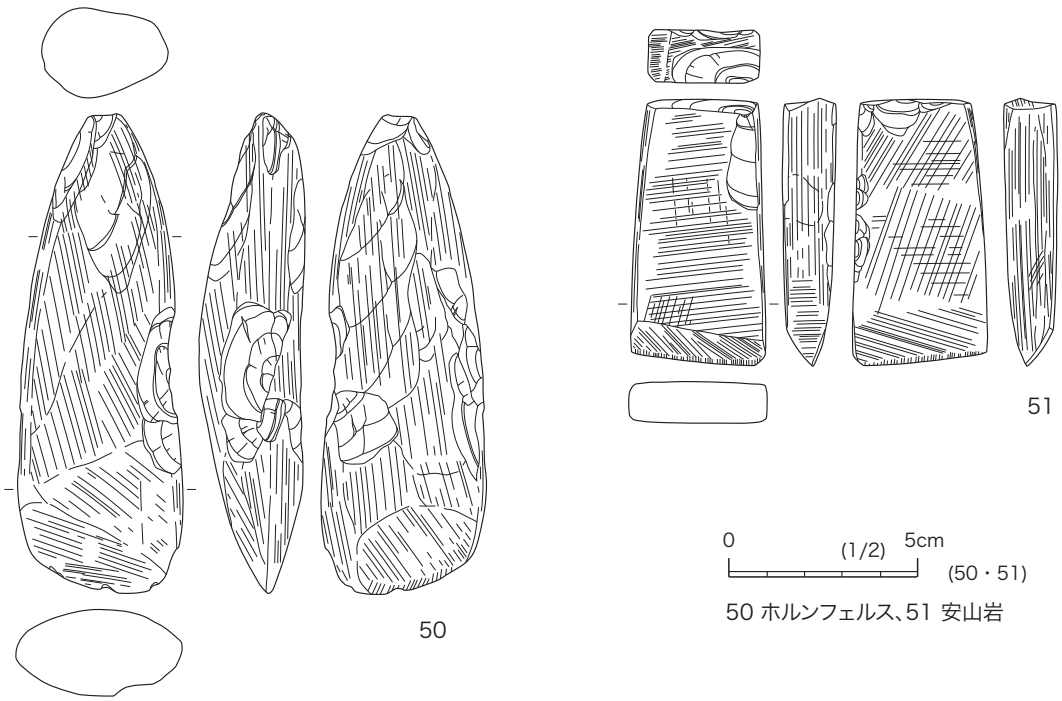


図 44　石器 3 （S=2/3）

45・48 水晶、46・47・49 チャート



50 ホルンフェルス、51 安山岩

図 45　石器 4（S=2/3）

第4章　総　括

今回の調査地点の大部分は、かつての蟹川・水野川の流路および氾濫原であった。平面的には厳密に区分することができないものの、縄文時代から中世の遺物を含む数次の流路の痕跡が確認されている。そのような堆積環境にあって安定した遺構面はほとんどみられなかったが、丘陵の末端および00A区の中洲状の微高地という限られた範囲において、竪穴建物を含む平安時代の居住域の一端が確認された。上品野蟹川遺跡の古代の集落の実態については、これまで出土遺物より推測されるのみで多くが不明であり、今回の成果は部分的とはいえ、集落の景観復元にむけて貴重な資料を加えることになった。

ここでは00A区微高地上に確認された遺構群について、および墨書資料と調査区全体を覆っていた河川流路の痕跡について先行調査の成果と併せて整理しておきたい。

1　00A区の遺構群について

＜微高地上の遺構分布状況と時期＞

平安時代の遺構群が検出された範囲は、幅約16 m、長さ46 m以上の南北方向に細長い微高地上であり、両側は河川流路（東；NR02、西；NR03）へと急激に傾斜している。検出面の標高は178.9～179.5 mを測り、南側へも緩やかな傾斜が確認されるため、調査範囲は微高地の南端に近い位置と考えられる。この微高地の西寄りに竪穴建物1棟（SB01）が単独で存在し、付近には大型の土坑1基（SK53）と複数の小土坑が疎らに分布する。竪穴建物の南には並行する溝2条（SD01,02）があり、溝の方向は竪穴建物とは一致せず微高地の傾斜に直交する方向をとる。微高地を横断するように画する溝（SD02）を境にして更に南側には小土坑が密に分布しており、複数の掘立柱建物が存在したものと想定される。これらの遺構は比較的狭い微高地上に展開し、しかも不自然に偏った配置のように思われるが､河川流路（NR01）下層に古代の遺物を多く含む流路（NR03）が確認されており、また西側の標高178.7 mのレベルで長方形土坑（01Ca区SK01）のみが確認されている。実際にはこの辺りまで遺構が連続して分布し、微高地の範囲、すなわち居住に適う高燥な土地の範囲はさらに広く、後世の河川流路（NR01へ）の変更にともない削平されたものと思われる。

河川流路から出土した灰釉陶器について、型式ごとの出土量を明確な数値で示すことはできないが、掲載資料の傾向でみるとK-14号窯式期に本格的に始まり、ピークはK-90号窯式期、O-53号窯式併行期以降は急激に減少しつつもH-72号窯式期まで一定量が認められる。これらの多くは表面に目立った摩耗はみられず、特に微高地付近では良好な遺存状況の個体を多く採取していることから、この微高地上の居住域で使用された遺物である可能性は高く、集落の存続期間および消長を示すものと考えられる。

竪穴建物の廃絶時に残された灰釉陶器椀は9世紀前半の時期を示しており、建物部材の一部である木製品（W-13）の年代測定（AMS）結果では8世紀後半から9世紀後半の年代を得た。出土灰釉陶器椀（1点）の型式では、竪穴建物は集落の存続期間の早い段階で廃絶したとも考えられるが、た

だその地点は廃絶後に再利用の痕跡がみられず、炭化材が残存し灰釉陶器椀（完形）が伏せた状態で残されるという廃棄方法はやや特異にも思われる。K-90 号窯式期を主体とする周辺遺構群とは断絶せず一定期間重複していたものと思われる。

2　古代の墨書資料について

今回の調査で墨書のある資料は文字、記号等を含めて 16 点が確認された（図 46）。特に注目されるのは、その内 3 点に施された「文室門」（上文字欠損の「門」を含めると 4 点）の文字である。その他にも 2 文字では「遠方」「山寺」「豊道」、1 文字では「山」（2 点）などがある。出土地点は 00A 区微高地すぐ西側の 00B 区・01Cb 区、すぐ東側の 01D 区の河川流路にまとまりがみられる。なお、この微高地から離れた下流域にあたる市調査地点では「知」など 5 点の墨書､篦書 1 点（以上須恵器･灰釉陶器）が出土している。

今回出土した 9 世紀第 2 四半期～ 10 世紀前半の墨書資料のうち、2 ～ 3 文字からなる墨書は古い時期に多く、時期が降るにしたがって 1 文字または記号を記すもの、硯へ転用されたと思われる墨付着資料が増える傾向がみられる。また、「文室門」は筆致が類似する個体があり、ほぼ同時期の資料と見做すこともできる。ただ「文室門」語句については過去出土資料に類例はなく（註 1）、遺跡の

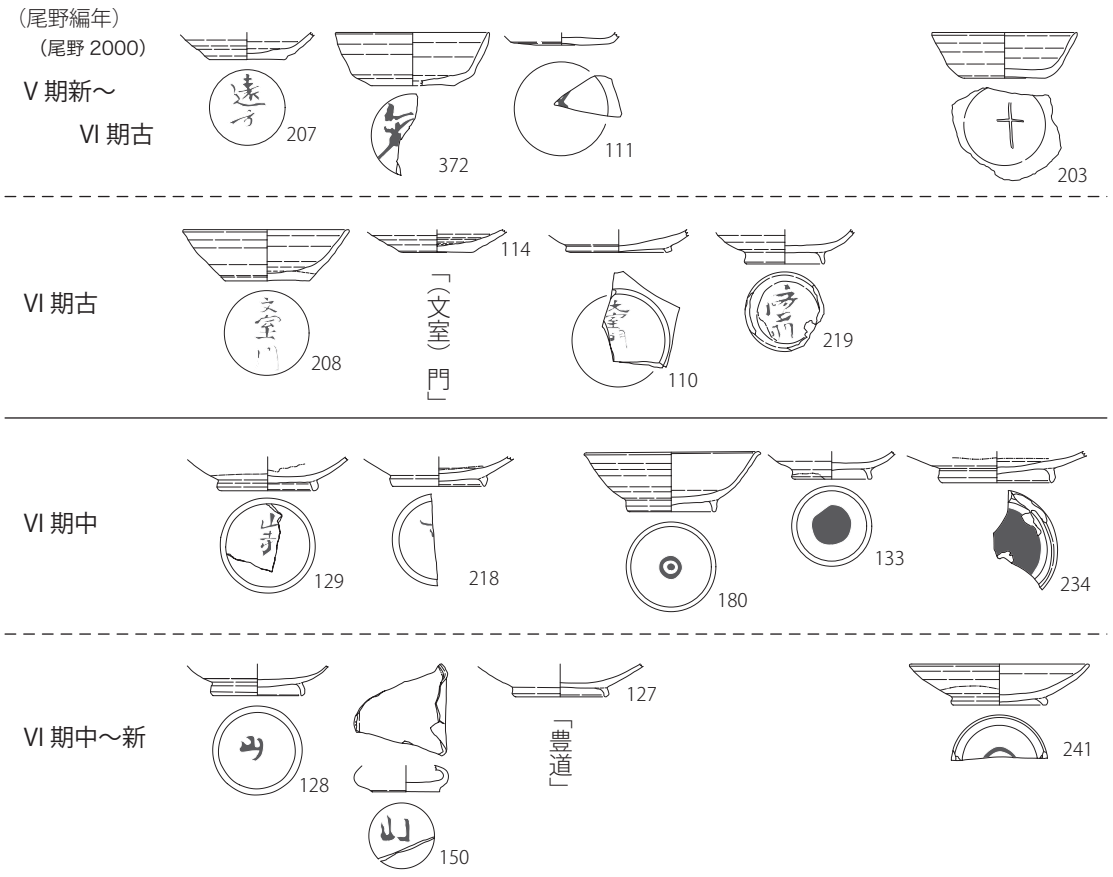


図 46　上品野蟹川遺跡出土の古代墨書資料（遺物 S=1/6）

性格からの位置づけもまだまだ困難な状況ではあるが、古代の墨書資料が比較的多く検出される瀬戸市域の事例との比較から、これら資料の特性を提示しておきたい。

墨書資料の出土は、瀬戸市域でも特に品野盆地の集落遺跡に集中している。盆地西側に位置する品野西遺跡は、古代の集落が早い段階に成立していたことが確認されている。河川流路出土資料として８世紀後半～ 11 世紀前半の時期の資料で墨書 13 点、箆書３点がある。判読された字句は「豊」が４点、「□麿」１点、「下」２点、「禾年福□」１点（箆書）、「千守」２点である。複数字句のものが多く、則天文字が含まれている。吉祥句のほか、人名と思われる字句がある。そのほか遺構は未確認ではあるが、7 世紀中葉～後葉とされる簾状重弧文軒平瓦を含む古瓦が出土し、寺院など瓦葺き建物が存在していた可能性がある。

上品野蟹川遺跡とは水野川対岸となる丘陵に立地する上品野遺跡では、溝および包含層で検出された資料に墨書 37 点、箆書 4 点がある。9 世紀初頭の竪穴建物（１棟）のほか 10 世紀後半の時期を中心とした掘立柱建物群、溝が確認されており、墨書は溝および包含層から出土している。判読された字句は「吉」12 点、「用」３点、「春」２点、「山」「缶カ」「東」「土」「万」「財万」（以上各１点）などがある。ほとんどが単字句であり、吉祥句、記号的な字句が多い中で人名と推測される「財万」はやや特異である。そのほか８世紀代の木製品馬形、斎串などが出土しており、「官衙的」な祭祀行為が行われていた可能性が指摘されている。

上品野蟹川遺跡集落の成立から盛期は両遺跡の中間の時期にあたり、これら品野盆地を囲む３地点周辺の本格的な開発は、概ね品野西→上品野蟹川→上品野の順に水野川沿いに展開したとみることができる。墨書の内容についてみると、複数字句から単字句への変化は全体の傾向として認められる。特定字句への集中度という点では、各遺跡全期間で複数出土した字句は、吉祥句的な用法が推定される「豊」「吉」「千守」、記号的な「下」「山」、「用」、「春」、そして「文室門」がある。品野西遺跡では複数点出土した字句は３種類であり全体に占める割合は高い。上品野蟹川遺跡の「文室門」はほぼ同時期の４点であり、使用期間のみならず用途も限定的という意味での集中度はかなり高いといえる。上品野遺跡で「吉」は同じ溝（SD01, 県）より９点が出土している。廃棄状況から一括性は比較的高いと思われる。1 点以上が検出された字句はほかに「用」「春」があるが、「吉」の点数が突出して多い。そのため、字句のばらつきは単字句が多い上品野遺跡で特に顕著となっている。

こうした字句の選択に関わって見えてくる特徴には、祭祀行為を含む具体的な使用方法の時間的な変化や、それ以外にも集落の性格によるなんらかの差異が含まれていると考えられる。これらの遺跡で転用硯らしきものはあるが、硯そのものは今のところ検出されていない。墨書資料は存在するが、実は識字層の存在形態についても問題となるであろう。

【註】

１）文献を渉猟された福岡猛志氏は「大学寮の門」との解釈の一例を示された（福岡 2004）。鎌倉時代初期に編纂された文献に「大学寮」の和訓は「フンヤノツカサ」とあり、学生をさす「文屋童（フンヤノワラハ）」の語も存在する。人名では「文屋」と「文室」が同様とされる場合もある。さらに「文室」の語は、「門前の小僧、習わぬ経を読む」の類の成句とされる「文室辺雀（フンヤノホトリノスズメ）　千字文云。秋収冬蔵。」（『世俗諺文』）にみられる。12 世紀後半成立の文献には「勧学院の雀は蒙求を囀る」（『宝物集』）の謂いがあり、福岡氏は「勧学院」と対句的に用いられる「文室」は「大学寮」をさすと解釈される。出土した墨書は国学生が中央の大学への「考練得第」を願ってのまじない行為ではないか、との仮説も示されている。出土資料の事例（奈文研 2003）では「文屋」は平城京左京三条二坊七坪 (1)、左京三条二坊一・八坪 (5) の計６点。「門」は出雲国府跡のほか「田門」（古川市・名生館官衙遺跡）がある。

3　河川流路の変遷

図 47 は市調査成果により推定された、主要な流路「河川 1 」「河川 2 」（岡本 1998）に今回の成果を追加作成したものである。上品野蟹川遺跡の範囲のうち発掘調査が行われた西側については、大半が旧蟹川の流路および氾濫原に含まれると考えられる。

河川流路（NR03）は 01B 区の北部では浅く途中で不明瞭となるが東西方向に、南部で比較的明瞭な南北方向の流路が検出されており、分岐して流れていた状況が窺われる。平面的には後者が市第 2 次調査地点の北端の流路に近く、現況の水路の位置等を参考にすると「河川 2 」に繋がる可能性が高い。NR03（旧 NR01 下層 ,IV 層）から出土した木製品（1,2,3）の年代測定（AMS）では 8 世紀後半から 10 世紀後半の結果を得ており、NR01 堆積層（II 層）との境界付近となる上層では山茶碗尾張型 3,4 型式（336 ～ 340）が出土している。この地点（01Cb 区）では 12 世紀初めにはほぼ埋没して、湿地状を呈していたと考えられる。なお、市調査地点で 9 世紀以降埋積が進んだとされる点は同様であるが、01C 区では砂層はほとんど含まれず、流れの少ない状況で埋没した状況が確認されている。

河川流路（NR02）微高地の東側の浅い落込みである。 9 世紀以降埋積が進み、流れの少ない止水性の堆積であり、湿地状を呈していたと思われる。その上部は中世以降の河川性の堆積（NR01）と近代までの遺物を含む水田耕作土・床土で覆われている。

河川流路（NR01）今回の調査区の大部分を覆う河川性の堆積層（II 層）の範囲である。中世以降に堆積が進み、01B 区では複数の砂層を含む層厚 1 m 強の堆積を確認している。流量の大きい時期があり、01A 区微高地もこの時点で削平を受けたと考えられる。上品野蟹川遺跡では急激な堆積環境の変化が、中世初頭に確認でき、この原因には主要な河川流路の大幅な変更があったことが考えられる。なお、安定した水田耕作土層は II 層上位および I 層で確認されるのみであり、長い期間水田耕作にも厳しい環境であったと考えられる。

上品野蟹川遺跡と上品野遺跡では、古代の集落に選地される地形が沖積地から丘陵へ変わっている。上品野蟹川遺跡では微高地付近の出土遺物からは、居住域がまだ暫く継続した状況が窺われるものの、河川流路の変更が周辺環境へ影響を及ぼし始めた時期は、距離の近い上品野遺跡の集落が盛期となる 10 世紀前半頃に求められるかもしれない。

図 47　推定される河川流路（S=1/3,000）
（平成 17 年都市計画図を使用 , 岡本 1998 の河道想定図をもとにトレース・加筆）

【参考文献　第２章～】

伊藤厚史 ,2001「灰釉陶器小図鑑—折戸 53 号窯期～百代寺窯期—」
　見晴台考古学資料館研究紀要 3
岡本直久 ,2005「尾張地域の山茶碗」中近世土器の基礎研究 XIX
尾野善裕 ,2000「猿投 (系) 須恵器編年の再構築」
　『須恵器生産の出現から消滅 猿投窯・湖西窯編年の再構築』東海土器研究会
尾野善裕 ,2006「古代土器編年と暦年代観—10・11 世紀を中心に—」
　第 14 回京都府埋蔵文化財研究会発表資料
尾野善裕 ,2006「考察」『東山 114 号発掘調査報告書』名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室
斎藤孝正 ,1994「1 東海地方の施釉陶器生産—猿投窯を中心に—」
　『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東 3 施釉陶器—』古代の土器研究会
田口昭二 ,1982「美濃窯の灰釉陶器と緑釉陶器」考古学ジャーナル 211
永井宏幸 ,1996「尾張平野を中心とした古代煮炊具の変遷」
　『鍋と甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム
平川 南 ,1991「墨書土器とその字形—古代村落における文字の実相」
　国立歴史民俗博物館研究報告 35
藤澤良祐 ,1994「山茶碗研究の現状の課題」三重県埋蔵文化財センター研究紀要 3
藤澤良祐 ,1982「古瀬戸中期様式の成立過程」『東洋陶磁』8
藤澤良祐 ,1991「瀬戸古窯址群 II—古瀬戸後期様式の編年—」瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要 X
藤澤良祐 ,1995「瀬戸古窯址群 III—古瀬戸前期様式の編年—」
　(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 3
藤澤良祐 ,2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 10
福岡猛志 ,2004「文室門小考—上品野蟹川遺跡出土の墨書陶器によせて—」
　半田市文化財専門委員会研究所紀要
吉岡康暢 ,1991「墨書土器をめぐる問題」『日本海域の土器・陶器』六興出版

報告書等
山下峰司 ,1990『上品野遺跡』瀬戸市教育委員会
水野　収 ,1996「資料紹介　上品野蟹川遺跡出土の特異品」
　（財）瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要 4
岡本直久 ,1997『品野西遺跡』瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書 13 集
岡本直久 ,1998『上品野蟹川遺跡 I』瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書 16 集
金子健一 ,1999『上品野蟹川遺跡 II』瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告書 21 集
川添和暁 ,2005『上品野遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 132 集
瀬戸市 ,2006『瀬戸市史 資料編三』
瀬戸市 ,1993『瀬戸市史 陶磁史篇 四』
瀬戸市 ,1998『瀬戸市史 陶磁史篇 六』

土器・陶器登録遺物一覧表１～８

基本平面図１～ 12
（S=1/200）

写真図版１～ 18

土器・陶磁器　登録遺物一覧表　1

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
1	01A	IXD2k	南北トレンチ,no.5	縄文土器	縁帯文	後期初頭～中葉					
2	01A	IXD2k	南北トレンチ,no.6	縄文土器	縁帯文	後期初頭～中葉					
3	01A	IXD2k	南北トレンチ	縄文土器	縁帯文	後期初頭～中葉					
4	01A		NR01南西部	土師器小型壺			11.0	*4.7	-	2	-
5	01A		表土剥ぎ	土師器小型壺		松河戸I	-	*5.8	-	-	12
6	99		西壁砂層,no.43	土師器壺			-	*2.3	4.8	-	7
7	01B	IXD3t	NR01	土師器台付甕			-	*2.9	-	-	-
8	00A	IXE5j	SK40,no.24	灰釉陶器椀		K-14	18.2	5.6	7.7	12	12
9	00A	IXE5j	SK40,no.26,27,29,30,31,カマド	土師質甕	濃尾系		18.0	*9.5	-	12	-
10	00A	IXE5j	SK40,no.26,32	土師質甕	濃尾系,年代測定no.5		13.8	*4.9	-	8	-
11	00A	IXE5j	SK40カマド,no.28,30	土師質鍋	底部に木葉痕		-	*8.7	5.0	-	12
12	00A	IVE6j	SK53,no.20	須恵器無台杯			12.8	*2.4	-	1	-
13	00A	IXE6j	SK53,no.13,SK53ベルト	土師質把手付鍋			27.2	*21.1	-	1	-
14	00A	IXE3l	SX01	須恵器椀	底部静止糸切		-	*0.75	5.4	-	5
15	00A	IXE5k	SX01	灰釉陶器椀	高台内にスス	O-53	-	*1.2	6.4	-	6
16	00A	IXE3l	SX01	灰釉陶器椀		K-90か	-	*2.9	-	1	-
17	00A	IXE9i	SK107,no,21,検出	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	K-90か	16.0	5.1	7.8	8	12
18	00A	IXE6j	SK56	灰釉陶器皿		K-90か	16.2	*2.7	-	1	-
19	00A	IXE6i	SK48,no.15	灰釉陶器椀		K-90	14.2	*3.5	-	2	-
20	00A	IXE9j	SK94	灰釉陶器皿		K-90	16.5	*3.15	-	1	-
21	00A	IXE7i	SK64	灰釉陶器皿		K-90	16.0	*2.1	-	1	-
22	00A	IXE6i	SK125,no.17	灰釉陶器椀	見込摩滅	O-53	-	*3.0	7.6	-	5
23	00A	IXE9j	SK138	灰釉陶器椀		O-53	11.4	*2.5	-	1	-
24	00A	IXE9j	SK93,検出	灰釉陶器椀		H-72	-	*1.95	5.8	-	7
25	00A	IXE8k	SK86	灰釉陶器皿			-	*2.0	-	1	-
26	00A	IXE5i,7i	SK42,検出	灰釉瓶類			10.8	*2.55	-	5	-
27	00A	IXE6i	SK48,no.14	土師質鍋			13.6	*5.4	-	2	-
28	01Ca	IXE10f	SD01,no.18,19	灰釉陶器椀	高台内に墨痕か	K-90か	17.6	4.0	9.6	7	12
29	01Ca	IXE10f	SD01,no.12	灰釉陶器椀	高台摩滅	K-90	-	*2.8	6.6	-	12
30	01Ca	IXE4d,10f	NR01,SD01no.14	灰釉陶器椀		K-90	13.2	4.0	7.0	4	8
31	01Ca	IXE10f	SD01,no.16,20,21	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90か	14.6	3.8	7.2	6	11
32	01Ca	IXE10f	SD01,no.15	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	13.1	3.3	5.8	1	5
33	01Ca	IXE10f	SD01,no.17	灰釉陶器皿	高台内に墨書「寺」,見込・高台摩滅	K-90	13.5	3.2	6.2	5	12
35	01A	IXD3j	SD02,no.4	山茶碗（尾張型）	高台内に墨書	第４型式	18.0	5.1	7.4	1	5
36	01A	IXD1j,IXD4l,m	SD02,NR01	山茶碗（尾張型）		第４型式か	-	*5.4	8.8	-	12
37	01A	IXD1m	SD02,no.2	山茶碗（尾張型）		第４型式	15.9	5.8	6.6	8	12
38	01A	IXD1l	SD02,no.3	山茶碗（尾張型）	口縁内側・見込・高台摩滅	第５型式	15.8	4.7	7.4	6	12
39	01A	IXD6h	SD02,no.1	山茶碗（尾張型）	高台摩滅,内面にスス	第５型式	16.4	4.7	8.4	2	12
40	01A	VIIID20k,IXD4k	SD02,NR01南西部,表採	山茶碗	胎土密,口縁内側・見込・高台摩滅		15.0	5.6	7.3	8	12
41	01A	IXD4i	SD04	小皿（東濃型）	胎土緻密		7.2	1.9	4.0	5	8
42	01A	IXD1l	SD02	灰釉長頸瓶	頸部接合三段構成		-		-	-	-
43	01A	IXD2k	NR01上層（旧NR02）	須恵器蓋			14.0	*1.4	-	2	-
44	01A	IXD1k	NR01上層（旧NR02）	灰釉陶器椀		K-90	-	*2.2	7.5	-	
45	01A	VIIID20j	NR01上層（旧NR02）	灰釉陶器椀か	角高台		-	*3.2	9.0	-	1
46	01A	IXD1k	NR01上層（旧NR02）	山茶碗（尾張型）	口縁部・高台摩滅	第３型式	15.6	5.2	7.0	3	2
47	01A	IXD1m	NR01上層（旧NR02）	山茶碗（尾張型）		第７型式	14.4	*5.25	5.9	1	2
48	01A	IXD3j	NR01上層（旧NR02）	山茶碗（尾張型）	高台剥離	第８型式	13.2	*5.2	6.0	3	4
49	01A	IXD1l	NR01上層（旧NR02）	小皿（尾張型）	内外面にスス	第５型式	8.0	2.0	4.2	5	6
50	01A	IXD2k	NR01上層（旧NR02）	小皿（尾張型）	見込・底部脇摩滅	第6型式	8.1	1.9	4.7	11	12
51	01A	IXD1k	NR01上層（旧NR02）	小皿（尾張型）	底部脇摩滅	第５型式	7.7	1.8	4.6	6	7
53	99		青灰色粘土直上,no.42	甕	平底,腰部に接合痕		13.8	17.5	6.0	1	4
53	01A	IXD1j	NR02	片口鉢	内面摩滅		26.4	*6.1	-	2	-
54	99	VIIID18n	青灰色砂層直上	土師器			-	*2.3	6.8	-	4
55	99		青灰色粘土直上,no.37	土師器			-	*2.3	-	1	-

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
56	99		青灰色砂質土2,no.15	土師器			16.8		-	1	-
57	99		青灰色粘土,no.25	土師器			19.4	*2.5	-	1	-
58	99	VIIID19p	トレンチ（地山直上,腐葉土層）	土器質甕	濃尾系		16.4	*2.7	-	3	-
59	99		青灰色粘土直上,no.36	土師器			15.8	*2.9	-	1	-
60	99	VIIID18n	トレンチ（黒色粘土）	土師質甕	三河型		16.4	*3.5	-	2	-
61	99	VIIID18q	南北ベルト	土師質甕	濃尾系		-	*1.0	9.0	-	3
62	00A	IXE9j	検出	土師質鍋口縁部			13.5	*4.25	-	2	-
63	00A	IXE7k	NR01ベルト	土師質甕	濃尾系,年代測定no.3		-	*3.7	-	1	-
64	00A	IXE5l	検出	土師質甕	ス ス		26.0	*3.3	-	1	
65	00A	IXE6k	NR01,黒色層	土師質甕			27.0	*3.4	-	2	-
66	00A	IXE4i	検出	土師質甕	三河型		18.2	*3.05	-	1	-
67	00B	VIIIE19c	NR01,黒色層	土師質鍋	清郷型		24.0	*6.5	-	1	-
68	00B	VIIIE19c	NR01,黒色層	土師質鍋	清郷型,年代測定no.2		19.2	*5.0	-	2	-
69	00B	VIIIE20b	NR01ベルト	土師質甕	東濃系,底部に木葉痕		-	*3.7	5.4	-	4
70	01B	IXD5t	NR01（上層か）	土師質甕	濃尾系		13.2	*3.4	-	2	-
71	01Ca	IXE6e	NR01（上層）	土師質甕	三河型か		14.6	*4.6	-	1	-
72	01Ca	IXE5f	NR01（上層）	土師質甕	濃尾系		23.4	*2.6	-	1	-
73	99	VIIID18q	黒色粘土（青灰色粘土直上）,南北ベルト	須恵器有台杯		(O-10) IG-78	14.4	3.6	11.8	1	8
74	00A	IXE2k	検出	須恵器蓋		IG-78	13.8	*1.85	-	1	-
75	00A	IXE3k	検出	須恵器蓋		IG-78	13.6	*2.1	-	2	-
76	00A	IXE3i	西トレンチ	須恵器蓋	破面が摩耗	IG-78	17.6	*1.5	-	1	-
77	00A	IXE2k	検出	須恵器蓋		IG-78	15.6	*1.3	-	1	-
78	00A	IXE4k	検出	須恵器蓋		IG-78	13.4	*2.4	-	1	-
79	00A	IXE7l	NR01ベルト	須恵器椀	底部ヘラオコシ	IG-78	-	*1.55	6.2	-	4
80	00A	IXE5k	検出	須恵器甕か			8.4	7.3	1.2	-	-
81	00A		表土剥ぎ	灰釉陶器椀		K-90	15.6	3.9	8.2	2	1
82	00A	IXE8j,9ijk	検出	灰釉陶器椀		K-90	-	*2.8	7.0	-	12
83	00A		表土剥ぎ	灰釉陶器椀		K-90	-	*2.6	6.4	-	5
84	00A		表採	灰釉陶器皿？	見込・高台摩滅	K-90	-	*1.2	6.8	-	2
85	00A	IXE9k	検出	灰釉陶器椀	高台摩滅	O-53	-	*2.85	6.8	-	4
86	00A	IXE6j	検出	灰釉陶器椀		O-53	-	*2.05	6.8	-	2
87	00A	IXE10j	検出	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	O-53	-	*2.1	8.0	-	3
88	00A		表土剥ぎ	灰釉陶器椀	高台摩滅,高台内糸切後未調整	O-53	-	*1.9	7.8	-	4
89	00A		表土剥ぎ	灰釉陶器椀		O-53	-	*2.6	7.6	-	3
90	00A	IXE6i	西トレンチ	灰釉陶器椀		O-53	-	*2.0	6.9	-	2
91	00A	IXE6,7j,7k	検出	灰釉陶器椀	高台摩滅	O-53	-	*3.1	7.2	-	6
92	00A	IXE8j	検出	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	O-53	-	*1.95	9.0	-	9
93	00A	IXE8j,9j	検出	灰釉陶器椀		O-53	-	*3.45	6.8	-	-
94	00A	IXE2i,5i,4k,3l	西トレンチ,検出	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅,糸切後未調整	H-72	13.8	4.2	7.4	1	11
95	00A	IXE4i	検出	灰釉陶器椀	高台内糸切後未調整	H-72	-	*1.9	7.0	-	3
96	00A		表土剥ぎ	灰釉陶器椀	高台摩滅,高台内糸切後未調整	H-72	-	*2.4	6.4	-	6
97	00A	IXE5j	検出	灰釉陶器皿	胎土緻密,見込・高台摩滅	H-72	-	*1.6	6.8	-	4
98	00A	IXE4k	検出	灰釉陶器椀		K-14	-	*1.4	7.5	-	3
99	00A	IXE7i	検出	灰釉陶器皿		K-90	13.9	2.1	7.6	1	1
100	00A	IXE5k	検出	灰釉陶器皿		K-90	-	*2.2	6.9	-	5
101	00A	-	表採	灰釉陶器椀	胎土緻密,見込・高台摩滅	K-90	-	*1.6	7.6	-	2
102	00A	IXE9i	検出	灰釉陶器椀	高台摩滅	K-90	-	*1.6	7.2	-	5
103	00A	IXE9j	検出	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	-	*1.6	5.8	-	5
104	00A	IXE10j	検出	灰釉陶器皿		O-53	-	*2.5	7.8	-	1
105	00A	IXE7j	検出	灰釉陶器椀	高台摩滅	O-53	-	*1.9	7.6	-	3
106	00A	IXE9k	検出	灰釉陶器椀		O-53	-	*1.7	6.3	-	3
107	00A	IXE8k	検出	灰釉陶器輪花椀	胎土緻密	百代寺	18.6	*2.8	-	2	-
108	00A	IXE9j	検出	灰釉長頸瓶			-	*5.7	9.9	-	5
109	00A		表土剥ぎ	灰釉長頸瓶			-	*5.3	9.8	-	4
110	01D	IXE5n	NR01,no.1	灰釉陶器椀	高台摩滅,墨書「文室門」	K-14	-	*1.8	7.6	-	4
111	01D	IXE4n	NR01	須恵器無台杯	底部手持ちケズリ,墨書		-	*1.0	7.4	-	2
112	01D	IXE6n	NR01	灰釉陶器椀	高台摩滅	K-14	17.2	5.2	8.0	1	2

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
113	00B	VIIIE19d	NR01,砂礫層	須恵器無台杯	底部糸切,口縁内側,底部脇摩滅	IG-78（K-14）	13.3	3.3	6.4	4	5
114	00B	VIIIE20d	NR01砂礫層	須恵器無台杯	底部糸切,底部脇摩滅,墨書「（文室）門」か	IG-78	-	*1.6	5.6	-	6
115	00B	VIIIE20c	NR01,砂礫層	須恵器長頸瓶		IG-78	11.0	*3.5	-	2	-
116	00B		NR01	須恵器蓋		IG-78	13.8	*2.05	7.4	1	-
117	00B	VIIIE18s	NR01	須恵器甑	把手あり		26.4	30.0	11.0	10	3
118	00B	VIIIE20d	NR01,no.17	灰釉陶器椀	口縁内側,高台脇,高台摩滅	K-14	16.2	5.7	8.4	2	12
119	00B	VIIIE20d	NR01,砂礫層	灰釉陶器椀	口縁部摩滅	K-14	14.8	*3.4	-	2	-
120	00B	VIIIE19d	NR01,砂礫層	灰釉陶器皿		K-14	-	*1.6	7.6	-	3
121	00B	VIIIE18d	NR01,黒色層	灰釉陶器椀		K-14	-	*2.3	6.3	-	12
122	00B	VIIIE18d	NR01,砂礫層	灰釉陶器椀		K-14	13.1	*3.1	-	2	-
123	00B		南トレンチ	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	K-90か	16.2	4.9	7.8	4	7
124	00B	VIIIE19c	NR01,黒色層	灰釉陶器椀		K-90	15.8	*4.0	-	3	-
125	00B	VIIIE20d	NR01,砂礫層	灰釉陶器椀	高台内摩滅,硯に転用か	K-90	-	*4.1	8.2	-	6
126	00B		南トレンチ	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	K-90	14.6	*4.2	7.2	1	3
127	00B		東トレンチ	灰釉陶器椀	高台内に墨書「豊道」,見込・高台摩滅	K-90	-	*2.6	7.3	-	12
128	00B		不明	灰釉陶器椀	内面にスス,高台摩滅,高台内に墨書「山」	K-90	-	*2.3	7.1	-	12
129	00B	VIIIE19d	NR01砂礫層	灰釉陶器椀	高台内に墨書「山寺」	K-90	-	*1.45	7.6	-	3
130	00B	VIIIE19a	NR01ベルト	灰釉陶器椀	高台摩滅	K-90	-	*2.2	6.9	-	7
131	00B		南トレンチ	灰釉陶器椀	高台摩滅か	K-90	13.6	4.6	7.0	3	2
132	00B	VIIIE18c	NR01,砂礫層	灰釉陶器椀	見込摩滅	K-90	14.6	4.6	7.4	4	4
133	00B		不明	灰釉陶器椀	高台摩滅,高台内に墨書	K-90	-	*2.25	6.2	-	12
134	00B		表土剥ぎ	灰釉陶器椀	口縁内側摩滅,輪花椀か	O-53	15.8	*4.2	-	1	-
135	00B	VIIIE20c	NR01,黒色層	灰釉陶器椀	未施釉か,見込・高台摩滅	O-53	13.8	4.3	7.1	5	5
136	00B	VIIIE19d	NR01,黒色層	灰釉陶器輪花椀	見込付近摩滅	O-53	18.7	*4.8	-	2	-
137	00B	VIIIE17,18c	NR01,黒色層	灰釉陶器椀	高台摩滅,高台内糸切後未調整		12.8	3.9	6.8	3	12
138	00B		不明	灰釉陶器椀	高台内糸切後未調整	H-72	-	*2.4	8.0	-	1
139	00B	VIIID18,19t,VIIIE19a	NR01ベルト,黒色層	灰釉陶器椀	高台内糸切後未調整	H-72	16.0	6.6	7.2	3	8
140	00B	VIIIE19t	NR01,黒色層	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅,高台内糸切後未調整	百代寺	-	*3.4	7.8	-	2
141	00B	VIIIE19,20d	NR01,砂礫層	灰釉陶器皿	高台摩滅,スス付着	K-14	-	*1.2	7.6	-	8
142	00B	VIIIE20c	NR01,砂礫層	灰釉陶器皿			14.6	*2.3	-	3	-
143	00B	VIIIE19d	NR01,砂礫層	灰釉陶器皿	見込・高台摩滅	K-90	-	*2.1	6.4	-	12
144	00B		北壁	灰釉陶器皿	見込・高台摩滅	K-90	-	*1.4	7.5	-	5
145	00B	VIIIE18c	NR01,砂礫層	灰釉段皿		K-90	17.4	*2.45	-	1	-
146	00B	VIIIE19d	NR01,no.23	灰釉段皿	高台摩滅	K-90	17.6	3.8	8.6	4	2
147	00B		表土剥ぎ	灰釉陶器皿		O-53	11.8	1.7	7.0	1	2
148	00B		表土剥ぎ	灰釉陶器皿		H-72か	11.6	*1.4	-	3	-
149	00B	VIIID19t	NR01ベルト,表土剥ぎ	灰釉陶器皿	見込・高台摩滅,高台内糸切後未調整	H-72	11.8	*2.35	6.3	3	6
150	00B	VIIIE19d	NR01,黒色層	灰釉陶器耳皿	底部糸切,墨書「山」	O-53	-	*2.1	5.4	1	7
151	00B	VIIIE20d	NR01,砂礫層	灰釉長頸瓶			9.4	*2.15	-	2	-
152	-		表採	灰釉長頸瓶			-	*3.1	8.2	-	4
153	00B	VIIIE18b	NR01,no.26	灰釉長頸瓶	胎土緻密		-	*3.85	8.4	-	9
154	00B	VIIIE19d	NR01,砂礫層	灰釉長頸瓶	高台剥離		-	*4.7	-	-	5
155	00B	VIIIE20d	NR01,no.20	灰釉瓶類	焼成時ヒビ割れ		-	*10.5	9.0	-	7
156	00B	VIIIE19d	NR01,no.19	灰釉平瓶			-	10.0	15.2	-	1
157	01A	IXD5k	NR01	須恵器横瓶			-	*7.5	-	-	-
158	01A	IXD5n	NR01	灰釉陶器椀	高台摩滅	K-90	-	*2.1	7.1	-	12
159	01A	IXD6h,VIIID20j	NR01,NR02	灰釉陶器皿		O-53	-	*1.7	6.6	-	6
160	01B	IXD6s	NR01（上層）	灰釉陶器椀	未施釉	O-53	13.6	4.6	7.0	3	4
161	01A	IXD1j	NR02	灰釉陶器椀		O-53か	16.2	*3.9	-	2	-
162	01A		表採	灰釉陶器椀	高台内糸切後未調整		-	*2.2	6.8	-	5
163	01B	IXD6s	NR01（上層）	灰釉手付瓶か			7.2	*14.3	-	2	-
164	01A	IXD6k	NR01	灰釉手付瓶か			-	*9.5	-	-	-
165	01A	IXD6j	NR01	灰釉手付瓶か	底部ナデ		-	*4.1	12.6	-	4
166	01B	IXD3s	NR01（下層）	須恵器無台杯	底部回転ケズリ,内面ヘラ書	IG-78	-	*1.15	6.1	-	3
167	01B	IXD6s	NR01（上層）	須恵器無台杯	内面・底部脇摩滅	IG-78	-	*2.4	6.2	-	3

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
168	01B	IXE3a	NR01	須恵器無台杯	底部脇摩滅,墨書	IG-78	-	*3.0	6.0	-	12
169	01B	IXD2r	NR01（上層）	須恵器瓶類か			-	*1.6	7.0	-	4
170	01B	IXD6s	NR01（上層）	灰釉平瓶			-	*5.4	-	-	-
171	01B	IXE3s	NR01（下層）	灰釉長頸瓶			9.8	*2.0	-	1	-
172	01B	IXD3s	NR01（下層）	灰釉長頸瓶			-	*7.65	-	-	-
173	01B	IXE4a	NR01（上層か）	灰釉長頸瓶	焼成時破損		-	*9.0	8.9	-	2
174	01B	IXD6t	NR01（上層）	灰釉瓶類	底部、破面にタール状付着物		-	*3.6	12.8	-	2
175	01B	IXD6s,IXD5q	NR01（下層）,灰褐色砂質シルト	灰釉耳皿	外面スス,高台内糸切後未調整		11.8	2.8	5.4	4	6
176	01B	IXE5,6a,IXD5t	NR01（上層）	灰釉陶器椀		K-14	14.8	4.6	7.4	2	6
177	01B	IXE3a	NR01（下層）	灰釉陶器椀	高台内に墨書「文室門」	K-14	-	*2.75	7.1	-	12
178	01B	IXD3,4t	NR01	灰釉陶器椀	高台内に墨書	K-90	17.4	5.4	9.8	4	8
179	01B	IXD3t	NR01（下層）	灰釉陶器椀		K-90	15.6	*4.15	-	2	-
180	01B	IXD2p	NR01（上層,砂層）	灰釉陶器椀	高台内に墨書「◎」,高台摩滅	K-90	13.8	4.8	6.8	12	12
181	01B	IXD7t	NR01（上層）	灰釉陶器椀		K-90	12.7	*3.95	5.6	2	2
182	01B	IXD3s	NR01（下層,礫層）	灰釉陶器椀		K-90	-	*2.5	5.7	-	4
183	01B	IXD8t	NR01（上層）	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	O-53	15.0	*4.25	7.6	1	4
184	01B	IXD6t	NR01（上層）	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	O-53	-	*2.0	6.7	-	11
185	01B	IXD4q	NR01（下層）	灰釉陶器椀	高台摩滅	O-53か	10.6	3.2	5.2	6	10
186	01B	IXD5t,6t	NR01（上層）	灰釉陶器椀	高台摩滅	H-72	14.4	4.4	5.6	3	10
187	01B	IXE7a	NR01	灰釉陶器椀		H-72		*2.8	6.8	-	4
188	01B	IXD4t,5t	NR01（上層か）	灰釉陶器椀	高台内糸切後未調整,見込・高台摩滅	百代寺	-	*3.1	6.9	-	11
189	01B		表採	灰釉陶器皿	口縁部・高台摩滅	K-90	13.8	2.5	6.3	1	1
190	01B	VIIIE20a	NR01（上層か）	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	-	*1.85	7.0	1	7
191	01B	IXD7t	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	-	*1.7	6.9	-	4
192	01B	IXE3a	NR01	灰釉陶器皿	見込・高台摩滅,高台内にヘラ書き	K-90	-	*1.75	6.0	-	5
193	01B	IXD3s	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台摩滅,高台内に墨書	K-90	-	*1.75	8.9	-	3
194	01B	IXD8s	NR01（下層）	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	15.4	3.4	7.4	2	6
195	01B	IXD2s	NR01（上層）	灰釉陶器椀		K-90	15.2	*2.7	-	1	-
196	01B	IXD3r	NR01（下層）	灰釉陶器椀		K-90	14.8	2.7	7.4	1	2
197	01B	IXD6t	NR01（下層）	灰釉陶器段皿			-	*2.8	8.2	-	4
198	01B	IXE6a	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台内糸切後未調整,墨書	H-72	11.3	*1.65	7.3	5	6
199	01Ca	IXE6f	NR01（上層）	須恵器壺甕類			26.4	*4.3	-	1	-
200	01Ca	IXE6g	NR01（上層）	須恵器壺			15.8	*3.2	-	2	-
201	01Ca	IXE6f	NR01（上層）	須恵器甕	外面タタキ		-	*8.5	16.2	-	3
202	01Cb	IXE1b	NR01	須恵器無台杯	底部ケズリ,底部脇摩滅		13.6	*3.6	7.8	1	2
203	01Cb	IXE1d,2e	NR01（礫混粗砂）	須恵器無台杯	底部脇摩滅,ヘラ書き		11.4	3.7	6.5	3	10
204	01Ca		NR01（上層,北西部）	須恵器無台杯	底部糸切,見込・底部脇摩滅	IG-78	-	*1.85	5.2	-	12
205	01Ca	IXE5b	NR01（上層）	須恵器無台杯	口縁内側・底部脇摩滅	IG-78（K-14）	13.4	*3.4	-	5	-
206	01Cb	IXE1e	NR01,no.20,礫混じり粗砂	須恵器無台杯	底部静止糸切,底部脇摩滅	IG-78	11.6	4.3	4.4	6	12
207	01Cb	IXE1b	NR01,no.48	須恵器無台杯	底部糸切,墨書「遠方」	IG-78（K-14）	-	*2.15	6.0	-	12
208	01Ca	IXE5f	NR01（上層,no.6）	須恵器椀	口縁内側・底部脇摩滅,底部に墨書「文室門」	IG-78（K-14）	13.3	4.1	6.8	6	12
209	01Ca	IXE6c	NR01（上層）	須恵器蓋		IG-78	-	*2.5	-	-	-
210	01Cb	IXE1b	NR01（礫混砂層）	須恵器蓋		IG-78	-	*2.7	-	-	-
211	01Cb	VIIIE20c,IXE1e	NR01（礫混粗砂）	須恵器有台杯	底面を硯に転用か	IG-78か	-	1.1	-	10	-
212	01Cb	VIIIE20c,IXE1b,c	NR01,no.43,礫混じり粗砂	灰釉陶器椀	口縁内側・腰部・高台摩滅	K-14	17.1	4.6	8.0	4	7
213	01Cb	VIIIE20c,IXE1b	NR01,no.44,礫混じり砂層	灰釉陶器椀	高台摩滅	K-90	16.6	4.8	7.6	2	12
214	01Cb	VIIIE20c,d	NR01,no.33,34,37	灰釉陶器椀	高台内に墨痕,口縁内側・見込・高台摩滅	K-90か	14.3	4.9	7.1	5	12
215	01Ca		NR01（上層,北東部）	灰釉陶器椀		K-90	14.8	4.6	7.9	2	5
216	01Cb	VIIIE20c	NR01（礫混粗砂）	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	K-90か	14.2	4.4	7.0	7	12
217	01Cb	IXE1b	NR01（礫混粗砂）	灰釉陶器椀	胎土緻密	K-90	15.8	5.5	7.4	2	5
218	01Ca	IXE6f	NR01（上層,no.7）	灰釉陶器椀	高台内に墨書	K-90	-	*2.35	7.4	-	6

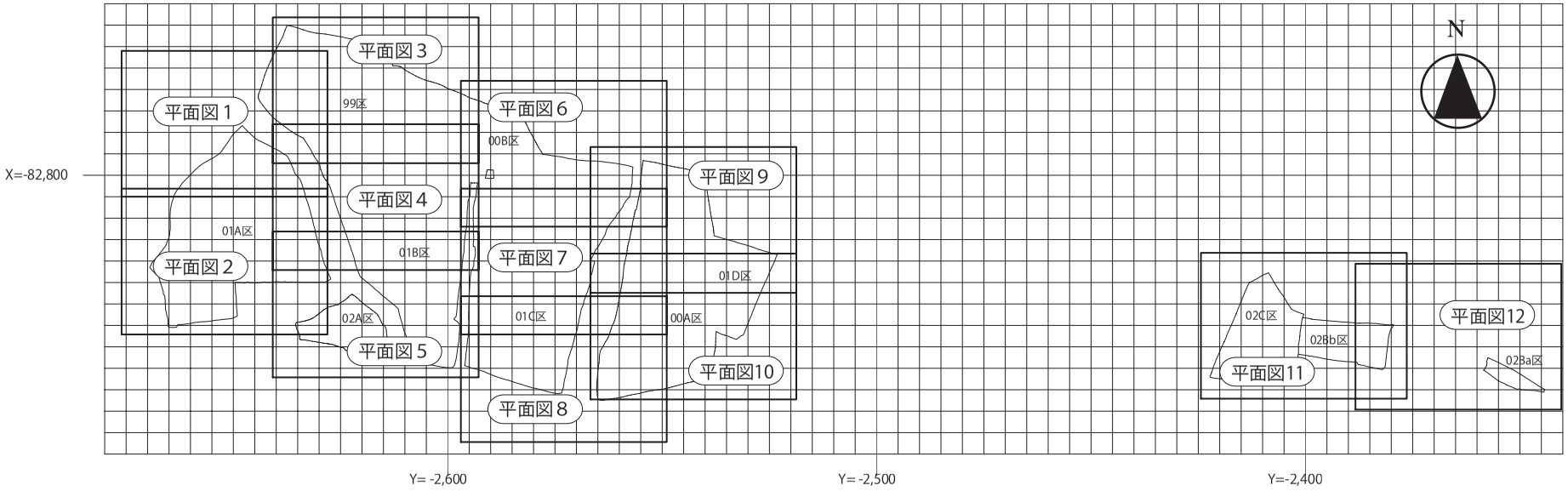
E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
219	01Ca	IXE5g	NR01（上層,no.5）	灰釉陶器椀	高台内に墨書「文室門」	（K-14）K-90	-	*2.75	6.2	-	6
220	01Ca	IXE5e,6f	NR01（上層）	緑釉椀	総釉,猿投窯産	K-14	16.3	4.6	7.9	1	4
221	01Ca		NR01（上層,北西部）	灰釉陶器椀		O-53	15.0	*4.6	-	3	-
222	01C	IXE1g,6f	NR01（上層）	灰釉陶器椀		K-90か	-	*2.5	8.9	-	7
223	01Ca	IXE5f	NR01（上層）	灰釉陶器椀		O-53	-	*3.2	8.0	-	3
224	01Cb	IXE2e	NR01,no.31	灰釉陶器椀	未施釉,口縁内側・見込・高台摩滅	O-53か	15.4	4.9	6.5	2	8
225	01Cb	IXE2f	NR01,no.28,30,32	灰釉陶器椀	高台摩滅,全体にスス	O-53	12.5	3.9	7.0	4	12
226	01Cb	IXE1b	NR01,no.39,礫混じり粗砂	灰釉陶器椀	高台摩滅	O-53か	13.9	4.3	7.4	9	12
227	01Cb	VIIIE20c	NR01,no.40	灰釉輪花椀	口縁内側・高台摩滅,見込に円形凹み	O-53か	12.7	4.6	6.3	9	10
228	01Cb	IXE2f	NR01, no.9,18,24,29	灰釉陶器椀	内面にスス	H-72か	14.4	5.4	7.1	12	12
229	01Ca	IXE6,7c,6d	NR01（上層）	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅,高台内糸切後未調整,ススまたは墨痕	H-72	14.0	5.1	6.8	8	6
230	01Cb	IXE2f	NR01,no.13,14,15,16,38	灰釉陶器椀	高台内糸切後未調整,全体にスス	H-72か	15.5	6.0	7.4	10	9
231	01Cb	IXE2f	NR01,no.19	灰釉陶器椀	見込・高台摩滅	百代寺	16.0	6.1	8.0	5	5
232	01Ca	IXE5d	NR01（下層か）	灰釉段皿		K-14	13.8	2.4	6.4	2	3
233	01Ca	IXE5d,f,g	NR01（上層）	灰釉段皿		K-90	16.4	3.7	8.6	4	5
234	01Ca	IXE6f,6e,5e	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台内摩滅,墨痕,硯に転用か	K-90	-	*2.5	8.7	-	3
235	01Ca		NR01（上層,北東部）	灰釉陶器皿		K-90	-	*2.7	8.2	-	3
236	01Ca	IXE5f	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台摩滅	K-90	14.6	2.7	7.6	3	12
237	01Ca	IXE6f	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台内に墨痕か,高台摩滅	K-90	14.6	2.8	7.2	3	4
238	01Cb	VIIIE20c,d,IXE2b	NR01,礫混じり粗砂	灰釉陶器皿		K-90か	13.7	3.0	6.5	10	12
239	01Ca		NR01（上層,北東部）	灰釉陶器皿？	高台内に墨痕	K-90	-	*2.4	6.6	-	11
240	01Cb	IXE2b	NR01,no.46	灰釉陶器皿	高台内糸切後未調整	O-53か	14.0	3.1	7.4	6	8
241	01Ca	IXE5g	NR01（上層）	灰釉陶器皿	高台内に墨書「○」,見込・高台摩滅	O-53	14.0	3.3	7.4	1	6
242	01Ca	IXE5g	NR01（上層）	灰釉陶器皿	胎土緻密	O-53	-	*2.05	6.2	-	5
243	01Ca	IXE6b	NR01（上層,no.1）	灰釉陶器皿	高台内糸切後未調整,墨書,見込・高台摩滅	H-72	-	*1.65	7.4	-	8
244	01Ca	IXE7c,d	NR01（上層）	灰釉長頸瓶			-	6.0	-	-	-
245	01Ca		東トレンチ	灰釉壺瓶類			-	*3.6	10.7	-	4
246	01Ca	IXE6e,f,7e	NR01（上層）	灰釉長頸瓶	頸部接合三段構成		-	*6.55	11.4	-	3
247	01Ca	IXE5e	NR01（上層）	灰釉壺瓶類			-	*7.2	12.8	-	3
248	99	VIIID16m	黒色土	山茶碗（尾張型）	見込・高台摩滅		15.5	4.7	7.4	3	7
249	99	VIIID18q	青灰色砂,no.44	山茶碗（尾張型）	高台内に墨痕,高台摩滅	第４型式か	-	*2.5	7.6	-	8
250	99	VIIID17o	東西ベルト	須恵器椀？			14.8	*3.5	-	2	-
251	99	VIIID15p	灰褐色砂	山茶碗（東濃型）	付着物（破砕後）		-	*1.8	4.4	-	4
252	99	VIIID17n	黒色土	小皿（尾張型）	底部外面に墨書,見込摩滅		-	*1.7	4.0	-	12
253	99	VIIID17p	青灰色砂層直上,no.7	小皿（尾張型）	内面・底部脇摩滅		7.3	2.0	4.1	12	12
254	99	VIIID19p	黒褐色土	小皿（尾張型）	底部外面に墨痕,底部脇摩滅		7.8	1.9	4.2	5	6
255	99	-	東壁トレンチ	小皿（尾張型）	外面スス		8.3	1.8	5.5	6	12
256	99	VIIID19r	黒褐色土	入子			-	*2.1	2.8	-	12
257	99	VIIID17m	黒色土	土師器小皿	非ロクロ		8.8	*1.4	-	1	-
258	99	VIIID16m	黒色土,no.6	土師器小皿	非ロクロ		8.8	1.6	6.4	6	6
259	99	VIIID16o	黒色土	土師器小皿	非ロクロ		7.3	1.6	2.4	5	5
260	99	VIIID15n	黒色土	古瀬戸小杯？			7.6	2.4	3.8	2	7
261	99	VIIID15n	灰褐色砂	陶製内耳鍋	外面スス		19.4	*3.7	-	2	-
262	99	VIIID15m	黒色土	土師質鍋	伊勢型		-	*1.45	-	1	-
263	99	VIIID14n	黒色土	土師器鍋	伊勢型		23.8	*2.1	-	1	-
264	99	VIIID15n	黒色土	土師質羽付釜			-	*2.1	-	1	-
265	99	VIIID15n	黒色土	土師質羽付釜	外面スス		18.0	*2.6	-	1	-
266	00A	IXE7i	検出I,no.10	山茶碗（尾張型）		大８型式	-	*3.2	5.8	-	12
267	00A		表土剥ぎ	小椀（尾張型）	見込・高台摩滅	第４型式	8.4	2.2	4.4	5	11
268	00A	IXE6j	検出I,no.9	小皿（尾張型）			7.8	1.8	5.0	7	12
269	00A	IXE8j	検出	小皿（東濃型）	底部糸切,板圧痕,墨書「の」		8.3	1.0	4.9	1	12

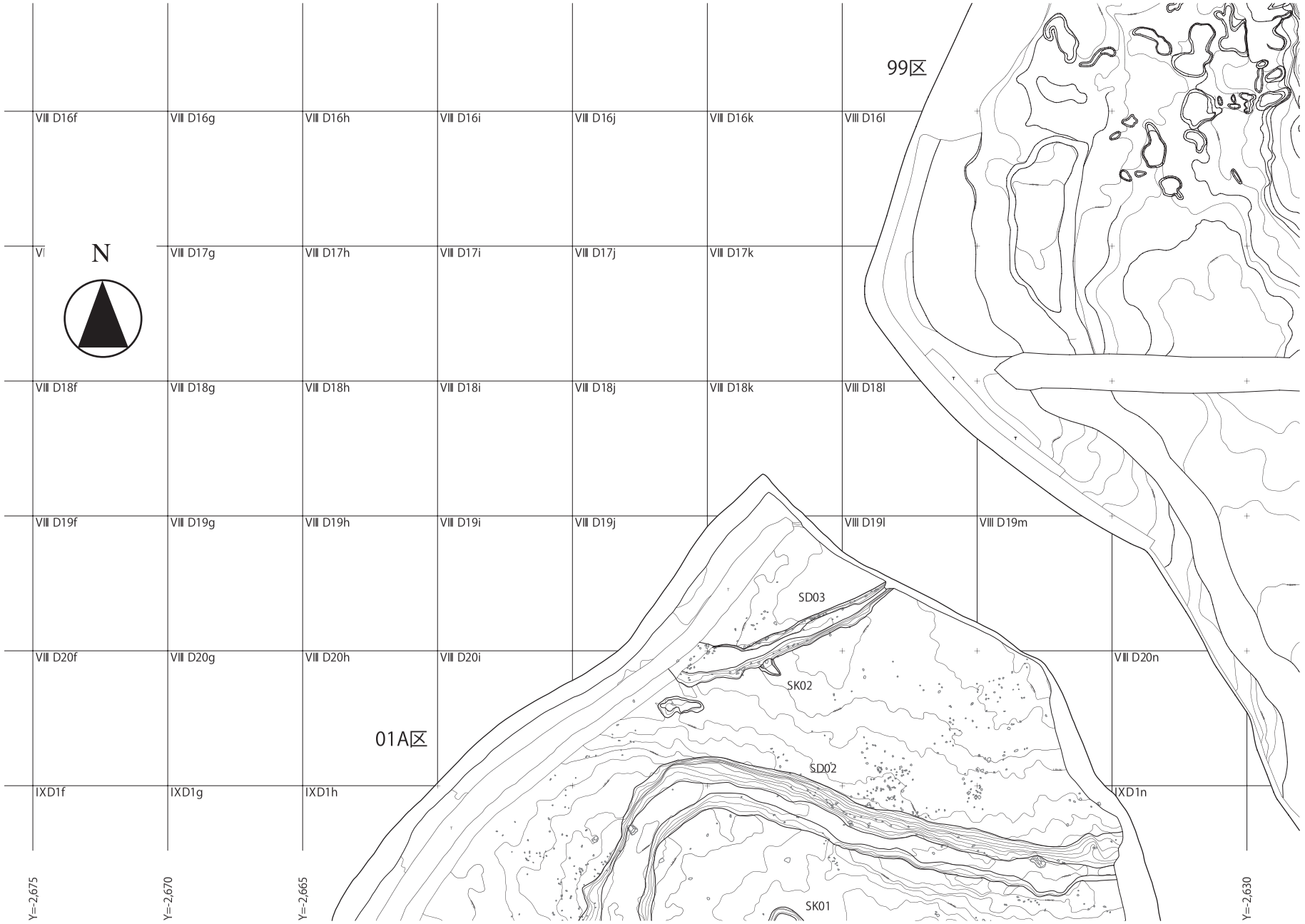
E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
270	00A	IXE7j	検出I,no.8	古瀬戸折縁小皿	焼成不良	古瀬戸後期III か	8.7	2.4	4.1	6	12
271	00A	IXE6j,7j	検出	古瀬戸折縁小皿		古瀬戸後期III か	9.0	2.2	4.2	3	12
272	00B	VIIIE19b,c	NR01,no.18,黒色層,ベルト	山茶碗	見込・高台摩滅	第３型式か	17.3	5.6	8.8	8	3
273	00B	VIIIE18,19c,20c	NR01,no.3,黒色層,砂礫層	山茶碗		第４型式か	17.2	5.7	8.8	6	12
274	00B	VIIIE18c	NR01,黒色層	灰釉陶器椀	内面に降灰	第３型式か	17.8	5.4	7.6	1	2
275	00B	VIIIE19b	NR01	山茶碗	見込・高台摩滅,モミ痕なし	第４型式	-	*3.1	8.0	-	12
276	00B	VIIIE19c,20c	NR01,黒色層,NR01砂礫層	山茶碗（尾張型）	高台摩滅,モミ痕なし	第３型式か	-	*4.7	7.9	-	10
277	00B	VIIIE18,19c,19b	NR01,黒色層	山茶碗（尾張型）	高台摩滅,モミ痕なし	第３型式か	17.0	*5.15	7.6	2	10
278	00B	VIIIE19b	NR01,黒色層	山茶碗	高台モミ痕なし	第３型式か	-	*3.1	7.8	-	7
279	00B	VIIIE18,19c	NR01,黒色層,北トレンチ	山茶碗（尾張型）	見込・高台摩滅	第４型式	17.3	5.1	7.4	5	12
280	00B	VIIIE19b	NR01ベルト	山茶碗	見込・高台摩滅	第４型式	17.8	6.1	7.5	1	12
281	00B	VIIIE18c	NR01,砂礫層	山茶碗	内面口縁下に沈線	第４型式	18.8	6.5	9.4	1	5
282	00B		南トレンチ	小皿	胎土密,外面,高台脇摩滅		9.3	2.2	5.0	1	1
283	00B		南トレンチ	小皿（東濃型）	底部脇摩滅		8.7	2.1	4.8	1	5
284	00B	VIIIE19b	NR01,黒色層	小皿（尾張型）	口縁内側・見込摩滅		8.5	2.1	5.1	4	6
285	00B	VIIIE20c	NR01,no.4	小皿（尾張型）		第７,8型式	8.1	1.9	5.1	12	12
286	00B	VIIIE19d	NR01,黒色層	小皿（尾張型）		第７,8型式	8.3	1.8	5.0	9	11
287	00B	VIIIE19d	NR01,黒色層	小皿（尾張型）	胎土密,焼成不良		8.2	1.6	4.0	7	12
288	00B	VIIIE19b	NR01,黒色層	山茶碗			16.5	*6.0	7.6	1	9
289	00B	VIIIE18c	NR01,黒色層	山茶碗			16.8	5.8	8.6	3	6
290	00B	VIIIE20c	NR01,黒色層	山茶碗	高台内に墨書「上」		14.2	5.7	6.0	3	12
291	00B	VIIIE19d	NR01,黒色層	灰釉四耳壺		古瀬戸	9.2	*3.5	-	3	-
292	00B	VIIIE19d	NR01,黒色層	灰釉平底末広碗		古瀬戸	-	*3.2	4.4	-	4
293	01A	IXD5j	NR01	山茶碗	見込・高台摩滅	第３型式か	-	*4.4	6.9	-	5
294	01A	IXD5l	NR01	山茶碗（尾張型）	見込・高台摩滅	第４型式	16.2	5.2	7.2	8	12
295	01A	IXD3k	NR01	山茶碗	胎土密		13.8	*3.3	-	1	-
296	01A	VIIID20l	検出I	山茶碗（尾張型）	内面にススか	第８型式	13.6	5.1	5.9	2	9
297	01A	IXD4l	NR01	山茶碗（尾張型）	外面にタール状付着物	第７,8型式	13.2	*4.5	-	4	-
298	01A	IXD5m	NR01	山茶碗（東濃型）	高台摩滅		-	*3.8	5.6	-	5
299	01A	IXD4l	NR01	山茶碗（東濃型）	見込にスス		-	*4.75	5.0	-	6
300	01A	IXD5m	NR01	山茶碗（東濃型）	高台摩滅		-	*2.75	6.2	-	4
301	01A	IXD4i,IXD3k	SD04,NR01	山茶碗（東濃型）			12.7	*4.1	3.2	1	4
302	01A	IXD5j	NR01	山茶碗（東濃型）		大洞東	12.4	3.8	3.4	2	3
303	01A	IXD3m	NR01	灰釉縁釉小皿		古瀬戸	11.2	2.1	6.2	2	2
304	01A	IXD3m	NR01	山茶碗（東濃型）			-	*2.45	4.8	-	5
305	01A	IXD4m	NR01	山茶碗（東濃型）	外面・破面にスス	大洞東	-	*2.5	3.8	-	8
306	01A		南トレンチ	山茶碗（東濃型）		生田	11.0	*2.3	-	3	-
307	01A	IXD3l	NR01	小皿（尾張型）	見込・底部脇摩滅	第５型式	7.9	2.5	4.0	5	12
308	01A	IXD1i	NR02	小皿（尾張型）			7.2	1.7	4.1	2	12
309	01A		NR01南東部	小皿（尾張型）			7.5	2.2	4.4	6	6
310	01A	IXD6j	NR01	小皿（尾張型）		第５型式	8.0	1.9	4.0	9	12
311	01A	IXD2l	NR02	小皿（尾張型）	底部脇摩滅	第6型式	7.4	1.7	4.4	11	12
312	01B	IXD4s	NR01（上層）	小皿（尾張型）		第７,8型式	8.2	1.9	4.6	11	12
313	01A	VIIID20j	NR02	小皿（東濃型）	底部糸切,板圧痕		7.7	1.6	4.2	2	12
314	01A		表土剥ぎ	小皿（東濃型）			8.1	1.4	4.9	7	12
315	01A	IXD5n	NR01	小皿（東濃型）			8.0	1.2	4.8	6	6
316	01A	VIIID20l	検出I	小皿（東濃型）	底部脇摩滅,墨書		-	*0.8	5.2	-	3
317	01A	IXD5l	NR01	仏餉具	底部に墨書	古瀬戸後期	-	*2.8	5.0	-	12
318	01A	IXD5l	NR01	天目茶碗	内反高台,高台付近露胎	古瀬戸後期	-	*1.85	4.0	-	10
319	01A	IXD4m	NR01	灰釉平碗		古瀬戸後期IV新	19.0	*5.0	-	2	-
320	01A	IXD4k	NR01	灰釉卸皿		古瀬戸中期	17.0	*2.9	-	2	-
321	01A		表土剥ぎ	錆釉蓋	下面が摩滅	大窯か	16.1	1.7	-	2	-
322	01A	IXD3m	NR01	灰釉直縁大皿		古瀬戸後期IV	36.4	*2.9	-	1	-
323	01B	IXD5r	NR01（上層）	山茶碗		第４型式	16.3	*5.4	7.7	3	12
324	01B		表土剥ぎ	山茶碗（東濃型）		脇之島３	9.6	2.3	3.7	4	4
325	01B	IXD3t	NR01（下層,礫層）	灰釉陶器椀	高台摩滅,未施釉,ヘラ書き	K-14か	-	*2.4	8.6	-	5
326	01B		検出I,暗灰色砂質シルト層,東トレンチ脇	小皿	胎土密,口縁部・底部脇摩滅	第５型式	8.7	2.5	5.0	1	3

E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
327	01B		検出I,暗灰色砂質シルト層,東トレンチ脇	小皿（尾張型）		第７,8型式	8.2	1.6	5.4	11	12
328	01B		検出I,暗灰色砂質シルト層,東トレンチ脇	小皿（東濃型）			7.6	1.0	3.6	12	12
329	01B	IXD5r	NR01（上層）	小皿（東濃型）			8.1	1.1	7.0	8	12
330	01B	IXD3r	NR01（上層）	錆釉擂鉢		古瀬戸後期IV新	28.1	*3.15	-	1	-
331	01B	IXE7a	NR01	錆釉擂鉢			30.6	*2.9	-	1	-
332	01B		表土剥ぎ	灰釉洗		古瀬戸前期	-	*5.9	22.0	-	2
333	01B	東壁付近	NR01	小皿（尾張型）	底部に墨書「十」		-	*0.65	5.9	-	3
334	01B		表土剥ぎ	匣鉢		大窯	10.8	4.0	6.0	2	4
335	01B		表採	土師質鍋	伊勢型,年代測定no.4		21.6	*1.8	-	2	-
336	01Cb	IXE2g,3g	NR01,no.1,2	山茶碗	内面に降灰	第３型式	16.6	4.9	6.4	5	9
337	01Ca	IXE6f,7e,f	NR01（上層）	山茶碗	口縁内側・見込・高台摩滅	第４型式	16.6	5.8	7.8	4	4
338	01Cb	IXE2f,g	NR01,no.17,25,26	山茶碗	見込・高台摩滅	第４型式					
339	01Cb	IXE2f	NR01,no.8	山茶碗	見込・高台摩滅	第４型式か	16.9	5.4	8.0	9	12
340	01Cb	IXE2f	NR01,no.4	山茶碗	焼成時破損	第５型式か	17.2	5.9	8.6	8	12
341	01Ca	IXE4e	NR01（上層）	山茶碗（尾張型）	口縁内側・見込・高台摩滅		15.8	5.6	7.6	3	12
342	01Ca		NR01（上層,北部）	山茶碗（尾張型）		第７型式	12.6	5.0	5.4	1	12
343	01Ca	IXE5e	NR01（上層）	山茶碗	胎土密		-	*3.7	6.4	-	3
344	01Ca	IXE6c	NR01（上層）	山茶碗（尾張型）	内面にスス		-	*1.9	5.2	-	7
345	01Cb	IXE3g	NR01	小皿	胎土密,見込・底部脇摩滅		8.5	1.9	5.0	8	12
346	01Ca	IXE5c,6c,d	NR01（上層）	小皿（尾張型）		第６型式	8.2	1.6	5.8	10	12
347	01Ca	IXE5e	NR01（上層）	小皿（東濃型）			8.4	1.6	5.0	5	7
348	01Ca	IXE7b	NR01（上層）	小皿（東濃型）			8.0	1.0	5.8	6	6
349	01Ca	IXE7d	NR01（上層）	天目茶碗	腰錆	古瀬戸後期IV新	11.2	*5.9	-	1	-
350	01Ca	IXE6d	NR01（上層）	灰釉小天目か		古瀬戸後期IV	-	*2.3	2.8	-	5
351	01Ca	IXE5e	NR01（上層,no.3）	灰釉平碗	外面下半にスス	古瀬戸後期IV	16.0	6.2	4.5	6	12
352	01Ca		西壁	灰釉卸皿		古瀬戸中期	15.4	*3.05	-	2	-
353	01Ca	IXE5e	NR01（上層）	卸皿	スス付着	古瀬戸中期か	-	*1.1	5.8	-	6
354	01Ca		表採	灰釉縁釉小皿		古瀬戸	11.8	*2.15	-	1	-
355	01Ca		NR01（上層,北部）	灰釉ハサミ皿	内面にスス	大窯第１段階	10.3	2.7	5.4	5	12
356	01Ca	IXE7d	検出I	焼締小皿		大窯第１段階	10.0	2.5	5.9	2	3
357	01Ca	IXE7e	NR01（上層）	灰釉折縁小皿	見込に印刻花文	大窯第２段階	7.8	2.0	4.3	1	4
358	01Ca	IXE7d	NR01（上層）	灰釉反り皿		登り窯第3小期か	11.4	*2	-	3	-
359	01Ca	IXE6d	NR01（上層）	長石釉丸皿		登り窯第3小期か	11.6	*2.5	6.4	2	1
360	01Ca	IXE7d	NR01（上層）	鉄釉香炉		古瀬戸前期	-	*1.85	5.8	-	5
361	01Ca	IXE7d	NR01（上層）	鉄釉花瓶		古瀬戸後期IV	10.3	*4.4	-	1	-
362	01Ca	IXE6d	NR01（上層）	片口鉢	口縁内側摩滅		36.6	*5.4	-	1	-
363	01Ca	IXE6c,e	NR01（上層）	灰釉折縁中皿		古瀬戸中期	17.0	*4.3	-	2	-
364	01Ca		西壁	灰釉折縁深皿		古瀬戸中期	19.4	*5.7	-	2	-
365	01Ca	IXE7e	NR01（上層）	直縁大皿		古瀬戸	-	*3.0	15.0	-	2
366	01Ca	IXE7e,6d	NR01（上層）,no.8,検出	錆釉土瓶・釜	スス付着	大窯第１段階	16.0	*14.8	-	7	-
367	01Ca	IXE7d	NR01（上層）	錆釉擂鉢		大窯第１段階	29.8	*3.45	-	1	-
368	01Ca	IXE5f	NR01（上層）	灰釉洗		古瀬戸前期	30.6	*5.75	-	1	-
369	01Ca	IXE6e	NR01（上層）	灰釉柄付片口か		古瀬戸	15.5	3.8	-	1	-
370	02Bb	IXG7a	検出II,no.46	須恵器蓋		IG-78	12.6	2.8	-	9	-
371	02Bb	IXG7a,8a	検出II,no.41,42,44,黒褐色粘土層	須恵器無台杯	底部手持ちケズリ	IG-78	12.5	4.0	8.4	7	10
372	02Bb	IXG8a,9b	中央南北ベルト（黒褐色粘土層）,no.48	須恵器無台杯	底部回転ケズリ,墨書	IG-78	12.2	4.2	6.6	3	6

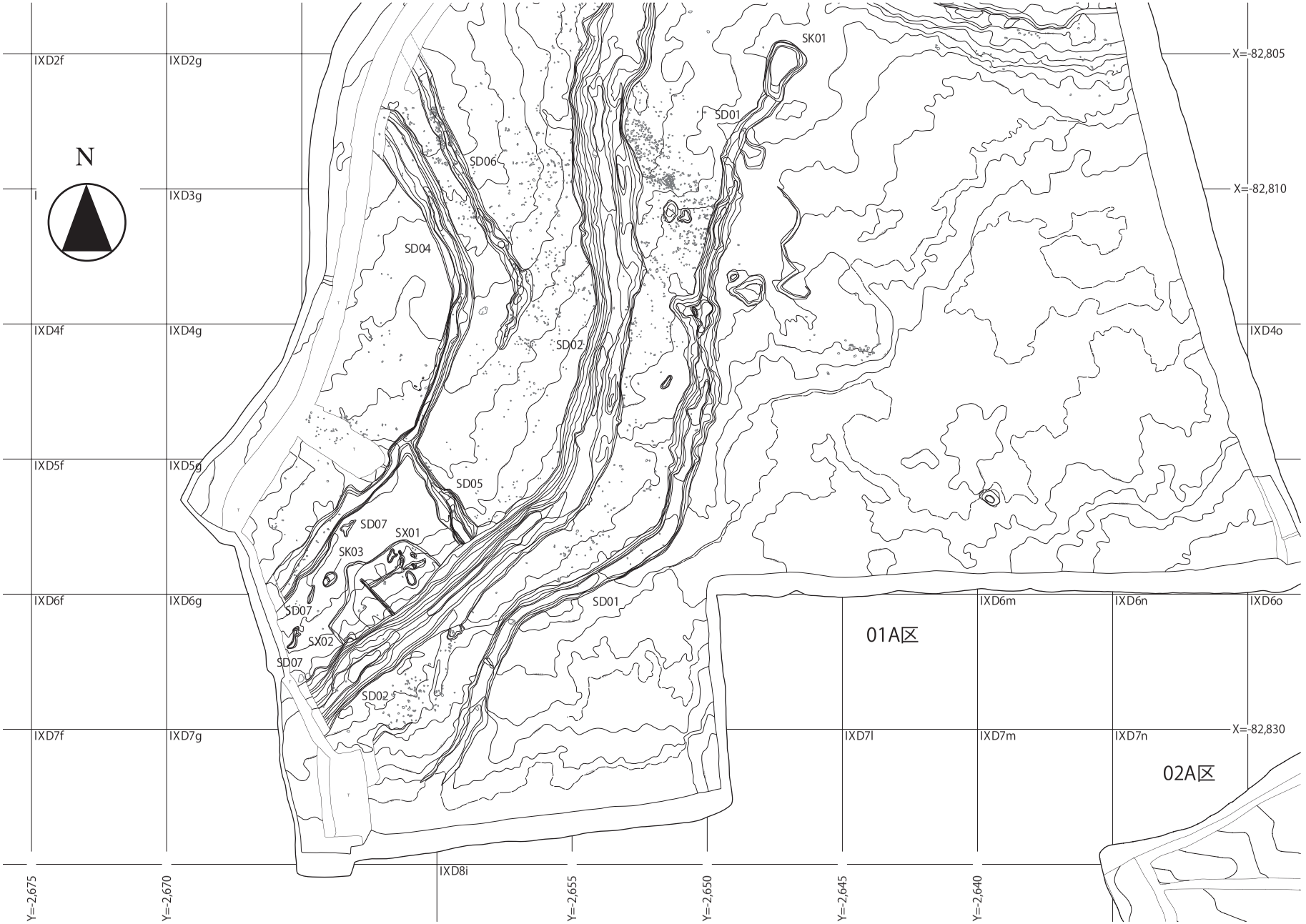
E-no.	調査区	グリッド	遺構	器種	備考1	備考2	口径・縦 (cm)	器高・厚 (cm)	底径・横 (cm)	口残存率 /12	底残存率 /12
373	02Bb	IXG8ab,9b	中央南北トレンチ,no.1,黒褐色粘土層	須恵器瓶類	焼成不良		-	*7.75	7.2	-	12
374	02Bb	IXG7a,8a	検出II,no.41,黒褐色粘土層	土師質甕	濃尾系,年代測定no.1		21.6	*4.6	-	3	-
375	02Bb	IXG8a	検出II（黒褐色粘土層）	山茶碗（尾張型）	口縁内側・見込摩滅	第６型式	15.0	4.2	7.6	1	12
376	02C	IXF10q	検出I	山茶碗	見込摩滅,高台内に墨書「力」		-	*2.1	7.0	-	12
377	02C	IXF10q,r	検出I	山茶碗	見込摩滅,高台内に墨書		-	2.6	6.9	-	6
378	02Bb	IXG8a,9a	検出II（黒褐色粘土層、黄灰色粘土層）	山茶碗（東濃型）	高台摩滅,高台内に墨痕	大洞東	13.4	3.6	4.9	6	4
379	02C	IXF9s,10r	検出I	山茶碗（東濃型）	高台内に墨書	大洞東	12.8	3.6	3.4	10	12
380	02Ba	-	南壁トレンチ西	東濃型山茶碗	口縁部・見込・高台摩滅	大洞東	11.6	3.4	3.1	3	11
381	02Bb	IXG8a	検出II（黒褐色粘土層）	山茶碗（東濃型）	高台内に墨書「大」		-	*1.5	3.6	-	4
382	02C	IXF9p	検出I	鉄釉蓋		古瀬戸後期	4.3	*1.3		12	12
383	02C		東壁トレンチ	天目茶碗	焼成時破損	古瀬戸後期IV新	11.2	*5.4	-	1	-
384	02C	IXF10g	南壁	天目茶碗		古瀬戸後期IV新	11.8	*3.6	-	1	-
385	02C	IXF10q	検出I	天目茶碗		古瀬戸後期IV新	12.9	*4.9	-	1	-
386	02C	IXF10p	検出I,西壁トレンチ	灰釉卸皿	使用痕なし	古瀬戸後期III	10.4	2.0	5.4	5	7
387	02C	IXF9r	検出I	鉄釉縁釉小皿		古瀬戸	10.2	2.1	6.4	5	5
388	02C	IXF10s	検出I	ハサミ皿		古瀬戸	10.6	2.5	5.6	4	3
389	02Bb	IXG7b	北壁	灰釉花瓶		古瀬戸後期	-	*6.35	6.3	-	7
390	02C	IXF10q	検出I	錆釉仏供		古瀬戸	-	*4.6	4.9	-	12
391	02C	IXF9r	検出I	錆釉内耳鍋	使用痕なし	古瀬戸後期III	25.7	*9.6	-	1	-
392	02Bb	IXG9d	検出I	常滑産甕			20.4	*5.4	-	2	-
393	02Ba	IXG10j	中央トレンチ	折縁深皿		古瀬戸後期I	34.2	*3.55	-	2	-
394	02Bb		表土剥ぎ	錆釉擂鉢	焼成軟	大窯第２段階	30.2	*4.95	-	2	-
395	02Bb	IXG9a	検出II（黄灰色粘土層）	匣鉢		大窯期か	10.8	4.2	6.2	3	3
396	02Bb	IXF9t	西壁	-	磁器染付、焼継あり	近世末か	-	*5.45	-	-	-
397	99	VIIID14m	検出I,no.1	青磁蓮弁文碗,龍泉	見込・底部脇摩滅,ススス		16.3	*4.4	-	1	-
398	99	VIIID16o	検出I,no.2	青磁蓮弁文碗,龍泉			13.9	*3.05	-	1	-
399	01Ca		北トレンチ	青磁碗	画花文		-	*4.0	-	-	-
400	99	VIIID16m	黒色土	青磁碗	龍泉窯系		-	*2.2	-	-	-
401	01B	IXD5g	NR01（上層か）	青磁碗			-	*1.8	9.2	-	1
402	01A	IXD5m	NR01	青磁碗	画花文		16.2	*2.3	-	2	-
403	01Ca	IXE6d	NR01（上層）	青磁碗	画花文		-	*4.9	-	-	-
404	01B	東壁付近	NR01（検出Iレベル）	青磁碗	鎬蓮弁文		-	*1.8	-	-	-
405	01Ca	IXE6f	NR01（上層）	青磁碗			-	*3.3	-	1	-
406	00A	IXE6i	検出	青磁碗			2.7	3.3		-	-
407	01Ca		NR01（上層,北西部）	青磁皿	同安窯系		-	*2.65	-	-	-
408	00A	IXE5k	検出	加工円板	灰釉・緑釉	近世	3.4	1.0	3.2	-	-
409	00A	-	西壁	加工円板	周囲研磨	近世	3.0	0.8	2.9	-	
410	00A	IXE5k	検出	加工円板	灰釉		3.9	1.2	3.3	-	-
411	99	VIIID17n	黒色土	陶丸			2.1	2.0	2.0	-	-
412	01Ca		NR01（上層,北部）	陶丸			2.3	2.3	2.4	-	-
413	00A	IXE6i	検出I,no.7	陶丸			2.1	2.2	2.0	-	-
414	00A	IXE5i	検出I,no.11	陶丸			2.1	2.1	1.9	-	-
415	00A	IXE4j	検出,表土剥ぎ	陶丸	製品が溶着		2.6	2.3	2.2	-	-
416	00A	IXE5j	検出I,no.6	陶丸			2.5	2.5	2.3	-	-
417	00B	VIIIE20d	NR01,砂礫層	土錘	黒斑あり		3.8	1.7	1.6	-	-
418	00A	IXE8j	検出I,no.5	土錘			3.6	1.7	1.7	-	-

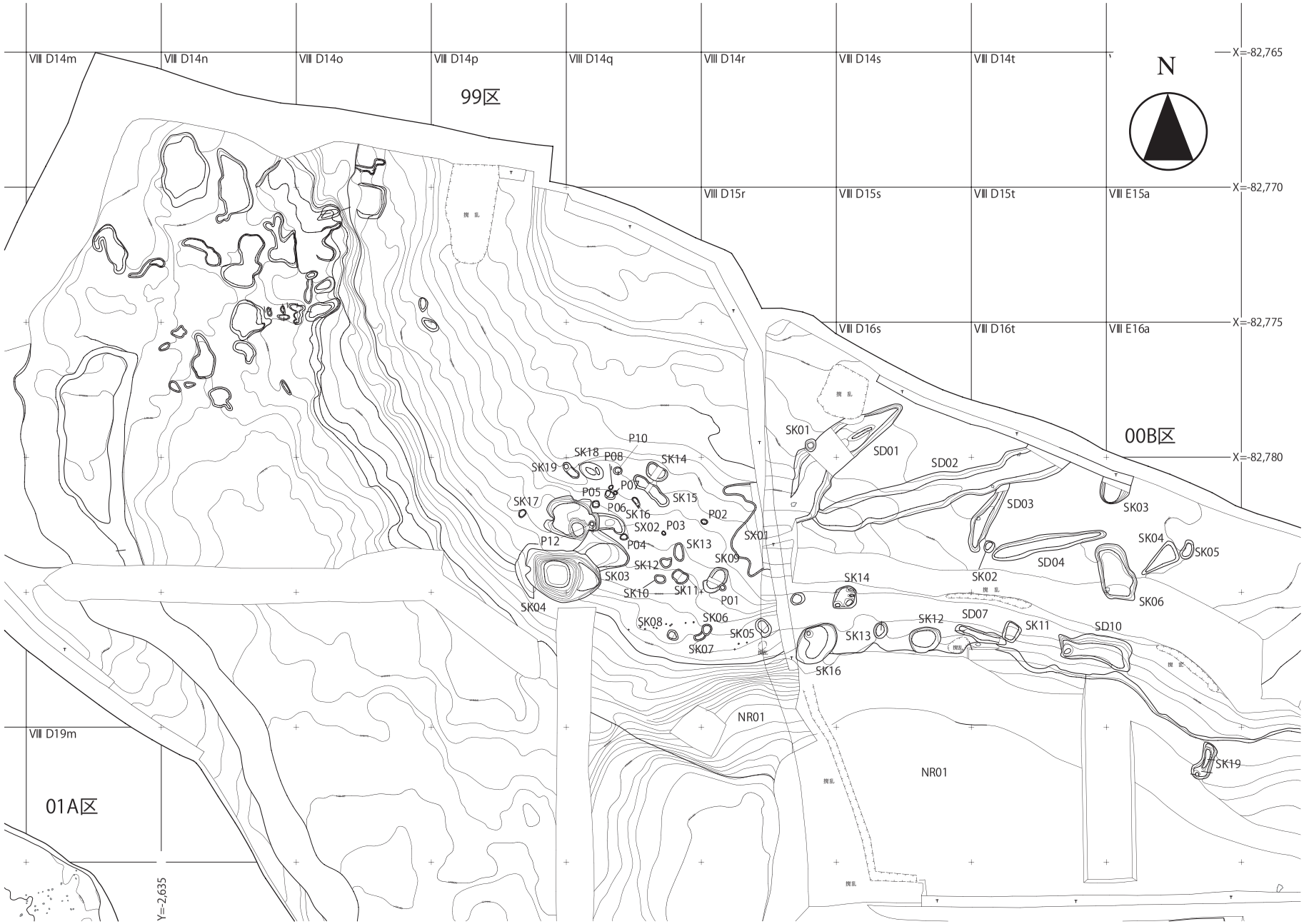
基本平面図　割付図


X=-82,800
Y= -2,600
Y= -2,500
Y=-2,400
N
平面図１
平面図２
平面図３
平面図４
平面図５
平面図６
平面図７
平面図８
平面図９
平面図10
平面図11
平面図12
99区
00B区
01A区
01B区
01C区
01D区
02A区
00A区
02C区
02Bb区
023a区


99区
01A区
N
SD03
SK02
SD02
SK01
Ⅷ D16f
Ⅷ D16g
Ⅷ D16h
Ⅷ D16i
Ⅷ D16j
Ⅷ D16k
Ⅷ D16l
Ⅷ D17g
Ⅷ D17h
Ⅷ D17i
Ⅷ D17j
Ⅷ D17k
Ⅷ D18f
Ⅷ D18g
Ⅷ D18h
Ⅷ D18i
Ⅷ D18j
Ⅷ D18k
Ⅷ D18l
Ⅷ D19f
Ⅷ D19g
Ⅷ D19h
Ⅷ D19i
Ⅷ D19j
Ⅷ D19l
Ⅷ D19m
Ⅷ D20f
Ⅷ D20g
Ⅷ D20h
Ⅷ D20i
Ⅷ D20n
IXD1f
IXD1g
IXD1h
IXD1n
Y=-2,675
Y=-2,670
Y=-2,665
Y=-2,630

基本土層図　1

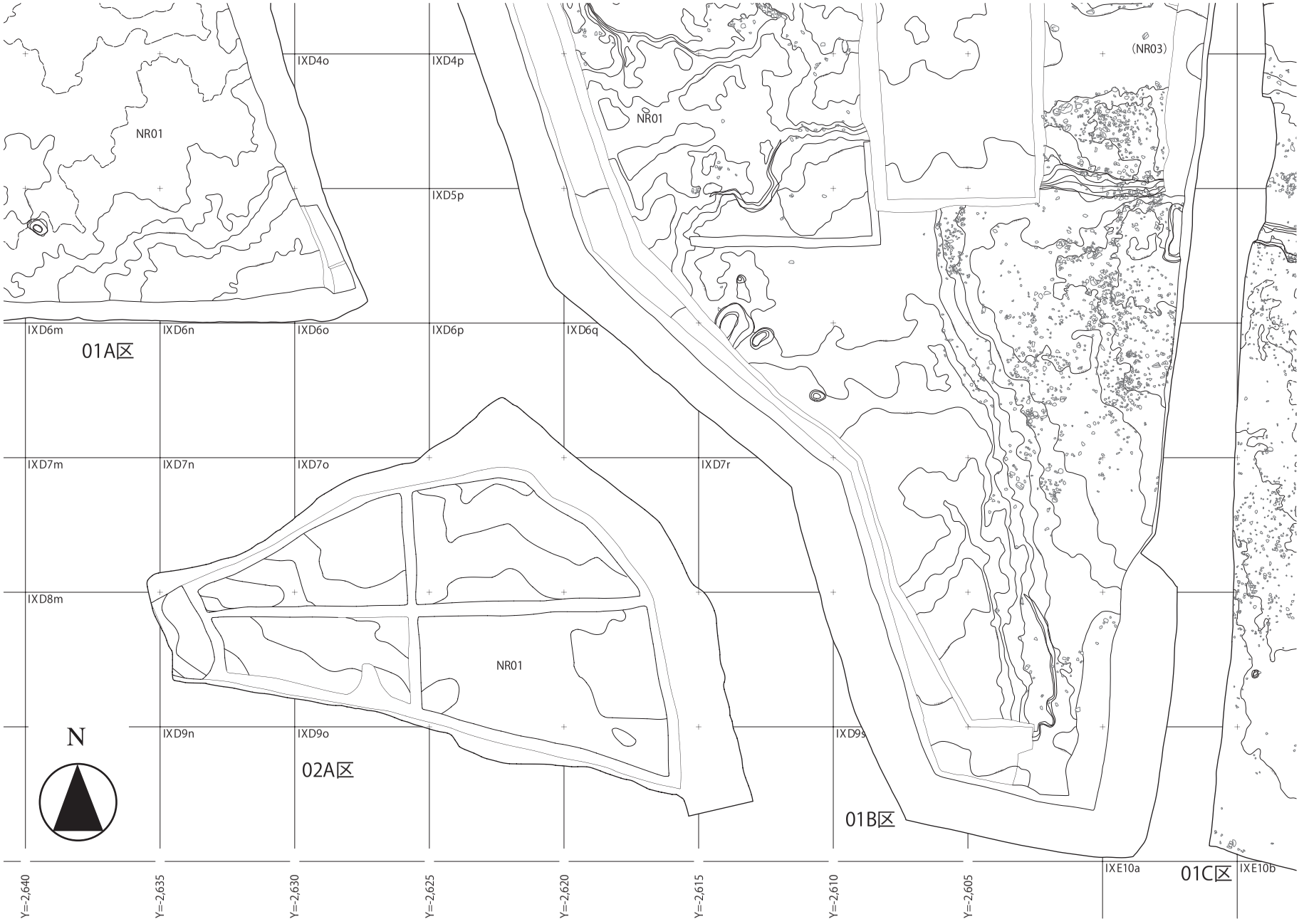

N
IXD2f
IXD2g
IXD3g
IXD4f
IXD4g
IXD4o
IXD5f
IXD5g
IXD6f
IXD6g
IXD6m
IXD6n
IXD6o
IXD7f
IXD7g
IXD7l
IXD7m
IXD7n
IXD8i
X=-82,805
X=-82,810
X=-82,830
Y=-2,675
Y=-2,670
Y=-2,655
Y=-2,650
Y=-2,645
Y=-2,640
SK01
SD01
SD06
SD04
SD02
SD05
SD07
SX01
SK03
SX02
01A区
02A区


Ⅷ D14m
Ⅷ D14n
Ⅷ D14o
Ⅷ D14p
Ⅷ D14q
Ⅷ D14r
Ⅷ D14s
Ⅷ D14t
99区
N
X=-82,765
Ⅷ D15r
Ⅷ D15s
Ⅷ D15t
Ⅷ E15a
X=-82,770
Ⅷ D16s
Ⅷ D16t
Ⅷ E16a
X=-82,775
00B区
X=-82,780
SK01
SD01
SD02
SD03
SK03
SK04
SK05
SD04
SK02
SK06
SK14
SK12
SD07
SK11
SD10
SK13
SK16
SK19
NR01
P10
SK18
P08
SK14
SK19
P07
P05
SK15
SK17
P06
SK16
P02
SX02
P03
SX01
P12
P04
SK13
SK09
SK12
SK03
SK11
P01
SK10
SK04
SK06
SK08
SK05
SK07
Ⅷ D19m
01A区
Y=-2,635

基本土層図　3

基本平面図　4

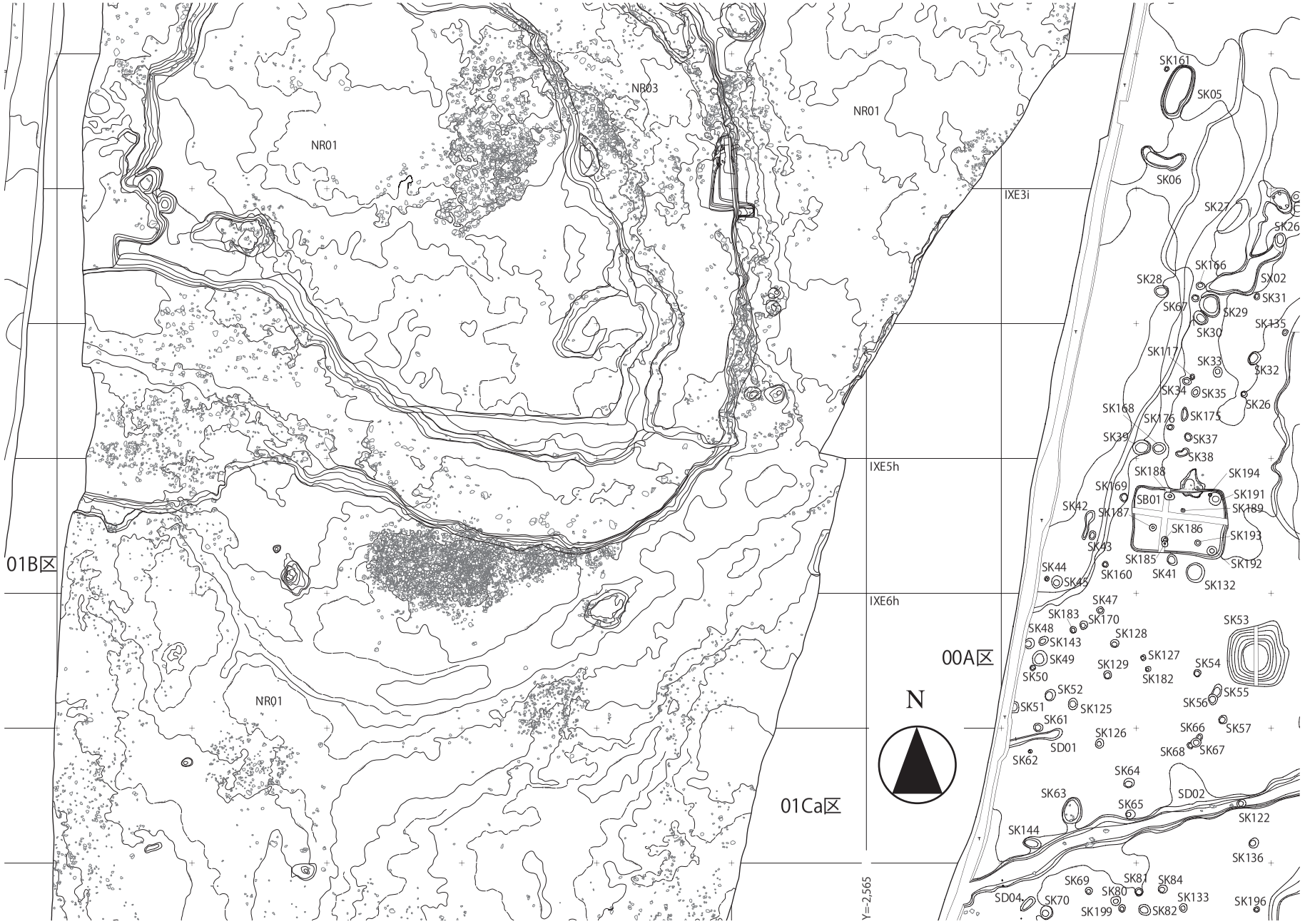
SK19
00B区
NR01
NR01
NR01
NR01
IXE2b
Y=-2,595
Y=-2,625
IXD4p
01B区
N
IXD2o
IXD3o
IXD4o
01A区
VIII D20n
IXD1n
99区
VIII D19m


IXD4o
IXD4p
IXD5p
IXD6m
IXD6n
IXD6o
IXD6p
IXD6q
IXD7m
IXD7n
IXD7o
IXD7r
IXD8m
IXD9n
IXD9o
IXD9s
IXE10a
IXE10b
NR01
NR01
(NR03)
NR01
01A区
02A区
01B区
01C区
N
Y=-2,640
Y=-2,635
Y=-2,630
Y=-2,625
Y=-2,620
Y=-2,615
Y=-2,610
Y=-2,605

基本土層図　5

基本平面図 6

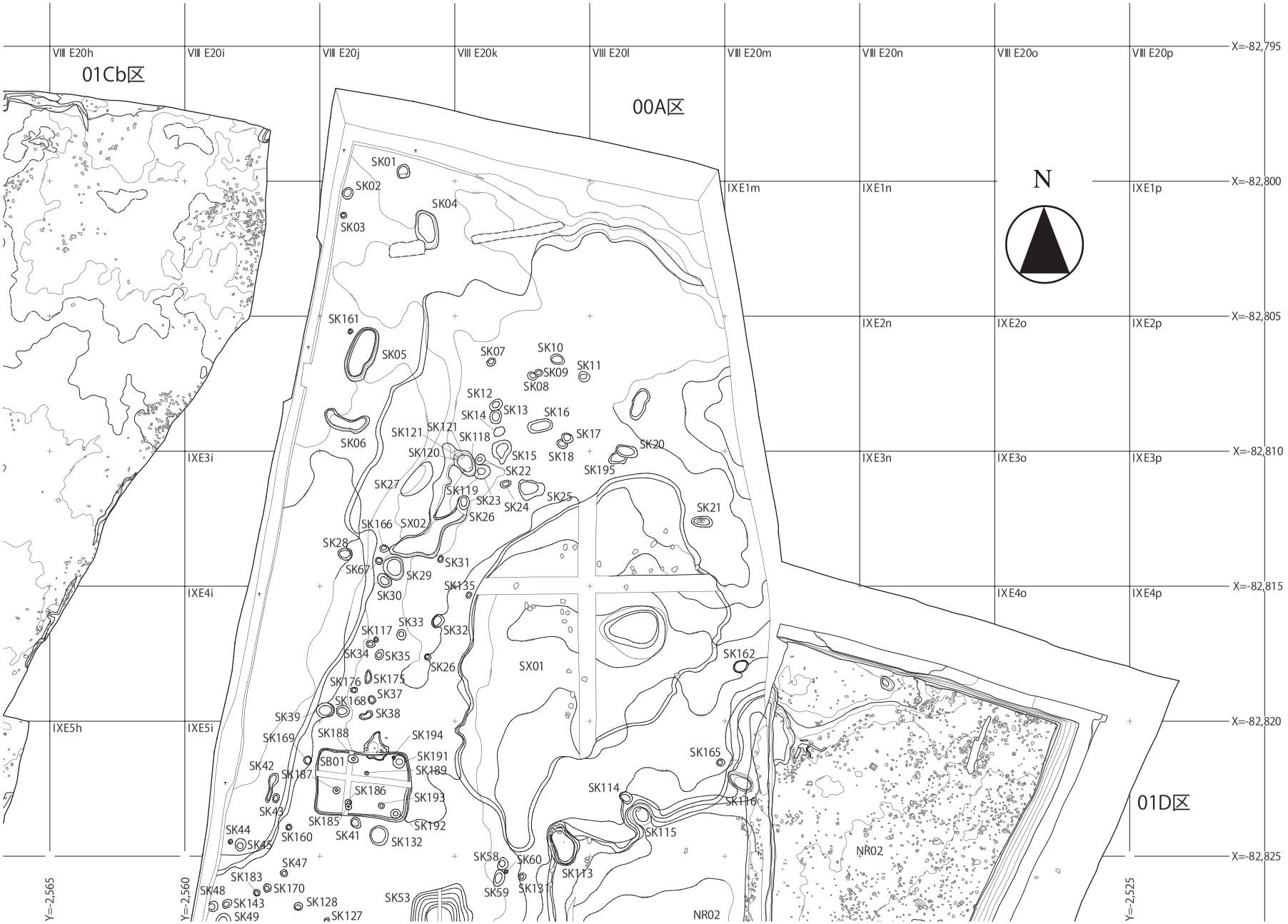
X=-82,780
X=-82,785
X=-82,790
X=-82,795
N
VII E17b
VII E17c
VII E17d
VII E17e
VII E17f
VII E17g
VII E17h
VII E17i
VII E18e
VII E18f
VII E18g
VII E18h
VII E18i
VII E18j
VII E19e
VII E19f
VII E19g
VII E19h
VII E19i
VII E19j
VII E20f
VII E20g
VII E20h
VII E20i
VIII E20j
00B区
01Cb区
00A区
SK05
SK07
SK17
SK18
SK08
SK09
SD05
SD08
SK19
NR01
NR03
SK01
SK02
SK03
SK04
SK161
SK05
SK06
SK121
SK120
SK118
SK27
SK26
Y=-2,595
Y=-2,560


01B区
01Ca区
00A区
NR01
NR03
IXE3i
IXE5h
IXE6h
N
Y=-2,565
SK161
SK05
SK06
SK27
SK26
SK166
SK28
SK02
SK31
SK67
SK29
SK30
SK135
SK117
SK33
SK32
SK34
SK35
SK26
SK168
SK176
SK175
SK39
SK37
SK38
SK188
SK194
SK169
SK191
SB01
SK189
SK42
SK187
SK186
SK193
SK43
SK185
SKT92
SK44
SK45
SK160
SK41
SK132
SK47
SK183
SK170
SK53
SK48
SK143
SK128
SK49
SK129
SK127
SK54
SK50
SK182
SK52
SK55
SK51
SK125
SK56
SK61
SK126
SK66
SK57
SD01
SK68
SK67
SK62
SK64
SK63
SK65
SD02
SK122
SK144
SK136
SK69
SK81
SK84
SD04
SK70
SK80
SK133
SK199
SK82
SK196

基本土層図　7

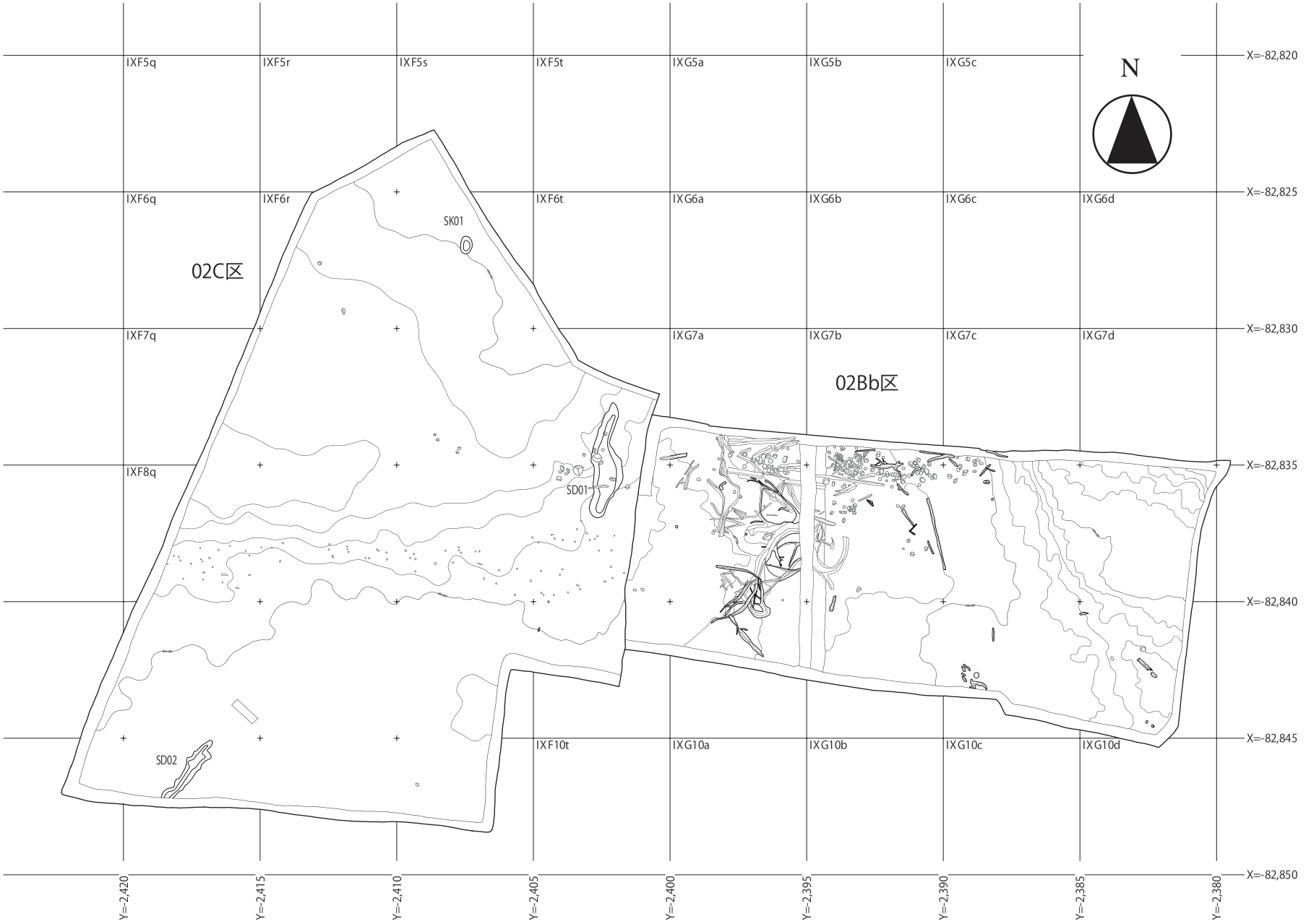
基本平面図 8

00A区
01Ca区
N
X=-82,855
X=-82,860
Y=-2,555
Y=-2,560
Y=-2,565
Y=-2,570
Y=-2,575
Y=-2,580
Y=-2,585
Y=-2,590
Y=-2,595
IXE7h
IXE8h
IXE9g
IXE10g
IXE11g
IXE12h
IXE12i
IXE12j
IXE12g
IXE12f
IXE12e
IXE12d
IXE12c
IXE11e
IXE11d
IXE11c
IXE11b
IXE10b
SK01
SK02
SK03
SK04
SK05
SK06
SK07
SK08
SK09
SK10
SK11
NR01
SD01
SD02
SD04
SK51
SK52
SK53
SK55
SK56
SK57
SK61
SK62
SK63
SK64
SK65
SK66
SK67
SK68
SK69
SK70
SK72
SK73
SK74
SK75
SK76
SK77
SK78
SK79
SK80
SK81
SK82
SK83
SK84
SK85
SK92
SK93
SK94
SK95
SK96
SK97
SK98
SK99
SK100
SK101
SK102
SK103
SK104
SK105
SK106
SK107
SK108
SK109
SK110
SK111
SK112
SK120
SK121
SK122
SK123
SK124
SK125
SK126
SK130
SK131
SK132
SK133
SK134
SK136
SK137
SK138
SK139
SK140
SK141
SK142
SK144
SK145
SK146
SK147
SK148
SK149
SK150
SK151
SK152
SK153
SK154
SK155
SK156
SK159
SK164
SK171
SK172
SK173
SK177
SK178
SK179
SK180
SK181
SK183
SK184
SK196
SK197
SK198
SK199
SK200

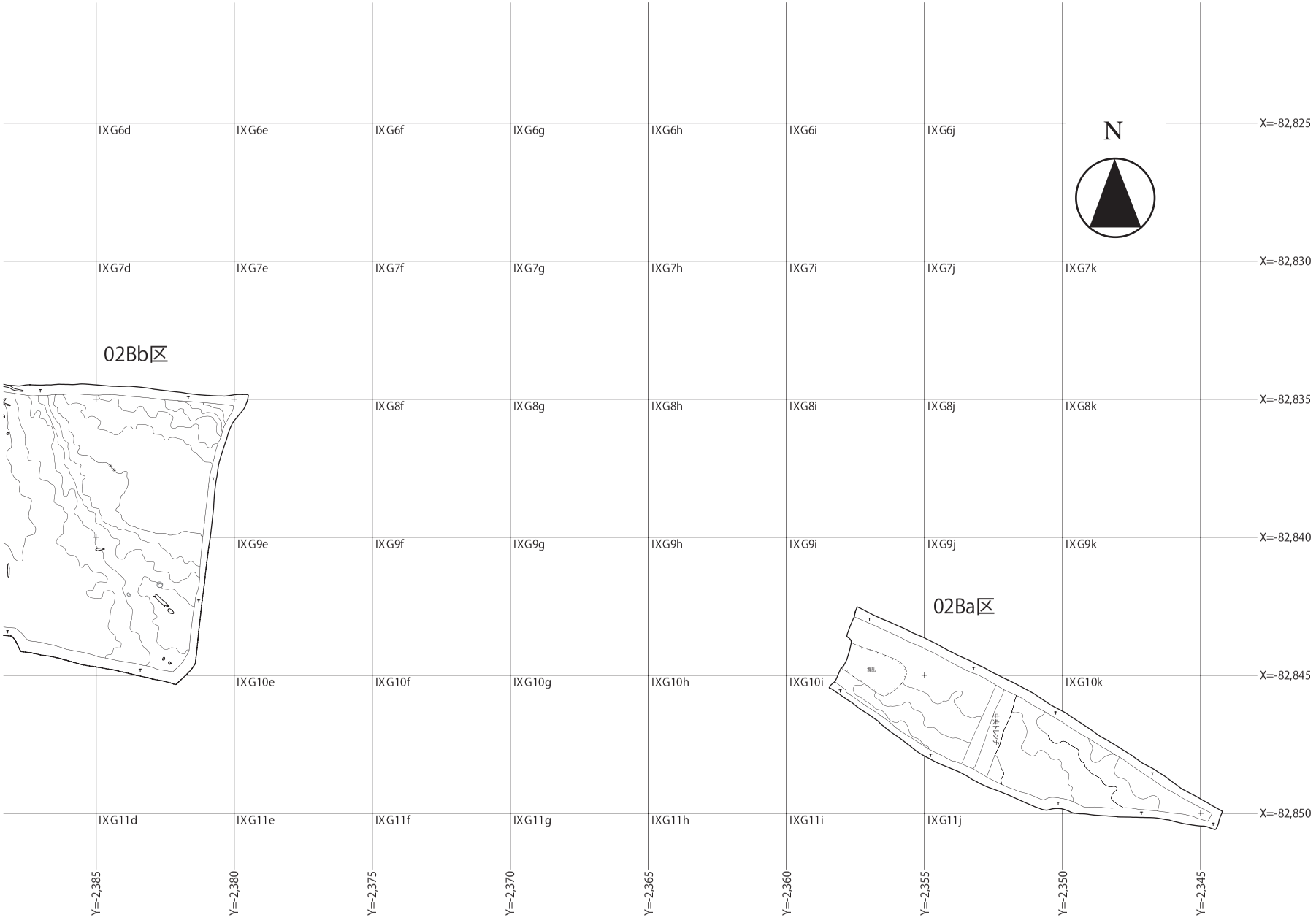

01Cb区
00A区
01D区
N
VIII E20h
VIII E20i
VIII E20j
VIII E20k
VIII E20l
VIII E20m
VIII E20n
VIII E20o
VIII E20p
X=-82,795
X=-82,800
X=-82,805
X=-82,810
X=-82,815
X=-82,820
X=-82,825
IXE1m
IXE1n
IXE1p
IXE2n
IXE2o
IXE2p
IXE3i
IXE3n
IXE3o
IXE3p
IXE4i
IXE4o
IXE4p
IXE5h
IXE5i
Y=-2,565
Y=-2,560
Y=-2,525
SK01
SK02
SK03
SK04
SK161
SK05
SK06
SK07
SK10
SK09
SK11
SK08
SK12
SK14
SK13
SK16
SK121
SK118
SK17
SK15
SK18
SK20
SK120
SK22
SK195
SK27
SK119
SK23
SK24
SK25
SK21
SK166
SX02
SK26
SK28
SK67
SK31
SK29
SK30
SK135
SK33
SK32
SK117
SK34
SK35
SK26
SX01
SK162
SK176
SK175
SK37
SK168
SK38
SK39
SK169
SK188
SK194
SK191
SB01
SK189
SK42
SK187
SK186
SK193
SK43
SK185
SK192
SK44
SK160
SK41
SK132
SK45
SK47
SK183
SK48
SK170
SK143
SK128
SK49
SK127
SK53
SK58
SK60
SK59
SK131
SK113
NR02
SK165
SK114
SK116
SK115
NR02

基本土層図　6

01C区
01D区
00A区
IXE5h
IXE5i
IXE6h
IXE6i
IXE7h
IXE8h
IXE9h
IXE10h
IXE6p
IXE7p
IXE8o
IXE8p
IXE9n
IXE9o
IXE9p
IXE10n
IXE10p
X=-82,820
X=-82,825
X=-82,830
X=-82,835
X=-82,840
X=-82,845
X=-82,850
Y=-2,545
Y=-2,540
Y=-2,535
Y=-2,530
Y=-2,525
N
NR02
SK26
SX01
SK175
SK176
SK37
SK168
SK38
SK39
SK188
SK169
SK194
SK191
SK189
SB01
SK42
SK187
SK186
SK193
SK43
SK185
SK192
SK44
SK160
SK41
SK132
SK45
SK47
SK183
SK48
SK170
SK53
SK143
SK128
SK49
SK127
SK182
SK54
SK50
SK129
SK55
SK56
SK52
SK51
SK125
SK57
SK61
SK126
SK66
SD01
SK68
SK67
SK62
SK64
SD02
SK63
SK65
SK122
SK144
SK136
SK69
SK81
SK84
SK80
SK133
SK196
SD04
SK70
SK72
SK82
SK179
SK177
SK199
SK73
SK178
SK71
SK76
SK83
SK134
SK142
SK85
SK74
SK77
SK75
SK200
SK184
SK180
SK181
SK171
SK130
SK78
SK198
SK183
SK79
SK146
SK145
SK97
SK96
SX03
SK172
SK173
SK86
SK87
SD05
SK174
SK164
SK147
SK105
SK104
SK98
SK106
SK99
SK123
SK88
SK152
SK108
SK107
SK124
SK94
SK139
SK100
SK150
SK149
SK102
SK101
SK89
SK148
SK109
SK153
SK197
SK151
SK111
SK93
SK158
SK103
SK138
SD03
SK110
SK112
SK95
SX04
SK157
SK90
SK159
SK137
SK154
SK141
SK92
SK91
SK155
SK156
SK140
SK165
SK114
SK116
SK115
SK58
SK60
SK113
SK59
SK131


IXF5q
IXF5r
IXF5s
IXF5t
IXG5a
IXG5b
IXG5c
IXF6q
IXF6r
IXF6t
IXG6a
IXG6b
IXG6c
IXG6d
IXF7q
IXG7a
IXG7b
IXG7c
IXG7d
IXF8q
IXF10t
IXG10a
IXG10b
IXG10c
IXG10d
X=-82,820
X=-82,825
X=-82,830
X=-82,835
X=-82,840
X=-82,845
X=-82,850
Y=-2,420
Y=-2,415
Y=-2,410
Y=-2,405
Y=-2,400
Y=-2,395
Y=-2,390
Y=-2,385
Y=-2,380
N
02C区
02Bb区
SK01
SD01
SD02

基本土層図　11


N
IXG6d
IXG6e
IXG6f
IXG6g
IXG6h
IXG6i
IXG6j
IXG7d
IXG7e
IXG7f
IXG7g
IXG7h
IXG7i
IXG7j
IXG7k
IXG8f
IXG8g
IXG8h
IXG8i
IXG8j
IXG8k
IXG9e
IXG9f
IXG9g
IXG9h
IXG9i
IXG9j
IXG9k
IXG10e
IXG10f
IXG10g
IXG10h
IXG10i
IXG10k
IXG11d
IXG11e
IXG11f
IXG11g
IXG11h
IXG11i
IXG11j
X=-82,825
X=-82,830
X=-82,835
X=-82,840
X=-82,845
X=-82,850
Y=-2,385
Y=-2,380
Y=-2,375
Y=-2,370
Y=-2,365
Y=-2,360
Y=-2,355
Y=-2,350
Y=-2,345
02Bb区
02Ba区

1,2 調査前風景

99,00,01 調査範囲周辺

99,00,01 調査範囲をのぞむ　東から

（3 調査前，4 草刈り、フェンス設置時）

東方に桑下城跡をのぞむ　5

北東方向，現蟹川の上流　6

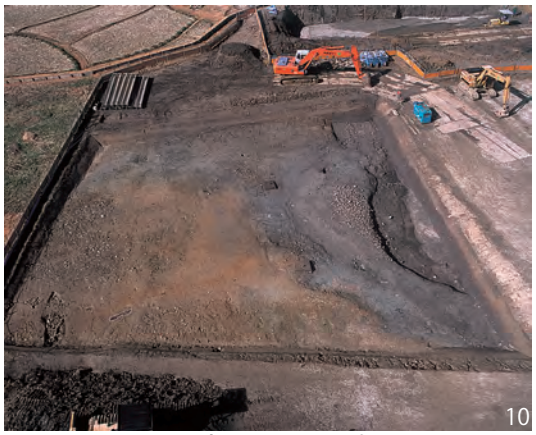
南西方向，丘陵端に上品野遺跡をのぞむ　7

01A 区全景 (NR01)　東から

00B 区全景 (NR01)　東から

01B 区全景　東から

01Cb 区全景 (NR01,03)　南から



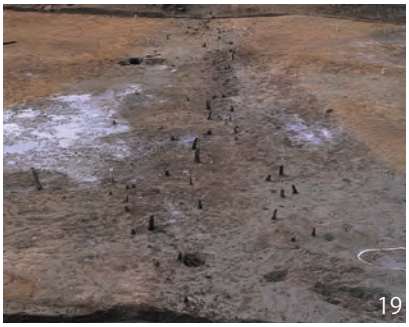
01Ca 区全景 (NR03)　東から

01Cb 区近景 (NR01,03)　南から

01Ca 区　礫層露出部分

01D 区全景 (NR02)　北から

16　02B 区東半全景　西から
17　自然木集中地点



18　02B 区西半全景　南から
19　杭列検出状況　東から

01A 区溝状落込み（SD01）完掘状況

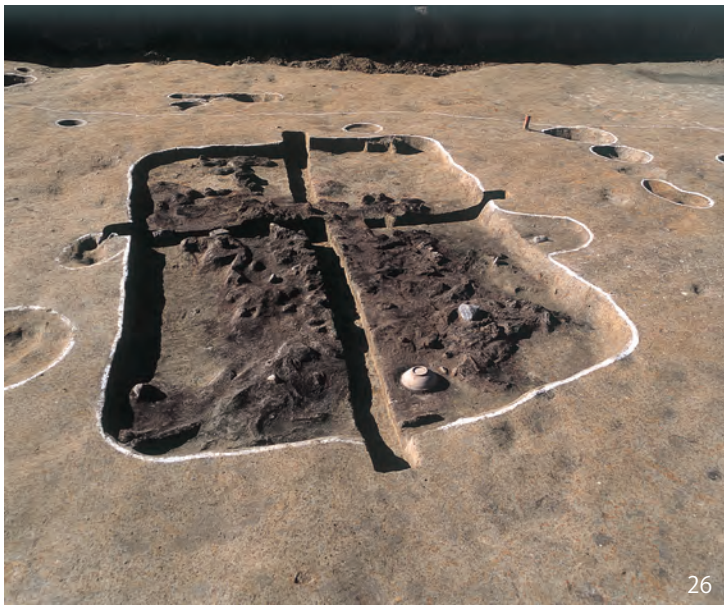
01B 区北壁土層断面

99 区全景北から

00A 区遠景　南西から

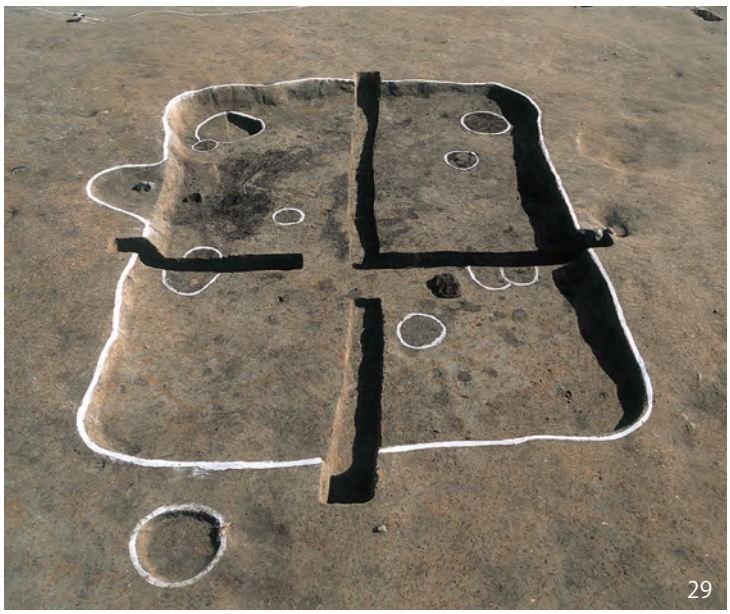
00A 区全景　北から
（中央右奥が竪穴建物、手前破線より右側は低くなっており、そのまま湿地、河川へとつづく）

00A 区部分　東から
（中央奥が竪穴建物、その左手前の土坑が SK53、左側に掘立柱建物の柱穴と思われる多数の小土坑が広がる）


26

27

28


29

竪穴建物（00A 区 SB01）
26,27,28
　屋根材と思われる炭化部材の
　検出状況
29
　完掘状況（カマド部分を除く）

30

31

00A 区廃棄土坑（SK53）　30 遺物出土状況、　31 土層断面

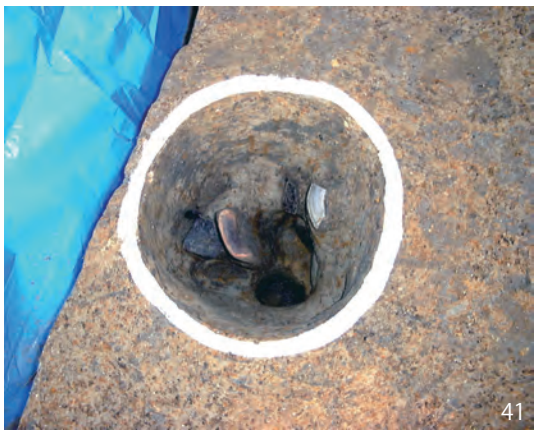
竪穴建物カマド部分（00A 区 SB01）
32 床面に分布する炭化物
33 カマド部分のトレンチ掘削
34 支脚の石材と土師器甕片　検出状況

01Ca 区土坑（SK01）
35 上層集石検出状況、
36 下層須恵器壺 , 灰釉陶器出土状況
37 完掘状況

00A 区土坑（SK107） 遺物出土状況

00A 区土坑（SK109） 遺物出土状況

00A 区土坑（SK125） 遺物出土状況



00A 区土坑（SK48） 遺物出土状況

99 区 土師器甕出土状況

01Cb 区河川流路（NR01,03）完掘状況

01Cb 区河川流路（NR03）木質遺物集中地点

01Cb 区河川流路 (NR03) 出土木製品

01B 区河川流路 (NR01) 出土　鉄鏃

01B 区河川流路 (NR01) 出土　鉄鏃

00B 区河川流路出土　灰釉陶器平瓶

01Cb 区河川流路 (NR01) 出土　木製品

01Cb 区河川流路出土「文室門」墨書須恵器

01Ca 区河川流路出土　墨書灰釉陶器椀

01Ca 区河川流路出土　古瀬戸平碗

02B 区河川流路出土　自然木加工痕

54

57

55

58

56

59

54　表土掘削
55 ～ 58　作業風景
59 ,60 遺跡見学会
61「文室門」墨書灰釉陶器

61

60

370

371

206

220

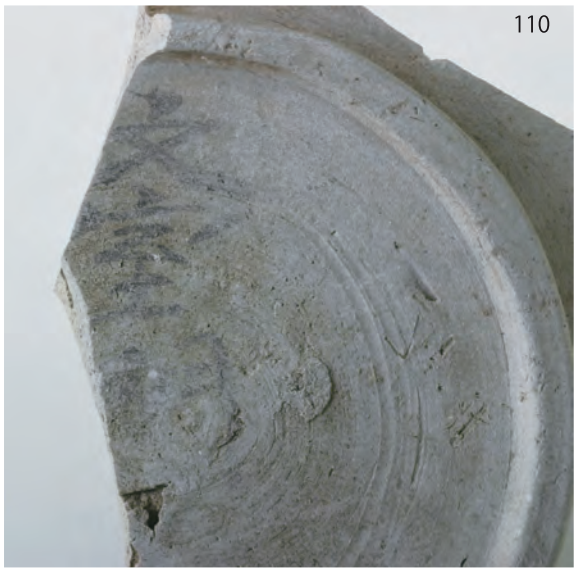
9

53

117

208

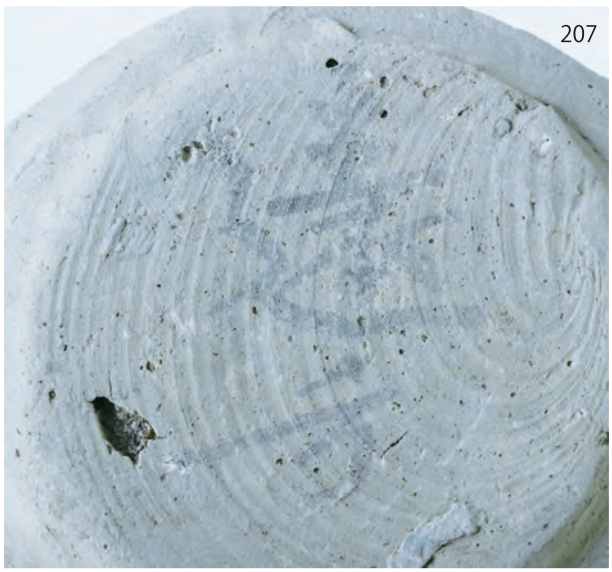
114


110

219

208

129


207

180

177

127

33

146

238

198

240

150

33

8

227

212

228

118

137

17

123

163

40

31

28

214

339

226

180

216

279

340

323

289

273

379

38

277

37

230

366

327

285

310

51

311

314

50

329

312

269

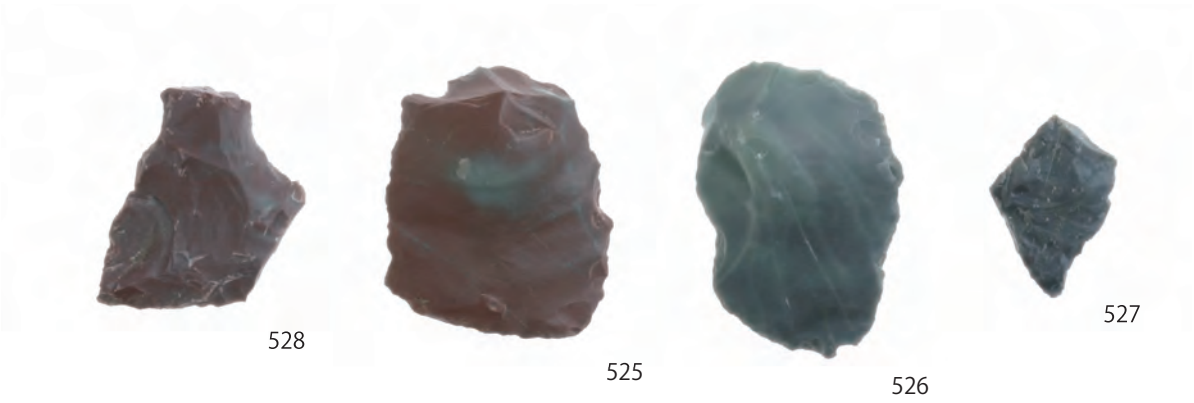
328

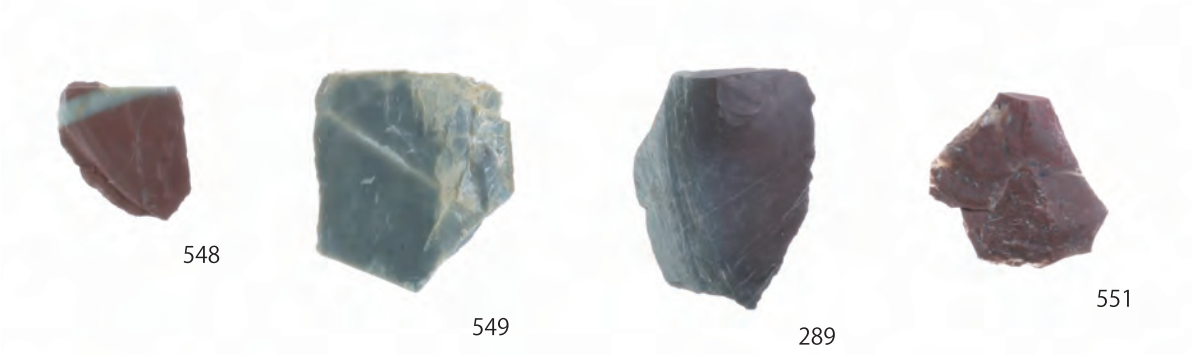
377

513

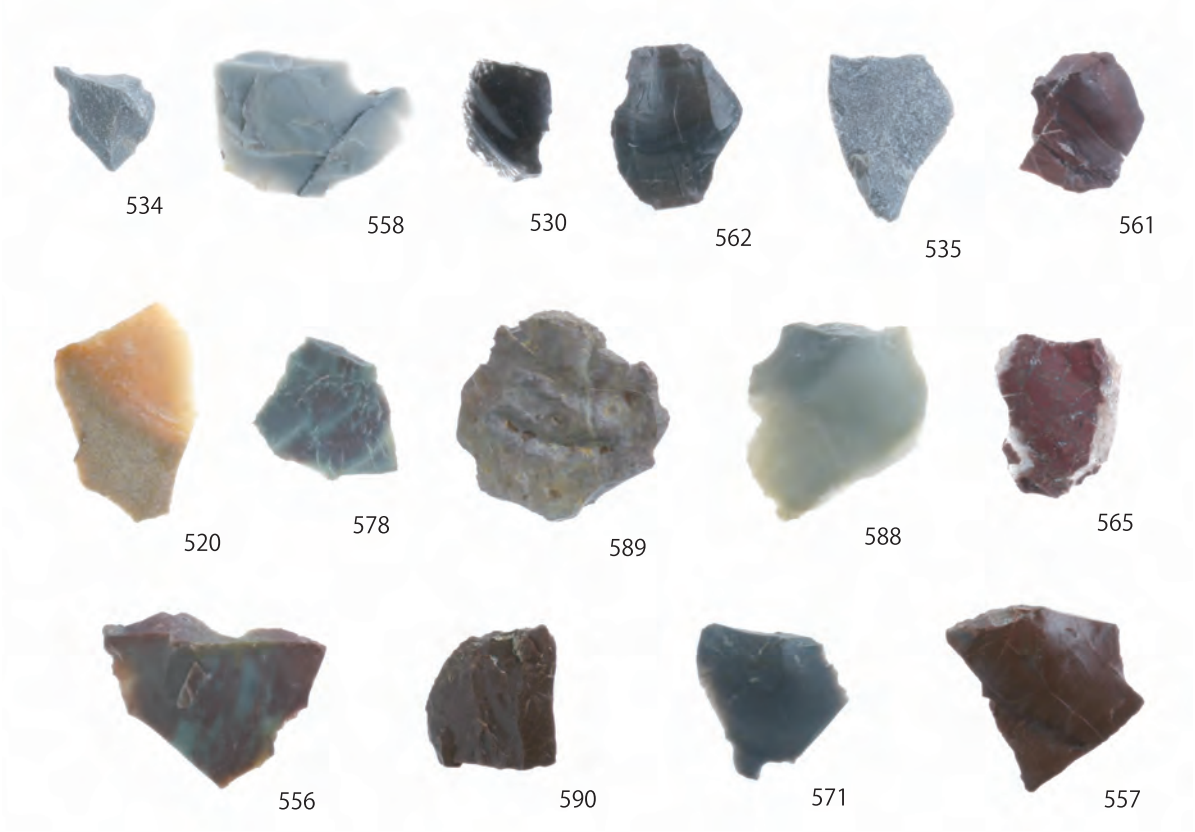
512

545
576
575
532
514
515
518
516
517


528
525
526
527


548
549
289
551

550
552
554
553
523
524


534
558
530
562
535
561
520
578
589
588
565
556
590
571
557

542
541
543
540
529
519
544
546
547
521
522

ふりがな	かみしなのかにかわいせき
書名	上品野蟹川遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第142集
編著者名	武部真木(編集)・鬼頭　剛・川添和暁
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2008年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみしなのかにかわ 上品野蟹川	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	030737	35度 15分 22秒 (世界測地系による)	137度 8分 11秒	2000.1～3 2000.10～12 2001.10～ 2002.3 2002.8 2003.1～3	10,359	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上品野蟹川遺跡	集落	平安時代 鎌倉時代	竪穴住居・土坑・ 自然流路	灰釉陶器・土師器 瀬戸・美濃産陶器	墨書灰釉陶器

文書番号	発掘届出(11埋セ第198-2号,第163-2号, 13埋セ第82号,14埋セ第59号) 通知(12教文第61-5号,12教生第216-36号,13教生第36-16号,14教生第72-7号) 終了届(12埋セ第49-8号,12埋文セ第197号,13埋セ第186号14埋セ第183号) 発見届・保管証(12埋セ第48-8号,12埋文セ第197号,13埋セ第186号14埋セ第183号) 監査結果通知(12教文第61-5号,12教生第216-36号,13教生第36-16号,14教生第72-7号)
要約	河川流路に囲まれた中洲上の微高地に営まれた9世紀代の集落の周辺部。河川堆積層から、K-14～K-90号窯式期に属する須恵器・灰釉陶器に「文室門」をはじめとする墨書を多数を確認した。

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第142集

上品野蟹川遺跡（かみしなのかにかわいせき）

2008年3月31日

編集・発行　財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印　　刷　新日本法規出版株式会社